２００８年度都城市立図書館委託事業

都城市立図書館所蔵「上原文庫」調査報告書

－その現状と今後の修復・保存の方向性について－

山崎　有恒

（立命館大学文学部）

目　　次

都城市立図書館所蔵「上原文庫」調査報告書・・・・・・・・・・・・・1

「上原文庫」Ａ文書（図書館システム登録分）ランク別解説・・・・・9

「上原文庫」Ｂ文書、重要度ランク付き目録・・・・・・・・・・・・88

宮崎県都城市立図書館所蔵「上原文庫」調査報告書

山崎　有恒
（立命館大学文学部准教授）

１．「上原文庫」の概要

都城市立図書館所蔵「上原文庫」は、明治・大正・昭和期の陸軍軍人上原勇作が旧蔵していた蔵書類を中心とした書籍コレクションである。明治 45 年に郷土出身で初めて陸軍大臣となった上原勇作の祝宴の場で、郷土の子弟教育に資する文庫の創設が企画され、都城老中馬場にあった旧小牧家の土地屋敷を購入し、上原の蔵書類を中心として大正 3 年 9 月 20 日に文庫開館式典が挙行（開館は翌日から）された。大正 6 年には同敷地内に新設された宮崎県立都城図書館へ移管され、その後市民からの寄贈本なども加えて拡充され、やがて都城市立図書館に受け継がれて現在に至っている。

上原勇作についての略歴も簡単に紹介しておきたい。上原勇作は、安政３年鹿児島藩士の子として誕生した。明治 12 年に陸軍士官学校に進み、明治 14 年にはフランスへ留学、フランス陸軍を範として工兵の創設に尽力、「日本工兵の父」と称された。明治 45 年に第二次西園寺公望内閣の陸軍大臣に就任して、陸軍二個師団増設案を提出、それが受け入れられずに辞任、同内閣を総辞職に追い込んだエピソードは有名である。陸軍大臣、参謀総長、教育総監のいわゆる陸軍三長官をすべて歴任するなど陸軍薩摩閥の重鎮として活躍し、昭和８年に死去している。

このように最上級の陸軍軍人として活躍した人物の個人史料群は、たとえば「桂太郎関係文書」、「田中義一関係文書」のように他にも存在してはいるが、その多くは日記や書翰など政治的に重要と思われる史料のみが本来の蔵書から抜き出されて保存されているものであり、蔵書のすべてがそのまま保存される形で現代に受け継がれているというコレクションは類例がなく、学術的にきわめて貴重なものである。

なお、上原勇作の関係史料の内、政治史的に特に重要なもの（書翰、メモ、書類など）については、経緯は不明であるが、首都大学東京図書館に所蔵されており、その主要部分については上原勇作関係文書研究会編により、『上原勇作関係文書』全三巻（東京大学出版会、1976 年）にまとめられている。「上原文庫」中にはこうした史料が存在していないため、本文庫を利用される方は、合わせて同関係文書を参照されると良い。

また都城市立図書館所蔵の「上原文庫」については、広島大学内海文化研究所研究員の妹尾好信氏が、主として和装図書についての紹介を行った「都城市立図書館所蔵和書分類目録」（『内海文化研究紀要』第 28 号、2000 年 3 月）、九州大学大学院有馬学教授の研究グループが主として同文庫中の軍事雑誌に関する紹介を行った『日本陸海軍に関する軍事啓

蒙雑誌の調査研究』（科学研究費補助金報告書、2005 年 3 月）があり、合わせて参照されたい。

さてこのように学術的にきわめて重要な意味を持つ「上原文庫」であるが、以下の三つの点において、大きな問題を抱えている。

第一に、保存状態・保管状態がきわめて悪く、史料の劣化が著しい。長年湿度が一定に保たれてこなかった影響で、乾燥した史料群がぼろぼろに崩れ、もはや紙片と化してしまっているケースも少なくない。こうした劣化史料群については、徹底した修復を行うという方法もあるが、むしろ後述するようにすべてをデジタル画像化し、原本については湿度や温度が一定に管理された倉庫に保管する方が、より有効な対処法であるように思われる。

第二に、史料がほとんど系統的な整理をされておらず、現状のままでの利用には、大きな困難がともなう。分類番号もまちまちであり、今回の調査の結果、図書館にシステム登録されていない史料も数千点確認された。これらを統一した基準で分類し、図書番号を打ち直す作業が早急に必要と考えられる。またかつて同文庫を整理した際に、ラベルが表紙に直接貼られ、しかも文章の一部を覆う形での貼付が目立つ。貼り直す際の破損も危惧されるが、なるべくなら貼り替え、少なくとも今後貼るものについては、そうした取り扱いのないように注意する必要があると思われる。

第三に、上原の蔵書類とそれ以外の市民からの寄贈書が混在していることが、同文庫の価値を大きく減少させていることも指摘しておかなければならない。これについては、なかなか原状に戻って、両者を区分していくことは困難であるが、少なくとも文庫創設時から存在していた明治期の図書・史料類と、それ以降の出版年のものは類別した上で、今後の整理作業をしていくべきである。

以上三点の課題について指摘したが、2008 年度こうした問題に対処していくための第一段階として、都城市立図書館より本報告書の執筆者山崎有恒に対して、上原文庫の現状についての調査が依頼された。以下、２．調査の経過・概要、３．調査結果と今後の修復・保存の方向性について、４．システム登録分以外の史料について、の順に記載を行い、各図書史料についての解題・解説、および貴重性のランク表示は、別途まとめて記載することとする。

２．調査の経過・概要

（1）第一次調査

2008 年度宮崎県都城市立図書館寄託事業、上原文庫貴重書調査の第一次現地調査・ならびに整理作業は、2008 年 8 月 7 日から 8 月 22 日にかけて、都城市立図書館三階の一室を使用して行われた。

メンバーは、山崎有恒（立命館大学文学部准教授）をリーダーとし、奈良勝司（立命館大学文学部非常勤講師)、藤野真挙（立命館大学大学院博士課程後期課程二年）の三名が主

として担当した。これを稲田健一郎（立命館大学文学部ＯＢ）、石川ゆか（立命館大学文学部四回生）、松田郁美（立命館大学文学部四回生）、和田美紀（立命館大学文学部三回生）が、適宜サポートするという体制で進められた。事前の準備作業には、朝田健太（立命館大学大学院博士課程前期課程一年）が参加した。

作業の経過は以下の通りである。

第一段階としては、上原文庫の現状を確認、把握し、今後の整理作業の段取りを考えることを目的に作業を行った。本作業開始以前に、都城図書館より上原文庫の目録をオンライン情報として得ており、まずこのリストと実際に所蔵されている史料群との照合から作業を開始した。ところが実際に書庫内の状況を確認してみると、思いがけない事態に遭遇し、いくつかの問題点が浮上した。

第一に、目録に記載されていない図書類が二千点近く存在した。その多くは状態が悪く、装丁がぼろぼろで、中にはほとんど紙片レベルにまで解体してしまっているものも多数存在していた。指で触るだけで、細かな紙片に崩れ落ちるものもあり、その扱いをどうするかが大きな問題となった。本報告書ではこれら状態の劣化した、非目録掲載史料群のことを「Ｂ文書」と仮称する。

第二に、目録に掲載されている 4,453 冊の蔵書（以下これを「Ａ文書」と仮称する）にも、二種類の区別があり、いわゆるＵ文書とＵＨ文書とに分かれて分類番号が打たれているため、その処理をどうするかが問題点となった。同一のタイトルを持つ史料群が、ＵとＵＨに分かれて所蔵されている場合もあり、それをどう処理していくかについては議論が百出した。後述するように、この二文書については可及的速やかに、統合して蔵書番号を打ち直す必要があるだろう。ちなみにＵとＵＨの区分に関しては、九州大学有馬学教授の執筆された科研費報告書の解題に、Ｕは「上原」の略で、ＵＨは「上原廃棄」の略記号であると書かれていたが、後の調査でそれは必ずしも事実でないことが判明した。それについては項を改めて詳述する。

さてこの第 1 段階における作業を経て、第 2 段階の作業をどうしていくかについて検討を行った結果、Ｂ文書の劣化が著しいため、まずは当初より所在の判明していた四千点余の目録掲載史料群（Ａ文書）の整理から開始すること、Ｂ文書については、Ａ文書の整理作業の進捗状況を確認しつつ、まずは全体の目録を作成する作業から開始する（第 3 段階）ことと方針を決めた。

この第 2 段階作業、すなわち目録掲載史料群（Ａ文書）の整理作業は、まずその書誌データを国会図書館の蔵書リストと照合することから開始した。そして、国会図書館に所蔵されてなく、書誌学的に重要と考えられる史料をリストアップした。作業の結果、これにあてはまる史料が合計で 1000 点余存在していることが分かった。次にこれら 1000 点余の図書・雑誌を、現物と照合しながら一点ずつ内容調査を行い、一方で全国の大学図書館、公共図書館の蔵書データベース（Nacsis Webcat）と照合した。照合結果については、全国の大学図書館、公共図書館に、上原文庫所蔵史料と同一のものがどれだけ多く所蔵されて

いるか、それらの史料が学術的にどれだけ重要なものであるか、などいくつかのファクターを踏まえ、1，とくに重要なもの、2，重要なもの、3，ある程度重要なもの、4，あまり重要ではないもの、の四つに分類した。それぞれの分類基準については、以下の通りである。

① とくに重要なもの（Aランク）～国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されておらず、全国でここ上原文庫だけでしか見られない図書・雑誌の内、学術的にも極めて貴重と考えられるもの。具体的には、①軍部の動向、実態、活動状況などについて多くの情報を得られると考えられるもの、②上原の郷土都城、そして薩摩・宮崎県の政治動向について豊富な知識を得られるもの、③上原個人について深く知ることの出来る史料などを重視して、ここに位置づけた。
② 重要なもの（Bランク）～国会図書館にも全国の大学図書館にもほとんど所蔵されておらず、1に次ぐ重要性を帯びていると考えられるもの。
③ ある程度重要なもの（Cランク）～国会図書館や全国の大学図書館にもほとんど所蔵されてはいないが、内容的に政治史・軍事史的な価値をあまり見出せないもの、または内容的には重要でありつつも、全国の大学図書館に所蔵されていて、書誌学的な価値をあまり見出せないもの、など。
④ あまり重要でないもの（Dランク）～国会図書館には存在しないが、内容的にも書誌学的にもさほど重要性を見出せないもの。

次にこの分類を踏まえて、一点ごとの内容を紹介していく作業を行った。特にAランク、Bランク図書については、少し丁寧に長めの解説を加えるよう努力した。逆にDランク図書については、大体の内容が分かる程度のひと言コメントのみを付した場合が多い。

以上の作業により、上原文庫所蔵の図書・雑誌類の内、他で見ることのできない貴重な史料をリストアップすることが出来、それぞれの重要度に応じて解説を付す作業も完全に終了した。

第 3 段階は、いわゆるB文書について一点ずつ目録を作成する作業に取り組んだ。とにかく図書の状態が極めて劣化しており、作業は困難を極めた。結果的に全体の約五割については、目録を作成し得たが、それ以外の史料については時間切れのため未遂となった。

（2）第二次調査の概要

都城市立図書館上原文庫の第二次調査は、2009 年 2 月 27 日から 3 月 2 日にかけて実施され、前回の史料調査で約半数しか作業が進まなかったB文書について、集中的に目録作成を行った。

メンバーとしては、前回に引き続き山崎有恒（立命館大学文学部准教授)、奈良勝司（立命館大学文学部非常勤講師)、藤野真挙（立命館大学大学院博士課程後期課程二年）が参加

した。

なお、第一次調査と第二次調査の間に、書庫の奥より上原文庫の一部と見られる書籍が約 500 点弱発見された。仮にこれを「C文書」と称するが、これについてはこの短期間の調査では一点ごとの詳細な内容について把握するには至らなかったため、ある程度の概要についてのみ付記することにする（「4（2）C文書について」を参照のこと）。

3．調査結果と今後の修復・保存の方向性について

本作業を通じて、上原文庫の持つ重要性、貴重さが様々な形で浮かび上がった。その要点を整理すると以下の通りとなる。

（1） 国会図書館、全国の大学図書館にも所蔵されていない、ここでしか見ることのできない奇観本・雑誌が多数含まれており、書誌学的見地から高い価値を有していると言える。

（2） トップクラスの陸軍軍人の蔵書コレクションが丸ごと保存されているという点で、全国的に見ても極めて珍しい史料群である。日記や書翰といった個人史料は含まれていないが、明治・大正期の高級軍人がどのような情報に囲まれて生活していたのかを知ることが出来る。

（ただし上原文庫には、当初上原が所蔵していた図書類だけではなく、後日収集されたものや、一般市民から寄贈されたものなども混入しているため、完全なる蔵書コレクションとは言い難い部分もある）

（3） 内容的には大正期を中心に、在郷軍人会も含め軍部・軍隊の諸活動が幅広く分かるという特徴がある。特に戦時ではなく、平時における軍隊の社会活動をうかがい知ることの出来る史料が多く含まれており、この分野の研究水準を大きく引き上げる基礎データとなることは間違いない。軍縮期、その存在が社会問題を引き起こす要因になるとして社会的に忌避された軍隊が、自らの存在が地域にとって重要な役割を果たしていることを示すために、様々な努力を重ねたことが窺える史料が多い。具体的には軍隊内での規律を高め、災害出動など様々な形で社会貢献のための活動を展開することによって地域に浸透しようとしていった過程が多くの史料から浮かび上がる。

（4） また旧薩摩藩の人的・地縁的結合が、明治から大正にかけてどのような形で引き継がれていったのかを物語る史料が多く含まれているため、郷土の歴史を考える上でも面白い史料が多い。たとえば島津奨学金に依拠して様々な施設が経営され、三州（薩摩・大隅・日向）の若者を東京での立身出世に導いていたことなどがいくつかの史料から浮かび上がる。同時に昭和初期あたりを境に、上原を取り巻く人脈が宮崎県というあらたな政治主体の中心になっていく過程も、いくつかの史料を通じて知ることが出来る。

こうした重要さを持つ貴重な史料群であるだけに、今後もぜひ都城市立図書館に長く保存し、全国の研究者や郷土史に関心を持つ市民に広く公開されるべき史料であると思われる。そのために図書館が今後取り組むべきと思われる課題について、以下に列挙・提言しておきたい。

（1）全体に紙質が低下し、状態が劣化しているものが数多く存在している。特にＵＨ記号系列の文書にはそうした状態の劣化したものが多く、またＢ文書に至ってはほとんどが崩壊寸前の状態にある。これらを損壊状態のひどいものから順次計画を立てて、修復していく作業が必要であろう。その際、今回の報告書がその優先度や史料としての重要度を考える役に立てば幸いである。

（2）分類記号がＵ記号系列とＵＨ記号系列に分かれており、さらにそれ以外に登録もされていないＢ文書があり、また 2009 年 2 月時の第二次調査において、書庫内にさらに多数の史料が存在していることが確認されている（Ｃ文書、その概要については下記４（2）を参照のこと)。さらに同一のタイトルを持つ史料でも、これらの事情により番号が大きくかけ離れて打たれているなど、現在の分類番号のあり方には大きな問題がある。全体の番号を統一した基準で打ち直していく作業が必要だろう。

（3）Ｂ文書については二度にわたる調査で、目録はほぼ完成に至った。その後国会図書館の蔵書リストおよび nacsis の webcat との照合を行い、その書誌学的重要度に関する簡単なランク付けまでは済ませてある。この内特にＡランク（国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重なもの）文書については、一点ごとの内容確認を行い解説を付していく作業が必要であると思われるが、これについては、今回の調査では及ばなかった。今後の課題としてあげておく。また史料の劣化が著しいものが多く、一刻も早くその修復に取りかかるべきであろうと思われる。ただしＢ文書の中には、劣化が著しくて修復不可能のものも多く含まれている。これらについては次に提唱するように、取り急ぎすべてデジタルカメラで撮影し、画像としてＣＤ－ＲＯＭかＤＶＤに焼き付けて保存するようにした方が良い。

（4）（3）ではＢ文書について述べたが、できれば全文書をデジタルカメラで撮影して画像化し、それをＣＤ－ＲＯＭかＤＶＤに取り込んで置くと良いと思われる。そうすれば、修復作業が途中であっても画像の形で公開することが可能であるし、遠方よりの依頼に対しては、画像をプリントアウトする、ないしは画像のままメール添付して送付することも出来て効率的だと思われる。費用的な問題で全部の史料については修復作業が行えない場合にも、史料は現状のまま保管して、公開・閲覧はすべてデジタル画像をもって行うというやり方も十分に可能である。なによりもこの方法は費用がほとんどかからないため、予算がなくてもすぐ作業に取りかかることが出来るというメリットもある。また画像化しておけば、ホームページなどで随時史料紹介を行うことも出来る。

４．システム登録分以外の史料について

（１）ＵＨ史料について

ＵＨ記号のラベルが貼られた数千点の史料が何を意味するのかについて、九州大学有馬学教授の書かれた科研費報告書の解説では、「ＵＨ」は「上原廃棄」の略記号であるとされている。

それは言葉の意味としては正しく、確かにH記号は「廃棄」を意味しているのであるが、今回の調査によって「廃棄」が「捨てる」ことを意味しているのではなく、利用度の低いと思われるものを、倉庫などに「別置する」ことを意味していたことがわかった。

「ＵＨ」ラベルが作成されるに至った経緯は以下の通りである。

上原文庫は明治 45 年に郷土出身で初めて陸軍大臣となった上原勇作を記念して企画され、郷土の子弟教育のために大正 3 年に開館、大正 6 年宮崎県立都城図書館に寄託された。その後市民からの寄贈本なども加えて拡充され、昭和 38 年当時では上原文庫全 6950 冊中 2947 冊が「ＵＨ」記号にカテゴリーされていたという。

さて当時「ＵＨ」ラベルの担当者だった人物の回顧メモに拠れば、「ＵＨ」ラベルが採用されたのは、昭和 29 年のことだったという。

その年上原文庫中の「利用度の低い」と考えられる書物について、「カードを作らず、分類簿にだけ百区分で書名を記入、全体的な通しナンバーと分類別の番号をつけ、Hの記号をつけたラベルをはる」作業を行い、「分類番号順にひもでくくって市の倉庫に運びました」という。

どういう書物を「利用度の低い」と判定したかについて、同氏は「明治・大正期に刊行された古いもの」と記しているが、そのため歴史史料として考えた場合、極めて重要な価値のあるものが多数「ＵＨ」に含まれていることは注意しておかねばならないだろう。

（参考文献、中山正道「都城市立図書館のH記号図書について」1963 年 6 月 26 日）

（２）Ｃ文書について

2008 年度の第一次調査と第二次調査の間に、都城市立図書館の書庫より新たに上原文庫の別置本約 500 点弱（いわゆるＣ文書）が発見されたとの報に接したため、第二次調査においてはそれら史料群について、概要調査を行った。

これらの史料群は、その多くがＵ文書、ＵＨ文書の一部であり、本来は書棚に整理されているものと一緒に並べられるべきものであるが、なんらかの事情により、書庫内に別置されていたものと思われる。したがって今後、Ｕ文書やＵＨ文書をひとまとめにして蔵書番号を打ち直す際には、これらＣ文書も合わせ、全体として整理されることが切に望まし

い。

しかしながらＣ文書の歴史資料としての価値は、Ａ文書、Ｂ文書に比べるとやや下がる。この史料群中には、鹿児島の郷土史を考える上で重要な史料や、軍事史的に重要な文献はあまり多く含まれていない。その詳細については別の機会にしかるべき調査が必要となろうが、書棚から外れて別置されていた理由もそういう内容的な重要度の低さによるのかもしれない。

ちなみにＣ文書の主体は刊本類であり、教科書、宗教書、文学、観光案内など一般的な書物が中心であった。ただし後藤新平の意見書（『自治生活の新精神』大正八年）など、上原の元に送られてきた各種意見書類が十数点含まれており、それなりに学術的価値のあるものも少なくはない。

目立ったものとしては、以下のように韓国併合（1910 年）直後に執筆された、各日本植民地の資源開発、産業開発に関する諸史料がある。

『台湾之糖業』（ＵＨ58-1）拓殖局編、1912 年
『台湾油田調査報告』（ＵＨ56-5）福留喜之助著、台湾総督府民政部殖産局発行、1914 年
『本邦産石炭分析表　支那産石炭分析表』（UH56-13）農商務省地質調査所編、1912 年
『台湾煤田調査報告』（UH45-15）台湾総督府民政部殖産局、1914 年
『朝鮮産製革用獣皮』（UH64-2）豊丸勝二著、1911 年

これらの史料の所在、そしてそれが第二次西園寺公望内閣の陸相就任から教育総監、参謀総長へと続く上原の陸軍におけるキャリアの絶頂期のものであったこと、さらに彼が陸相を辞任した理由が他ならぬ朝鮮半島への二個師団配備問題をめぐる首相西園寺公望との対立からであったことを考え合わせると、上原が植民地経営に相当深い関心を持っていたことをうかがわせてくれる。上原にとって二個師団問題とはそうした植民地における資源開発、産業開発を進めていく上で必須の条件であったのかもしれない。

また『三角法問題集』（UH41-68）（陸軍中央幼年学校編、1913 年）や『数学教程』『図画教程』（共に陸軍中央幼年学校編）など教育総監らしく軍事教練用の教科書も多数見られるが、それはＡ文書、Ｂ文書にも共通している特色である。

以上の他にも、有用な資料が含まれている可能性はあるが、大まかに概要を調査したところでは、軍事史、郷土史の側面で貴重な史料はさほど見出せなかった。

「上原文庫」Ａ文書（システム登録分）ランク別解説

Ａ．とくに重要なもの

『済美の友』（Ｕ／Ｕ０５／９／）
広島諧行社附属済美学校の発行する学校雑誌。発行兼編集人は同校の小竹森捷治、発行所は済美学校、印刷所は東亜印刷合名会社である。所蔵されているのは、昭和六年七月号のみ（七月二十三日発行)。七月十四日の上原による学校訪問を受けて特集が組まれ、歓迎のために催された行事のあらまし、それに応えての上原の挨拶が記録され、さらに児童による作文「上原元帥」などが掲載されている。上原の社会活動の一端を知ることの出来る好史料であると考えられる。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『昭和公論』（ＵＨ／ＵＨ０５／２８／）～（ＵＨ／ＵＨ０５／３３／）
帝国在郷軍人会機関誌。大正十年に発刊された『大正公論』を昭和天皇の即位にともない『昭和公論』と改題したもの。（ＵＨ５－２８）に収録された昭和三年十一月号が（第八巻十一号、通巻第九十二号)『昭和公論』としての第一号となる。帝国在郷軍人会の活動を詳細に知ることが出来る貴重な文献であり、また国立国会図書館はおろか、全国の大学図書館にも一冊も所蔵されておらず、書誌的にも極めて重要な文献。
合本製本されたものと収録号数の対照は以下の通り。
（ＵＨ０５－２８）第八巻第十一号、十二号、第九巻第一号、第二号
（ＵＨ０５－２９）第九巻第三号、四号、第五号、第六号、第七号
（ＵＨ０５－３０）第九巻第八号、九号、第十号、第十一号、第十二号
（ＵＨ０５－３１）第十巻第一号、第二号、第三号、第四号、第五号
（ＵＨ０５－３２）第十巻第六号、第七号、第八号、第九号、第十号
（ＵＨ０５－３３）第十巻第十一号、第十二号、第十一巻第一号、第二号、第三号
（＊すべて製本がはがれており、要修復）

『高千穂』（ＵＨ／ＵＨ０５／３４６Ａ）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４６Ｂ）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４７Ａ）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４７Ｂ）
帝国在郷軍人会都城支部発行の機関誌。全般的な政治・海外・軍事情勢の他に、都城支部会の行事日程、会員の投稿欄などで構成されている。在郷軍人会の地方支部会（町村管区）の活動が克明に分かる好史料。軍縮の中で反軍運動の嵐に見舞われた大正期から、満州事変期にかけてという、在郷軍人会が大きく政治的に発展していくまでの重要な時期をカバーし、上原文庫の中でも超一級資料と考えられる。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。
合本製本されたものと収録号数の対照は以下の通り。

（ＵＨ０５－３４６Ａ）第二十七号（大正十三年十二月十五日発行）～三十二号、第三十四号、第三十六号～第三十九号、第四十一号～四十九号（大正十五年十月五日発行）
（ＵＨ０５－３４７Ａ）第五十号（大正十五年十一月五日発行）～六十号、第六十二号、第六十四号～第六十九号（昭和三年六月五日発行）
（ＵＨ０５－３４６Ｂ）第七十号（昭和三年七月五日発行）、第七十二号～第八十七号、第八十九号（昭和五年二月）
（ＵＨ０５－３４７Ｂ）第九十二号（昭和五年五月）、第九十四号～第百号、第百四号～第百九号、第百十六号～百十七号、百二十六号（昭和八年三月）
（製本済）

『国民之精華』（ＵＨ／ＵＨ０５／７１／）（ＵＨ／ＵＨ０５／７２／）
帝国在郷軍人会本郷支部（東京市）発行の機関誌。関東大震災の在郷軍人会支部の活躍や各支部会の活動報告、会員の投稿欄など盛りだくさんの内容となっている。同会支部会そして分会の活動を詳細に追うことの出来る貴重な資料群といえよう。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。
（ＵＨ０５－７１）には、第五十七号（大正十二年十一月十五日発行）～第五十九号、第六十一号～六十五号（大正十四年三月二十日）を、（ＵＨ０５－７２）には、第六十六号（大正十四年五月二十五日）第六十九号、第七十一号、第七十三号～第七十六号（昭和二年一月二十五日）を収録合本製本している。（製本済）（要修復）

『愛国』（ＵＨ／ＵＨ０５／１／）～（ＵＨ／ＵＨ０５／５／）
昭和初期の右翼団体、愛国青年会の機関誌。青年に愛国心を訴えかけ、政治的圧力団体としても機能した形跡がある。役員・顧問の多くが軍人であり、軍との関係の深さをうかがわせる。愛国青年会の動向を知る上では貴重な資料である。国会図書館には所蔵なく、東大明治文庫に若干所蔵され、相互補完する関係になっているが、上原文庫の方が号数が多い。（製本済）（要修復）
（合本の番号と号数の対照表）
（ＵＨ０５－１）～第二巻第一号（昭和三年一月一日発行）～第十二号（同年十二月十日）
（ＵＨ０５－２）～第四巻第一号（昭和五年一月九日発行）～第五号、第七号～第八号、第十号、第十二号（同年十二月十日発行）
（ＵＨ０５－３）～第三巻第一号（昭和四年一月十日発行）～第十二号（同年十二月十日）
（ＵＨ０５－４）～第五巻第一号（昭和六年一月十日）～第三号、第六号、第八号～第十号、第十二号（同年十二月一日）
（ＵＨ０５－５）～第六巻第一号（昭和七年一月一日）～第二号、第四号～第七号、第十号～第十一号（同年十一月一日）

『士華』（ＵＨ／ＵＨ０５／６２／）
陸軍士官学校の中華民国同学（中華民国出身留学生）を対象とした機関誌。表紙などには和暦とあわせて中華民国歴が併記されている。第一号（昭和五年)、第二号（昭和六年）を収録。内容は中華民国出身留学生の活動に関するもので、写真や論説、詩などが掲載されている。名簿等の付録もあり。文章は日本語のものもあれば、漢文のものもある。満州事変前後の時期に、日本の陸軍士官学校で学んだ中華民国人の意識が窺える重要な資料といえる。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重なもの（要修復）

『青年日本』（ＵＨ／ＵＨ０５／１８８／）（ＵＨ／ＵＨ０５／２７６／）
青年日本社発行。編集発行兼印刷人は橋本又治郎。印刷所は青年日本印刷所。（ＵＨ０５－２７６）には、第一巻第二号（大正十四年十月一日）～第四号、第二巻第一号～第五号（大正十五年五月一日）を、（ＵＨ０５－１８８）には、第二巻第六号（大正十五年六月一日)、第八号～第十二号（大正十五年十二月一日）を収録合本製本。当該期の政治・社会・経済に関する総合雑誌で、二大政党論、貴族院改革問題などの政策提言、偉人伝など内容は多彩。政友会幹部など、政財界の大物の寄稿が目立つ。第一巻二号時点での発行部数は「十万」。現実社会の行き詰まり打開のため、青年の団結を図ることが刊行の目的とされる。東大明治文庫に第一巻第二号のみ所蔵されているが、それ以外の号は全国の大学図書館にないため、とても貴重。（１８８は特に要修復、２７６も要修復)。(製本済)

『三省舎会報』（ＵＨ／ＵＨ○５／３４９／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３５１／）
軍人を目指す青年を対象とした寄宿寮「三省舎」の機関誌。編集及び発行者は三省舎。印刷所は厚生堂印刷部。(ＵＨ０５－３４９)には、第一号(明治四十四年五月二十七日発行)、第十三号（大正二年十二月二十一日）の二冊を、(ＵＨ０５－３５１）には、第四十四号（大正七年七月十八日）～第四十八号、第五十一号～第五十三号、第五十五号、第五十七号（大正十一年六月二十八日）を収録合本製本している。論説と記事からなり、軍人の訓話や各種行事の概況、名簿等データが掲載される。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。(製本済)

『三州婦人』（ＵＨ／ＵＨ０５／３４４／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４５／）
雑誌『三州』を発行する三州社から、刊行された月刊女性雑誌。（ＵＨ－３４４）には、第一巻第一号（創刊号、大正十三年七月一日発行）～第六号（大正十三年十二月一日発行）を、（ＵＨ０５－３４５）には、第二巻第二号（大正十四年二月一日）～第五号（大正十四年五月一日）を収録合本製本している。編集兼発行人は石塚吉祐。印刷所は株式会社秀英舎。「婦人の修養に関する」必要性から、「既に弐万に近き読者を有してゐる」雑誌『三州』の女性版として発刊。衣食住から生活全般について書かれた典型的な婦人雑誌であるが、旧薩摩藩領出身の女性達が大正期に作り上げていたネットワークの実態をうかがうことが

でき、とても興味深い内容となっている。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『文武』（UH／UH０５／６／）～（UH／UH０５／１４／）
帝国軍事協会の発行する軍事雑誌。現役、予備役軍人を対象とした読み物が満載され、記者も軍人がつとめた。陸軍海軍の区別を問わず、現役、予備役軍人による投稿（論文、軍事小説、軍事笑話、和歌、俳句など）を掲載していたため、陸軍と海軍の壁を越えた交流が進むという効果も生まれた。「日本海大海戦の記」などの戦記や、「在郷軍人の鑑」など軍人、在郷軍人に対する教訓ものを中心に軍人文壇など幅広い内容が掲載されている。上は将軍クラスから下は一兵卒まで差別することなく掲載されているために、当時の軍人全体の軍隊観、軍隊生活観を幅広く知ることが出来る好史料である。（製本済）（要修復）
上原文庫の図書番号と巻号数との照合表は以下の通り。
（UH０５－６）～第十二号（明治四十二年十一月二十日）、第二十八号～三十四号（明治四十四年九月二十日）
（UH０５－７）～第三十五号（明治四十四年十月二十日発行）～第四十一号、第四十三号（明治四十五年六月二十日発行）
（UH０５－８）～第四十五号（大正元年八月二十日発行）、第八十六号～第九十一号（大正五年六月二十日発行）
（UH０５－９）～第九十二号（大正五年七月二十日発行）～九十九号（大正六年二月二十日）
（UH０５－１０）～第百号（大正六年三月二十日発行）～百一号、百四号～百九号（十二月二十日発行）
（UH０５－１１）～第百十号（大正七年一月二十日発行）～百十九号（大正七年十月二十日発行）
（UH０５－１２）～第百二十一号（大正七年十二月二十日発行）～百二十九号（大正八年八月二十日発行）
（UH０５／１３／）～第百三十号（大正八年九月二十日発行）～百三十四号、百四十号～百四十九号（大正十年四月二十日発行）
（UH０５－１４）～第百五十号（大正十年五月二十日発行）～第百五十五号、第百五十七号～百五十八号（大正十一年一月二十日）および百八十五号（大正十三年七月二十日発行）

『有終』（UH／UH０５／８２／）
海軍軍人により組織された有終社が発行する機関誌。海軍技術に関する論説の他、戦乱時報、時事小言、雑報など内外情勢に関わる諸論考を収録している。第五十七号、第三十四号（大正五年七月八日、＊この号だけ逆向きにしかも真ん中に綴られており、もし修復される場合には、正しい位置に置き直して再製本されることが望ましい）、第六十五号、第百

十六号（第十巻第五号)、第百四十四号（第十二巻第十一号、大正十四年十一月五日）を収録合本製本している。(製本済)（要修復）東大明治文庫、防衛大学などに昭和期のものは多数所蔵されているが、上原文庫が所蔵している初期の巻号は全国大学図書館のコレクションの中になく、書誌的に重要なものと考えられる。

『我か家』（UH／UH０５／８５／）～（UH／UH０５／９６／)、(UH／UH０５／１９０／）～（UH／UH０５／１９１）
帝国在郷軍人会本部が発行する総合雑誌。編集部長山梨半造陸軍中将。大正六年三月創刊。当初は『戦友の家庭』というタイトルを予定していたものの、一般家庭に普及して欲しいとの思いから『我か家』に落ちついたと言われている。在郷軍人会が発行している雑誌でありながら、軍事情報に偏らず、「七月の主婦ごよみ」「盆のお料理献立」など衣食住生活一般に関しての記事が多く掲載されており、女工など婦人の購読者も多かった。昭和十五年十一月に『戦友』と合併して『皇盾』となる。在郷軍人会の幅広い社会活動の一環をうかがい知れる好史料である。(製本済)（要修復）
上原文庫の図書番号と巻号数との照合表は以下の通り。
（UH０５－８５）～第二十九号（大正八年七月一日発行）～三十六号、三十九号～四十号（大正九年六月一日発行）＊第三十号、第三十一号、第三十九号は表紙欠。
（UH０５－８６）～第四十一号（大正九年七月一日発行）～四十九号（大正十年三月一日発行)
（UH０５－８７）～第五十一号（大正十年五月一日発行）～第五十四号、第六十五号～六十八号（大正十一年十月一日発行)
（UH０５－８８）～第七十九号（大正十二年九月一日発行）～第八十六号（大正十三年四月一日発行)
（UH０５－８９）～第八十七号（大正十三年五月一日発行)、第百四号、第百七号～第百十二号（大正十五年六月一日発行)
（UH０５－９０）～第百十三号（大正十五年七月一日発行）～百二十号（昭和二年二月一日）＊ただし第百十八号は表紙欠。
（UH０５－９１）～第百二十一号（昭和二年三月一日発行）～百二十八号（昭和二年十月一日発行）＊ただし百二十四号は表紙欠。
（UH０５－９２）～第百二十九号（昭和二年十一月一日発行）～第百三十六号（昭和三年六月一日発行)
（UH０５－９３）～第百三十七号（昭和三年七月一日発行）～百四十四号（昭和四年二月一日発行)
（UH０５－９４）～第百四十五号（昭和四年三月一日発行）～百五十二号（昭和四年十月一日発行)
（UH０５－９５）～第百五十三号（昭和四年十一月一日発行）～第百五十四号、第百六

十七号～第百七十二号（昭和六年六月一日発行）
（ＵＨ０５－９６）～第百七十三号（昭和六年七月一日発行）～第百七十八号、第百八十号、第百八十二号（昭和七年四月一日）
（ＵＨ０５－１９０）～第六十九号（大正十一年十一月一日発行）、第七十一号～七十六号、第七十八号（大正十二年八月一日）
（ＵＨ０５－１９１）～第一巻第二号（大正六年四月五日発行）～第一巻第六号、第一巻第八号～第十号、第二十一号、第二十三号～二十八号（大正八年六月一日発行）

『報徳』(U157/1/3)(U157/1/4)(U157/1/5)(U157/1/6)(U157/1/7)(U157/1/8)(U157/1/9)(U157/1/10)(U157/1/11)(U157/1/12)(U157/1/13)(U157/1/14)(U157/1/16)(U157/1/17)
明治三十四年四月に陸軍軍人花田仲之助によって創立された教化団体、報徳会の機関誌。当初本部は鹿児島県にあったが、大正九年の初頭から総事務所を京都府伏見桃山に移転し、それにともない発行所も同所に移転した。全国に多数の地方版報徳会を設置して、各自に活動する形態をとっていたようである。基本方針としては、表紙裏記載の「報徳会規約」にあるように、「会員は時日を定めて会集し先づ教育勅語を奉読し次に実行問題を攻究決議し後名士先輩に道徳上の講話を請ふて各自の修養を資け会員は各自研究上の所見を述べて相互の修養を図るべし」と定められていた。記事は彙報など活動記録に関するものの割合が高い。寄稿者には著名人もいるが、全体としては中央政財界で活躍した人物というよりも、地方の庶士によるものが多い。それまでの報徳運動が二宮金次郎の顕彰に力点を置いていたのに対し、教育勅語を重視する新しい流れを打ち出したものとして研究史上で注目されている団体であり、機関誌『報徳』は東大明治文庫などに部分的に所蔵されているが、欠号も多く、上原文庫のコレクションで初めてその全容が浮かび上がる。報徳運動研究史上第一級の史料群と考えられる。（製本済み）（〈U157/1/17〉〈U157/1/7〉は要修復）
　一～四巻と十一～十三巻、および十五巻が欠。それ以外で、合本製本されたものと収録号数の照合は以下の通り。
（U157/1/3）は第二十二巻第一号（昭和七年一月一日発行）～第二十二巻十二号（昭和七年十二月一日発行）
（U157/1/4）は第十七巻第一号（大正十六年一月一日発行）～第十七巻第十一号（昭和二年十二月一日発行）（第十七巻第六号は表紙なし）
（U157/1/5）は第五巻第一号（大正四年一月十五日号発行）～第五巻第十二号（大正四年十二月十五日発行）
（U157/1/6）は第二十巻第五号（昭和五年五月一日発行）～第二十巻第十一号（昭和五年十一月一日発行）（第二十巻第五号は同じものが二冊あり）
（U157/1/7）は第二十三巻第一号（昭和八年一月一日発行）～第二十三巻第十一号（昭和八年十一月一日発行）
（U157/1/8）は第十八巻第一号（昭和三年一月一日発行）～第十八巻第十二号（昭和三年

十二月一日発行）（第十八巻第十二号は同じものが二冊あり）
（U157/1/9）は第七巻第一号（大正六年一月十五日発行）～第七巻第十二号、第八巻第一号～第八巻第四号、第八巻第七号、第八巻第八号、第八巻第十号（大正七年十月十五日発行）
（U157/1/10）は第十六巻第一号（大正十五年一月一日発行）、第十六巻第二号、第十六巻第四号～第十六巻第十二号（大正十五年十二月一日発行）（第十六巻第四号は同じものが二冊あり）
（U157/1/11）は第六巻第一号（大正五年一月十五日発行）～第六巻第十三号（大正五年十二月十五日発行）　※第六巻第二号は『報徳美談』（大正五年一月三十一日発行）という臨時増刊号であり、全国各地の「報徳」話を集めて掲載した冊子となっている。
（U157/1/12）は第十九巻第一号（昭和四年一月一日発行）～第十九巻第八号、第二十巻第十二号（昭和五年十二月一日発行）
（U157/1/13）は第二十一巻第一号（昭和六年一月一日発行）～第二十一巻第十二号（昭和六年十二月一日発行）
（U157/1/14）は第九巻第二号（大正八年二月十五日発行）、第九巻第四号～第九巻第七号、第九巻第九号～第九巻第十二号（大正八年十二月十五日発行）
（U157/1/16）は第十巻第一号（大正九年一月一日）～第十巻第三号、第十巻第五号～第十巻第十号、第十巻第十二号（大正九年十二月一日発行）　※第十巻第四号の代わりに『報徳会綱要』というミニ冊子が大正九年四月一日に発行されている。
（U157/1/17）は第十四巻第一号（大正十三年一月一日発行）～第十四巻第十二号（大正十三年十二月一日発行）

『旧薩藩領内出身陸軍将校同相当官名簿』『旧薩藩出身陸軍将校同相当官並将校生徒名簿（第三回）（第四回)』（ＵＨ／ＵＨ２８／８７／）
陸軍軍人で旧薩摩藩領内出身者を抜粋して作成された名簿。明治四十四年四月二十日印刷。発行は三省舎。（第三回は大正二年十二月二十二日、第四回は大正四年九月二十二日発行）
海軍と比べ薩摩藩出身者の勢力が弱い陸軍内において、こうした名簿が作られていたという事実そのものが面白く、また陸軍長州閥の存在が社会的に問題視され始めた大正政変の前後に作成されたことも考え合わせると、この時期の陸軍薩摩閥の動向をうかがい知ることの出来る重要な史料と位置づけて良いように思われる。国会図書館や全国の大学図書館にも一切所蔵されていない貴重な名簿である。

『上原元帥　郷土史談話』（UM／UM２１／１０／）
昭和五年に上原勇作本人が郷土史に関して語った談話の速記録。なか表紙に「前田厚手記」とあり。また一丁目に「昭和六年拾月廿四日」の印と「山下次之助」の書き込みあり。聞き取り手は前田厚の他に土持幸平と川越実である。冒頭の「上原元帥談話要項」の文章は

以下の通り。

「昭和五年拾月廿日午後一時ヨリ元帥ノ宿所水間旅館奥マッタ一室ニ土持幸平・川越実ノ両氏ト共ニ招カレテ郷土史ニ関スル様々ノオ話ヲ承ッタ。夕飯ヲ別室ニ於テ戴キ、食後引続オ話ガアッテ十時過グル頃マデニ及ンダ、先ヅ話ハ川越氏ガ編セラレタ元帥母堂ノ略伝ノ批評ニ始マル（攻略)」

本書前半部は『上原元帥母堂』（ＵＭ２８－１１）についての上原本人による批評である。一方、郷土史について語っている後半部以降の記述は完全な口語体となっており、非常に臨場感があり、上原の人となりも窺える。具体的な談話だけではなく郷土史を編纂する祭の手法や計画自体への言及も行っており、上原の歴史観や郷土史編纂事業に対する考え方の一端も窺うことができる好史料である。奥付け等書誌情報なし、私家版か、謄写版のような体裁をとっている。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重な史料と考えられる。

『にしき』（UM／ＵＭ２８／６／）

薩摩・大隅・日向の三州を対象とした郷土顕彰の教化雑誌。記事はほとんどが地元の英雄人物に関する史伝の類である。上原勇作についても第一巻第一号から第一巻第五号まで人物評伝が連載されており、興味深い。編集兼発行人は本田親次、印刷所は愛友舎印刷所、発行所は薩南と人物刊行会（第五号は日本社)。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重なもの。

収録号数は以下の通り。

第一巻第一号（大正十年一月一日発行）～第一巻第五号（大正十年六月一日発行）

『上原元帥談話　龍岡資峻翁』（UM／ＵＭ２８／８／）

上原勇作が、郷土史談話において兄で軍人であった龍岡資峻について語った談話を、謄写版の冊子綴りにまとめたもの。「其一」と「其二」が合綴されている。「其二」には「資峻翁年譜」と「奈賀佐幾之記」が付されている。書物としての性格は、製本されていないことや、出版に関する上原の手紙を収録するなど、私的性格の強いものである。「其一」と「其二」の一丁目に「昭和六年拾月廿四日」の印と「山下次之助」の書き込みあり。表紙に「川越博手記」とあり。上原本人がその人格形成の過程で影響を受けたとされる、兄について語った貴重な記録であり、またその内容がそのまま幕末維新期の薩摩藩の略記ともなっており、その意味でも興味深い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

『帝国連隊史』シリーズ

帝国連隊史は、大正六年に帝国連隊史刊行会長伊藤瀬平陸軍中将の元、統一して編纂されたものである。第一次世界大戦の最中にこうした書物の編纂を行っていること自体、日本が戦場でなかったことによる余裕のあらわれであるが、戦後列強の国力回復により、日本

が苦しい立場に置かれるであろうことを予測し、そのときのために「不具廃疾若クハ」「公権ヲ剥奪セラレタル」国民以外が、生涯に一度は必ずその一員となる連隊を「護国ノ一家庭」として国民に認識させることが重要であるとの趣旨から編纂が開始されたという経緯は面白い。第一次世界大戦前後の陸軍の自己認識をうかがい知ることの出来る史料でもある。

＊ 本コレクションの中に『第〇〇連隊史』というタイトルでばらばらに収蔵されている。解体寸前の「未登録上原本」の中にも多数あり、これらの製本も含めて、まず第一に所蔵している連隊史の全部を統合して、一刻も早く整理・修復されることをお勧めする。

＊ 全国でこれらをまとめて所蔵しているところはなく、個別のタイトルに分かれて次の二カ所で保管されている。１）国会図書館で所蔵されているもの。２）滋賀大学の図書館で所蔵されているもの。

＊ 上原文庫の帝国連隊史シリーズは、日本でここにしか残っていないものも含め、間違いなく日本でも有数のコレクションであると考えられる。きちんと整理・保管すべきであろう。

（登録済みのもの）

近衛１、２、３（３）、４（２）、歩兵１（２）、２、３（３）、４、５、６、７、８、９、１０、１５、１６（２）、１７、１８（２）、１９（２）、２１、２９、３０（２）、３１、３２、３３（３）、３４（２）、３５、３６、３７、３８、３９（２）、４０、４１、４５、５０（２）、５１、５２、５３、５７（２）、５８、６０、６１、６３、６５、６７（２）、６８、７０

（未登録のものーＢ文書）

近衛１、２、３（２）、４、歩兵１、９（３）、１２、１４、１７、１９、２０、２９、３５、３６、３７、３８、４１、４７、５１、５２、５５（２）、５６（３）、５７（２）、５９、６０（２）、６４、６６

＊ したがって、未登録のもののうち、１２、１４、２０、４７、５５、５６、５９、６４、６６の９冊については、製本・修復の上、正式に登録すべきであると思われる。また重複してある分についても、見比べてより状態の良いものを正本として登録、それ以外のものについてはまとめて保管するようにすべきではないか。そしてその上で全体に番号を打ち直して、一つのコレクションとして整備すべきであると考えられる。

『政庁公認　加奈陀鹿児島県人会史』（ＵＨ／ＵＨ３３／６５／）

カナダにおける鹿児島県人会の記録。明治期にカナダへ渡った日本人移民たちの内、鹿児島県出身者たちが相当数おり、彼らが海外においていかなる活動をしていたかを知ることが出来る貴重な史料。加奈陀鹿児島県人会編・発行。印刷所は大陸日報社印刷部、大正二年一月一日発行。同種の県人会の資料は、カナダ移民に関しては他に広島県人会のものが知られる程度で、明治期の海外県人会組織の実態をうかがわせる好史料。移民史研究史上

の新史料として注目される。国会図書館や全国の大学図書館にはまったく所蔵されていない。（要修復）

『軍事彙報』（ＵＨ／ＵＨ３９／２２７／）
軍事彙報社が発行する軍事雑誌。現役軍人、在郷軍人を主たる対象とし、全国新聞の軍事関係記事抄録や各種論説、読者による投稿記事などが掲載されている。第二号（大正十三年一月十五日発行）～第四号（大正十三年三月十五日発行）の三冊を収録合本製本してある。編集兼発行人は財間信一。（製本済）（要修復）「営内唯一の慰安雑誌」と評された『文武』とも密接な関係にあった。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されておらず、当該期の現役軍人の思想と行動についてうかがい知ることの出来る極めて貴重な史料と考えられる。

『会報』（ＵＨ／ＵＨ３９／２６２／）（ＵＨ／ＵＨ３９／２２０／）
海軍協会が発行する軍事雑誌。海軍および海事知識を国民一般に普及し、海軍力の完成維持を図るために創刊されたもの。いわゆる軍縮期にあって、国民が海軍の軍備に冷淡であることを危惧した一部軍人が、民間団体として海軍協会を創立、調査部を設けて内外海軍の諸事情を調査、それを掲載するために発行したのがこの『会報』である。季刊誌。（ＵＨ３９－２６２）には、第二号（大正十三年七月十五日発行）、第三号、大正十四年一月号、三月号（第三十七号、大正十四年三月十五日発行）を、（ＵＨ３９－２２０）には、第三十八号（大正十四年五月号、五月二十二日発行）～第四十一号（十一月号、大正十四年十一月十日発行）を収録合本製本している。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重な史料で、当該期の海軍上層軍人の意識をうかがい知ることの出来る重要なものである。

『軍事に関するパンフレット類』（ＵＨ／ＵＨ３９／３１／）（ＵＨ／ＵＨ３９／３２／）
軍事に関する様々な小冊子を、合本製本したもの。（ＵＨ３９－３１）には、「連合国傷病兵罹災者慰問会報告書」（大正六年十二月）、「戦線ニ於ケル英軍軍陣外科ノ現況概要」（『軍医団雑誌』号外として発行されたもの、大正八年一月陸軍軍医団発行）、「海軍協会講演集　第一輯」（大正八年六月、海軍協会）、「兵制改革五十年の感想」（大正十二年十一月。陸軍省）、「国土防空に就て」（昭和四年三月、陸軍省）など十編が、（ＵＨ３９－３２）には、「海軍協会々報　第五号」（大正八年一月十五日発行、海軍協会）、「皇民会報」（第一号、大正九年十一月、皇民会発行）、「航空概要」（昭和二年三月、帝国飛行協会）、「麻布支部報」（昭和七年四月、帝国在郷軍人会麻布支部発行）など十一冊が収録されている。（製本済）（要修復）

『皆兵』（ＵＨ／ＵＨ３９／２２５／）

大日本帝国壮丁教育会の発行する軍事雑誌。様々な主張、論説が掲載されているほか、「軍隊生活」「修養」「衛生」など兵営内部での暮らしに関わる記事が多くをしめる。厳しい兵営生活の現実を突きつけ、それを真摯に受け止めることで「満足を知り、その進むべき道を真直に歩み行く」ことこそ「諸君の真の幸福」であると述べている。新たに兵営に入った新兵に対する啓蒙教育的要素がふんだんに散りばめられた雑誌である。第一巻第三号（大正三年五月一日発行）～第七号、第三年第六号（大正五年六月二十五日発行）が収録合本製本されている。（製本済）（要修復）国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない重要なもの。

『精神教育資料』（ＵＨ／ＵＨ３７／１０／）
教育総監部の発行した国粋主義的発想に基づく教化雑誌であり、各号ごとに個別の題目がつけられている。収録号数は第一号～第三号、第十一号、第十三号～第十六号、第十八号、第三十九号、第四十一号、第四十四号、第四十六号、第四十七号である。第十一号のみ横浜国立大学に所蔵あり。その他は国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。第十六号の表紙には上原勇作本人の書き込みがあり、「即夜卒読　感慨深シ」とある。その号（昭和五年一月）の題目は「欧米人の観たる現代日本」である。上原が軍においてトップの存在であったことを考えると、当該期の政治に関する認識が窺える、非常に興味深い材料であるといえる。（製本済）

『コーエン』『後援』（ＵＨ／ＵＨ３９／８６／）（ＵＨ／ＵＨ３９／８７／）（ＵＨ／ＵＨ３９／８８／）（ＵＨ／ＵＨ３９／８９／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９０／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９１／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９２／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９３／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９４／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９５／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９６／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９７／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９８／）（ＵＨ／ＵＨ３９／９９／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１００／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０１／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０２／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０３／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０４／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０５／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０６／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０７／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０８／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１０９／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１１０／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１１１／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１１２／）（ＵＨ／ＵＨ３９／１１３／）
軍人後援会の機関誌『軍人後援新報』が第九十四号より改題されたもの（当時の会長は大隈重信）。第百一号まではカタカナで『コーエン』と題されている。ちなみに、第九十四号では『コーエン』には「後援」「宏遠」「江淵」「公園」「光燄」などの意味が込められているとあるが、早くも第九十八号からは表紙に「コーエンは後援なり」との文字が書き入れられ、第百二号からは『後援』へとさらに改題されることを考えれば、『コーエン』という雑誌名の読者うけはよくなかったようである。軍人後援事業に基づき軍の後方支援を企図した雑誌で、第九十五号の「本誌改良の趣旨」には以下のように記されている。

我国民思想を善導して、忠節勇武なる風尚を作興し、国民皆兵の現実を助成せむことは、救護と與に本会の主たる事業なり。今や新に朝鮮を合はし、台湾・樺太等と共に新附の同胞を増加し、国民思想は益々其純一を欠くこととなり、加ふるに欧米文明の弊は更に其勢を逞うせむとす、豈憂患に堪ゆべけむや。於是乎本会は機関雑誌に一大改良を加へ、忠勇なる国民性の発揮を経とし。趣味と実益を緯と為し、一は以て兵営及家庭に於ける最善の師友たらしめ、一は以て軍隊と国民との連絡疎通を仲介せむと欲す。

国民皆兵思想の高まりを背景に、狭い意味での軍隊に限らずより広範な層を対象に人々の意識を糾合し、国家の軍事を支えていかなければならないとの意図が窺える。また、本誌の売り上げによる利益は、軍人遺族・同家族および廃兵の救護費に組み入れられた。

誌面は論説中心だが、小説欄など娯楽性も確保されており、大隈重信、江原素六、田中義一、清浦奎吾、土方久元など大物政治家、軍人の寄稿も多い。大正～昭和期にかけて、国をあげての軍事支援を関係団体がどのように位置づけ、盛り上げていこうとしたのかが、まとまったかたちでわかる好史料である。また書誌学的にも、刊行年間が長く大量に雑誌が残っている割には国会図書館や全国の大学図書館にもほとんど残されていない（第九十四号～第九十九号のみ北海道大学に所蔵）ことを考えると、きわめて貴重かつ重要な史料価値をもち、上原文庫の目玉であると考えられる。帝国軍人後援会発行。第九十四号時点での編集兼発行人は高村孝助、印刷所は三協印刷株式会社。（製本済み）（要修復）

所蔵はおおむね第九十四号～第三百七十一号までで、そのうち欠号は第百三～百四、百十二～百十六、百十八、百三十，百六十四～百六十九，百七十五、百七十七～百七十八、百八十二、百九十二、百九十四、二百三，二百九，二百十五、二百二十六，二百三十九～三百十九、三百五十二，三百五十六号である。

合本されたものと収録冊子の概要の対照は以下のとおり。

（ＵＨ／ＵＨ３９／８６／）第九十四号（明治四十三年十一月三日）～第九十八号（明治四十四年三月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／８７／）第九十九号（明治四十四年四月三日）～第百二号、第百五号（明治四十四年十月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／８８／）第百六号（明治四十四年十一月三日）～第百十一号、第百十七号、第百十九号～第百二十号（大正二年一月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／８９／）第百二十一号（大正二年二月三日）～第百二十八号（大正二年九月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／９０／）第百二十九号（大正二年十月三日）、第百三十一号～第百三十七号（大正三年六月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／９１／）第百三十八号（大正三年七月三日）～第百四十五号（大正四年二月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／９２／）第百三十八号（大正三年七月三日）～第百四十号、第百四十

二号～第百四十五号（大正四年二月三日）　※（ＵＨ／ＵＨ３９／９１／）と同じだが第百四十一号が抜けている。
（ＵＨ／ＵＨ３９／９３／）第百四十六号（大正四年三月三日）～第百四十七号、第百四十九号～第百五十号、第百五十二号～第百五十四号（大正四年十一月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９４／）第百五十五号（大正四年十二月三日）～第百六十号（大正五年五月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９５／）第百六十一号（大正五年六月三日）～第百六十三号、第百七十号～第百七十二号（大正六年五月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９６／）第百七十三号（大正六年六月三日）～第百七十四号、第百七十六号、第百七十九号～第百八十一号（大正七年二月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９７／）第百八十三号（大正七年四月三日）～第百八十八号（大正七年九月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９８／）第百八十九号（大正七年十月三日）～第百九十号、第百九十三号、第百九十五号～第百九十七号（大正八年六月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／９９／）第百九十八号（大正八年七月三日）～第二百二号（大正八年十一月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１００／）第二百四号（大正九年一月三日）～第二百八号（大正九年五月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０１／）第二百十号（大正九年七月三日）～第二百十四号（大正九年十一月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０２／）第二百十六号（大正十年一月三日）～第二百二十号（大正十年五月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０３／）第二百二十一号（大正十年六月三日）～第二百二十五号、第二百二十七号（大正十年十二月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０４／）第二百二十八号（大正十一年一月三日）～第二百三十二号（大正十一年五月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０５／）第二百三十三号（大正十一年六月三日）～第二百三十八号（大正十一年十一月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０６／）第百四十六号（大正四年三月三日）～第百五十二号、第三百五十七号（昭和七年九月三日）　※（ＵＨ／ＵＨ３９／９３／）と内容が一部重複。
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０７／）第三百二十五号（昭和五年二月三日）～第三百二十九号（昭和五年六月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０８／）第三百二十号（昭和四年九月三日）～第三百二十四号（昭和五年一月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１０９／）第三百三十号（昭和五年七月三日）～第三百三十五号（昭和五年十二月三日）

（ＵＨ／ＵＨ３９／１１０／）第三百三十六号（昭和六年一月三日）～第三百四十一号（昭和六年六月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１１１／）第三百四十二号（昭和六年七月三日）～第三百四十七号（昭和六年十二月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１１２／）第三百四十八号（昭和七年一月三日）～第三百五十一号、第三百五十四号～第三百五十五号（昭和七年七月三日）
（ＵＨ／ＵＨ３９／１１３／）第三百五十三号（昭和七年五月二十三日、臨時号)、第三百五十七号（昭和七年九月三日）～第三百七十一号（昭和八年十一月三日）
※　有馬報告書記載の組織の沿革情報は直接には反映させず。

『訓練』（ＵＨ／ＵＨ３９／１）一号～四号、二巻一号～六号（ＵＨ／ＵＨ３９／２）二巻七号～二巻十二号（ＵＨ／ＵＨ３９／３）三巻一号～三巻六号（ＵＨ／ＵＨ３９／４）三巻七号～三巻十二号（ＵＨ／ＵＨ３９／５）四巻七号～四巻十二号（ＵＨ／ＵＨ３９／６）四巻一号～四巻六号（ＵＨ／ＵＨ３９／７）五巻一号～五巻六号（ＵＨ／ＵＨ３９／８）五巻七号～五巻十二号（ＵＨ／ＵＨ３９／９）六巻一号～六巻六号（ＵＨ／ＵＨ３９／１０）六巻七号～六巻十二号（ＵＨ／ＵＨ３９／１１）七巻一号～七巻三号、七巻六号～七巻七号（ＵＨ／ＵＨ３９／１２）七巻八号～七巻十一号
昭和二年九月から、学校教練や青年訓練の「真精神を明にし教練の実際に即した指導法案を提示して、参考に資すると共に是等に関する研究や内外の実情を紹介」することを目的として、帝国在郷軍人会が発行した月刊雑誌。同じく帝国在郷軍人会発行の『戦友』の附録誌として位置づけられている。陸海軍人や文部官僚による、教育指導者向けの軍事知識普及を目的とした論説が数多く掲載されているが、その一方で「各地の訓練」と題する記事なども掲載されており、当時の学校教練や青年訓練の実態が窺い知れる一級資料だと考えられる。昭和二年から昭和八年分までがまとまった形で残されており、また、国会図書館や大学図書館には所蔵されていないため、間違いなく「上原文庫」の目玉となる資料である。当資料の公開によって、学校教練・青年訓練史研究が一層深まることが期待される。
（製本済）（要修復）

『三州』（ＵＭ／ＵＭ０５／１／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４８／）
薩摩・大隅・日向の三州を対象とした地域雑誌。地域に根差した総合雑誌で、地元に関する論説や三州出身者の消息などが記載される。執筆陣も基本的にそれほど著名な人物はいないものの、牧野伸顕、大山巌、三宅雪嶺、徳富蘇峰などの寄稿も確認できる。発行は三州社、創刊号の編集兼発行人は石塚吉祐、印刷所は秀栄舎。島津奨学金に関しても言及されるなど、当該期の地域に関する動向がよくわかる好史料である。また『三州婦人』（ＵＨ／ＵＨ０５／３４４／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３４５／）は本誌の姉妹雑誌である。ちなみにこの三州社は、三州倶楽部とならんで東京における当地出身者の拠点としての役割を果た

していたようである。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（製本済）
合本されたものと収録冊子の概要の対照は以下のとおり。
（ＵＭ／ＵＭ０５／１／）第五年第五号（大正十三年五月一日発行）～第五年第六号、第九年第一号～第九年第三号（昭和三年三月一日発行）
（ＵＨ／ＵＨ０５／３４８／）第一号（大正九年三月二十日発行)、第一年第三号～第一年第八号、第一年第十号～第二年第二号（大正十年二月一日発行）

Ｂ．重要なもの

『大道』（ＵＨ／ＵＨ０５／３５２／）
大道館発行の雑誌。第一巻第一号（大正十五年七月発行）から第二巻第一号（大正十六年一月発行）まで所蔵。西郷隆盛の没後五十周年を記念して発行された大道館の機関誌。大道館長今村貞治編集発行。鹿児島～都城の名士が多数執筆しており、大正末期の郷土の思想動向を知る上で一定の役割を果たすものと考えられる。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『東亜経済情報』（ＵＨ／ＵＨ０５／３１０／）
東亜時局研究会発行の雑誌。第三巻第七号（昭和六年七月一日発行、通巻二十七号）から第三巻第十二号（昭和六年十二月一日発行、通巻三十二号）まで所蔵されている。対中国、対満州についての政策論が多く収録されており、国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『日露実業新報』（ＵＨ／ＵＨ０５／３２７／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３２８／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３２９／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３３０／）
日露実業新報社発行の雑誌。編集・発行人は上田森治。（ＵＨ０５－３２７）には、第二年十月号（大正五年十月十五日発行）から第三年第二号（大正六年二月一日発行）までが、（ＵＨ０５－３２９）には第五年第八号（大正八年八月一日）から第六年第三号（大正九年三月一日）までが、（ＵＨ０５－３３０）には、第六年第四号（大正九年四月一日）から第七年第四号（大正十年四月一日）までが、（ＵＨ０５－３２８）には、第七年第六号（大正十年六月一日発行）から第八年第二号（大正十一年二月一日発行）までが、収録合本製本されている。満州から樺太、ウラジオストック方面に関しての経済状況が詳細に綴られている。ロシア人も多数執筆。また現地で活躍する日本人商人、商会の広告も多数掲載され、その状況を知ることが出来る史料。第三年第一号、第七年第三号は国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『満蒙知識』（ＵＨ／ＵＨ０５／３０４／）
満蒙知識社発行の雑誌。編集発行人は薗井秀男。第九巻第四号（昭和八年四月十五日）から第十一号（昭和八年十一月十五日）まで所蔵（六号のみ欠）。満州における様々な状況について詳しく報道されている。国会図書館に所蔵されておらず、北大図書館に部分的に所蔵されているが、本コレクションがその欠号を埋めている部分もあり。上原に対して寄贈されたもの。（製本済）

『満州関係パンフレット』第一号（ＵＨ／ＵＨ０５／２９６／）第二号（ＵＨ／ＵＨ０５／２９７／）
満州に関して書かれた各種の政治的パンフレット類をまとめて綴ったもの。第一号（ＵＨ０５－２９６）には、『満蒙改造の根本的大義』（小谷保太郎編、大正十五年九月二十四日発行)、『新満州国と日満交通問題』（中央満蒙協会編、昭和七年五月発行）など合計十冊の小冊子が、第二号（ＵＨ０５－２９７）には『所謂満州某重大事件に就いて』（対支国民同盟、昭和四年二月十日発行)、『満州問題序説』（「外交時報」社長半沢玉城著、昭和六年二月十九日発行)、雑誌『日満公論』第五年第一号など合計十一冊の小冊子が収録されている。基本的に執筆者、団体から上原に宛て寄贈されてきた非売品のものであり、彼の元にどのような情報が寄せられていたのかを知ることが出来る（要修復)。(製本済)

『対支関係パンフレット』（ＵＨ／ＵＨ０５／２９８／）
『支那形勢、教育方針談』（根津一講述、明治四十五年五月五日発行)、『対支私見』（青柳勝敏著、大正六年八月二十日発行）など十六冊の小冊子が綴られている。基本的に執筆者、団体から上原に宛て寄贈されてきた非売品のものであり、彼の元にどのような情報が寄せられていたのかを知ることが出来る。(製本済)

『国の光』（ＵＨ／ＵＨ０５／８４／）
日本禁酒同盟会の機関誌。銀座会館編。『東京禁酒会月報』（１８９０～）『禁酒新報』（１８９３～）を継承し、１８９５年より『国の光』に改題。３０３号（大正七年九月一日発行)、３０５号、３０７号、３０８号、３１１号（大正八年五月一日発行）の各号を収録合本製本してある。国会図書館にはなく、唯一同志社大学図書館に３０４号、３０５号、３０７号、３０８号、３１０号が所蔵されているため、３０３号、３１１号の二冊は他でまったく見ることのできない貴重なものである（東大明治文庫に２７号から２８３号までが所蔵されている（脱落号多数))。(要修復)（製本済）

『国声』（ＵＨ／ＵＨ０５／７５／）（ＵＨ／ＵＨ０５／７６／）
内外時局研究会（千田信行編集兼発行）が発行する機関誌。内外時局に関する国内外新聞の社説、言論などを転載したもの。（ＵＨ０５－７５）には、第二巻第六号（昭和三年六月十五日発行）～第十号、第十二号、第三巻第一号を、（ＵＨ０５－７６）には、第三巻第二号～第七号（昭和四年七月十五日発行）を収録合本製本してある。歴代総理大臣が顧問をつとめ、幅広い情報が掲載されている重要雑誌。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『九州時論』（ＵＨ／ＵＨ０５／４６／）（ＵＨ／ＵＨ０５／４７／）（ＵＨ／ＵＨ０５／４８／）（ＵＨ／ＵＨ０５／４９／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５０／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５１／）

大正十四年七月。九州時論社発行。表紙の題字は頭山満。清浦圭吾や井上順三郎など、当該期の著名な政治家や軍人も寄稿しているオピニオン誌。国会図書館には所蔵されておらず、全国の大学図書館の所蔵分の欠を補う構成にもなっており、絶対量も多く、その意味でも貴重な史料といえる。（要修復）
（ＵＨ０５－４６）第一巻第四号（大正十四年七月一日）、第七号、第二年第七号、第四巻第一号～第四号（昭和三年四月十五日）
（ＵＨ０５－４７）第五巻第八号（昭和四年八月十五日）～第十一号、第六巻第一巻～第三号（昭和五年三月十五日）
（ＵＨ０５－４８）第六巻第五号（昭和五年五月十五日）～第十号、第七巻第一号（昭和六年一月一日）
（ＵＨ０５－４９）第七巻第四号（昭和六年四月十五日）、第八号、第十号～第十一号、第八巻第一号～第四号（昭和七年四月十五日）
（ＵＨ０５－５０）第八巻第五号（昭和七年五月十五日）～第十一号、第九巻第一号（昭和八年一月十五日）
（ＵＨ０５－５１）第九巻第二号（昭和八年二月十五日）、第三号、第五号～第十号（昭和八年十月十五日）

『西批利』（ＵＨ／ＵＨ０５／３０２）（ＵＨ／ＵＨ２９／９１／）
北明会の発行するシベリア情報雑誌。印刷所は北明会印刷所。ソ連成立後の極東政策の一環として、シベリア地域の政治・経済・社会をあつかったもの。ソ連内部の混乱や分裂にも言及・強調している。国会図書館や全国の大学図書館にも一切所蔵されておらず、書誌的に貴重な文献。（製本済）（ＵＨ２９－９１）には第二号（昭和三年六月二十日）～第四号（昭和三年十二月一日）を、（ＵＨ０５－３０２）には第五号（昭和四年五月）～第七号（昭和四年九月）を収録している。

『海外』（ＵＨ／ＵＨ０５／３０３／）
昭和戦前期に、国際知識の普及を目的として海外社より刊行された雑誌。「海外研究唯一の雑誌」「国民外交の先駆」「国際知識の普及」を掲げ、日本人の海外における活躍を推進すべく、井上準之助などの論説が掲載している。第四巻二十号（昭和三年十月一日発行）、二十二号～二十五号（昭和四年三月一日発行）が収録されている。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『岩永事務所通信』（ＵＨ／ＵＨ０５／５７／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５８／）
日本近代のジャーナリスト岩永裕吉の事務所、岩永事務所（東京麹町区有楽町・大正九年四月に開設）が発行する海外情報を掲載した雑誌。「岩永事務所綱領及勤務」によれば、同事務所の性格は、「本所は個人の経営に係る独立非営利の通信機関なるが故に、如何なる政

府、団体又は個人よりも何等の掣肘又は物資上の援助を受けず」とうたわれている。本誌は「毎週米国より入手致候フォーレンプレスサーヴィス通信を翻訳」したものであり、アメリカ人の執筆したアメリカの政治・外交・財政・教育などに関する実情が掲載されている。上原勇作の海外情報の入手経路を考えるための好史料である。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。同誌後継雑誌の『世界の批判』も同文庫中に所蔵されているが、こちらは京都大学図書館に、全号所蔵されている。
（ＵＨ０５－５７）には、第五号（大正九年七月）～第六号、第九号～第十四号、第十七号～第十九号（大正十年二月一日）が、（ＵＨ０５－５８）には、第二十号（大正十年二月十五日発行）～二十五号（大正十年六月一日発行）が収録合本製本されている。
ちなみに第二十五号より『世界の批判』と改題している。（製本済）（要修復）

『日華』（UH05/66）
奉天日華倶楽部（代表は日華社長、宮川隆）が発行した機関誌。満州事変前後の時期において、日中の「共存共栄」を掲げた政論雑誌である。創刊号の編集後記には「満州に現存する新聞雑誌として、日華両文を以てする政治、経済、並に時事を論議する本誌の使命」とある。満州事変後は日本の正当性を前提とした論説を展開し、国内政党にも言及している。発行人は末光源蔵、編集人は小笠原俊三、発行所は日華社、印刷所は南満印刷所。第二年第一号の編集後記によれば発行部数は約二千部。編集方針として「独立独歩」を掲げ、一切の広告や援助をうけないことを謳っているが、以後の紙面をみると広告は絶無ではないようである。（製本済み）（要修復）
収録号数は以下の通り。
創刊号（昭和四年十二月一日発行）、第二年第一号、第二巻第三号、第二巻十二月号、第三年第一号、第三年四月号、第三年十月号（昭和六年十月一日発行）

『縦横』（ＵＨ／ＵＨ０５－８１／）
縦横社が発行する政論雑誌。森傳、野田武夫、高田米吉らが執筆。第三巻第二号（昭和三年二月一日発行）～第十一号、第四巻第一号～第四号（昭和四年四月十三日発行）を収録合本製本してある。編集人兼発行人は宮田晋。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重なもの。（製本済）（要修復）

『東亜経済情報』（ＵＨ／ＵＨ０５／１９６／）（ＵＨ／ＵＨ０５／１９７／）（ＵＨ／ＵＨ０５／２０２／）
東亜時局研究会の発行する総合政論雑誌。複雑に推移する東亜時局に対し、日本帝国の採るべき態度を考究するための材料として昭和四年に発刊されたもの。編集人今井豊蔵。発行所東亜時局研究会。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない貴重なもの。（ＵＨ０５－１９７）には、第二巻第七号（昭和五年七月一日発行）～第十二号（昭和五

年十二月一日）を、（ＵＨ０５－１９６）には、第三巻第一号（昭和六年一月一日発行）～第二十六号（第三巻第六号、昭和六年六月一日発行）を（＊第三巻第三号より通巻表示、第三号は通巻第二十三号)、（ＵＨ０５－２０２）には、第三十三号（第四年新年号、昭和七年一月一日発行）～三十九号（七月号、昭和七年七月一日）を収録合本製本している。(製本済)

『日本人』(UH05/44)

旭川市に本部をおく、仏教系の国粋主義団体が刊行した雑誌。反政党・反個人主義を掲げる。編集兼発行人は楯玄秀、発行所は日本人社、印刷所は大洋堂印刷所。有馬頼寧、東郷平八郎などの寄稿あり。毎号表紙裏に「信条」「宣言」が載せられており、前者には「我等ハ日本人トシテノ諸問題ヲ解決シ、天道ト人道トヲ体現シテ前面ニ進路ヲ啓キ皇国ニ奉仕スルヲ以テ信条トス」とあり、後者では「現時社会ノ状態ハ頑冥ナル自己主義ト誤マレル物質万能主義是也。如斯思想ノ瀰蔓スルヤ、民衆ハ建国ノ理想ヲ忘レ（中略）斯ル嫌忌スベキ問題ヲ解決」するために「大日本民族主義」を標榜している。第四年七月号には日本人社調査部による「仏教各宗派現勢一覧表」が収録されている。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

（製本済み）（要修復）

収録号数は以下の通り。

第三巻第五号（昭和四年五月十日発行)、第四巻一月号～第四巻十月号（昭和五年十月五日発行）

『東京偕行社社員名簿』（ＵＨ／ＵＨ２８／１４／）（ＵＨ／ＵＨ２８／１５／）

陸軍将校の修養・親睦や軍事研究を目的として組織された偕行社の東京支部会の名簿。大正十年のもののみが東大総合図書館に所蔵されているが、それ以外の年代のものは、全国の大学図書館にはない。（ＵＨ２８－１４）は大正八年五月中旬、（ＵＨ２８－１５）は大正八年十一月上旬のものであり、重要な史料であると考えられる。

『山岳』（Ｕ／Ｕ２９１／２６／）（Ｕ／Ｕ２９１／１０９／）（Ｕ／Ｕ２９１／１０７／）（Ｕ／Ｕ２９１／２７／）（Ｕ／Ｕ２９１／１０５／）（Ｕ／Ｕ２９１／１０６／）

日本山岳会が発行する山岳をテーマとした雑誌。様々な山岳・登山についての記事、山岳植物などに関する記事、山岳関係雑報などが綴られている。発行兼編集者は明治年間のものでは高頭仁兵衛、日本山岳会事務所が発行、東京堂から発売されている（定価五十銭、明治四十四年)。昭和期以降のものは秩父宮記念スポーツ図書館などに収蔵されているが、明治大正期のものは、全国の大学図書館でも見られない貴重なものである。(要修復)

（Ｕ２９１－２６）～第九年第二号（大正三年九月十二日発行）

（Ｕ２９１－２７）～第六年第三号（明治四十四年十一月二十六日発行）

（Ｕ２９１－１０５）～第八年第三号（大正二年十二月十五日発行）
（Ｕ２９１－１０６）～第六年第二号（明治四十四年七月十日発行）
（Ｕ２９１－１０７）～第十一年第三号（大正六年九月十八日発行）
（Ｕ２９１－１０９）～第九年第一号（大正三年六月十五日発行）

『修学旅行案内』（U／Ｕ２９１／３３／）
大正六年に陸軍幼年学校が行った修学旅行のパンフレット。事前の講義概要も含め、当時の陸軍幼年学校がどのような学校行事を行っていたかを知ることが出来、とても興味深い。大正六年四月発行。幼年学校長松田元武の訓示あり。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『おもひ出草』（U／Ｕ２８９／７／）
越後長岡藩士出身の橋本豊太郎（外務省職員、朝鮮総督府官吏、鮮満開拓株式会社）が、還暦を記念して発行した自伝。昭和三年八月五日刊行、非売品。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

『故　依岡省三君追憶』（ＵＨ／ＵＨ２８／８３／）
高知市出身であり、南洋へ雄飛してボルネオを根拠地に商業などを営んだ人物の伝記。依岡省三略歴、関係者による追懐録などが収録されている。浅岡重喜編、大正九年十一月一日発刊、発行は依岡神社奉祭会。非売品。こうした軌跡を歩んだ人物の伝記はとても珍しく、また国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていないという点でも重要。

『維新前後　都城島津家勤王事蹟』（UM／UM２１／３／）
幕末政局における都城島津家の動向を記した冊子。奥付け等書誌情報なし、表紙に「昭和七年参月拾日」の印、「島津家」の書き込みあり。上原の郷里都城の藩主島津家の幕末期の歴史を編纂したものであり、国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵ないという点で貴重。

『上原元帥母堂』（UM／UM２８／１１／）
上原勇作の母たか子の評伝を記した小冊子。都城市教育会編、他の書誌情報なし。（UM２１／１０）の『上原元帥　郷土史談話』の前半部分はこの書についての批評である。本文中に大正三年七月の日付あり。国会図書館にも全国の大学図書館にもない重要なもの。（要修復）

『評論社画史』（UM／UM２８／９／）
宮崎県域の人物や事蹟を網羅した小辞典。非常に簡潔ながらテンポよい表記がなされてい

る。なか表紙に「斯書を後の『日向史』を編む者に遺す」とあり。百六十三頁に一面を用いて上原文庫の解説がある。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。若山甲蔵著、宮崎県政評論社、大正九年二月十一日発行。

『島津公爵の盛挙と旧薩摩人の責任』（UM／UM２８／１３／）
戊辰五十年祭と三公（島津斉彬・島津久光・島津忠義）銅像除幕式を記念して、大正六年十一月二十三日に、西本願寺の本堂で同郷人を集めた上、有志総代の松方正義が講演（上原勇作が代読）した内容を小冊子にまとめて関係者に頒布したもの。樺山資紀も別室で演述している。薩摩・大隅・日向三州出身の晩年を迎えた大物政治家が、後進に対して地元の歴史的功績と未来に向けた戒めを説いたものと評価することができる。「有志」による序言の日付は大正七年三月、和綴本。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『義勇』（UM／UM３７／１３／）
宮崎県立都城中学校義勇会の会誌。義勇会は都城中学校の職員・生徒が組織する会で、その会費収入は、おおむね中学校各クラブの活動補助に充てられている。雑誌『義勇』は、その会誌として発行されているもので、郷土出身の名士による講話、会員による投稿、各クラブ活動報告などで構成されている。上原の地元都城の動向が良く分かる史料である。『義勇』第三十号には、郷土出身海軍志望学生のための寄宿舎、三省舎の生徒監督をしている藤井大佐の講演記録が掲載されているが、その中で藤井は、都城への帰郷を上原に伝えたところ、郷土の若者が元気でやっているかどうか、特に都城中学の様子を伝えて欲しいと言われたと述べ、上原の郷土への関心振りについて言及している。第二十八号（大正十五年四月号）～第三十一号（昭和四年三月）を収録合本製本してある。宮崎県立都城中学校義勇会発行。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『講話資料』（U／U３９０／４０／）
参謀本部が発行していた資料類。各種講演に際して作られた参考資料をとじたもの。
「講話資料（昭和二年二月作成）」「講話資料　第一編（昭和五年二月作成）」「講話資料　第二編（昭和五年二月作成）」「講話資料　第三編（昭和五年二月作成）」の四冊が合本製本されている。この内最初の「講話資料」には、「世界文化の立場から見たる日露戦争の意義」「戦役間の挿話、逸話」が収録されている。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『朝鮮施政ト外評』（UH／UH３１／５４／）
韓国併合後の朝鮮問題について、主として外国新聞に掲載された社説・記事を朝鮮総督府が収集し、翻訳、抄録したもの。大正元年九年発行。総督府がいかに外聞を気にしていたかをうかがい知ることの出来る面白い史料。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵な

し。

『月刊　国政資料』（ＵＨ／ＵＨ３１１／１１７／）
西野政務調査局が発行する政論雑誌。編集発行人は西野雄治。国家的見地から政治、経済など重要問題に関する適切な資料を提供すべく創立された西野政務調査局が、「内外国情刻々の流転変動を明らかにするため」発行しており、貴衆両院議員や政界の要人などに配布された。第二巻第一号（昭和七年一月一日発行)、第三号～第九号（昭和七年九月一日発行）が収録合本製本されている。全国の大学図書館に所蔵なし。

『財団法人島津奨学資金創立十年記念会誌』（ＵＨ／ＵＨ３７／４０／）（ＵＨ／ＵＨ３７３／１／）
旧薩摩藩領の若者が、陸軍幼年学校を初めとする東京方面の各学校に進学する際、その資金となった島津奨学金の沿革や諸データをおさめた書物。国会図書館や全国の大学図書館には一切所蔵されていない。財団法人島津奨学資金、大正三年十月三十一日発行。編集兼発行者は宇宿勇輔、印刷所は東洋印刷株式会社。非売品。（要修復）

『第五回旧薩摩藩学友大会記録』（ＵＨ／ＵＨ３７／１３／）
『郷土に関するパンフレット』四号（ＵＭ／ＵＭ３７／７／）所収の学友会編『第拾回旧薩摩藩学友大会記録』（大正五年十一月ごろの発行と思われる）（上原勇作の写真と講演記録あり）の類書。記録係編。奥付はないが、大会の開催は明治四十四年十月十七日。趣意書や演説記録、会員名簿などがおさめられ、地域団体の活動実態が窺える史料といえる。

『指揮鑑　甲』（ＵＨ／ＵＨ３９／３２３／）
陸軍士官学校大尉の石藤市勝による、用兵に関する実践書。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。現役の軍人による戦術書として価値ある史料といえる。小林又七支店、明治三十四年十一月十五日発行。

『帝国在郷軍人会　第二回講習会講義録　下巻』（ＵＨ／ＵＨ３９／３８７／）
帝国在郷軍人会本部編。奥付はないが、表紙に「昭和三年九月代謄写」とあり。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。標記通りの内容だが、各講義題目は「皇国体に就て」「歩兵操典改正に就て」「我国現下の思想問題」「社会問題　融和)」「国防論」「各国空軍現況」である。上巻がないことが惜しまれるが、帝国在郷軍人会の実態やそこで共有されていた意識が窺える好史料である。

『大正十一年陸軍特別大演習仲多度郡記録』（ＵＨ／ＵＨ３９／３８５／）
大正十一年に香川県仲多度郡で行われた陸軍特別大演習についての記録。上原宛の送付状

（印刷物）が挟み込まれている。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。図表や写真も用いられており、重要な史料であるといえる。香川県仲多度郡編纂、印刷所は横田印刷所。大正十二年二月一日発行。（要修復）

『榛名霧島型巡洋戦艦ト日清、日露戦役當時巡洋艦トノ比較』（ＵＨ／ＵＨ３９／５２２／）
標記に関する図表。表紙に「一」と番号が付されており、このほか「二　列強海軍弩級艦数一覧表」「三　榊型駆逐艦ト日清、日露戦役当時水雷艇駆逐艦トノ比較」「四　列強海軍駆逐艦数一覧表」「五　榊名霧島型要目其他」がセットになっている。さらに、同じ史料が二点合綴されている。表紙裏には上原勇作本人が大正五年三月十五日に寄贈したものである旨が記されている。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『召集工兵佐官図上戦術竝戦術実施記事』（ＵＨ／ＵＨ３９／３３２／）
標記に関して明治四十四年に行われた演習や試験の内容を記録したもの。奥付なし。工兵監部編、明治四十四年三月調製。問いと答えのやり取りが記されていたり、作戦地図が豊富に収録されていたり、当該期の召集士卒に対する演習の実態の一端が窺える好史料である。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『大正四年陸軍特別大演習記事梗概』（ＵＨ／ＵＨ３９／３０４／）
編集兼発行者は石井良次郎、発行所は東京偕行社。印刷所は凸版印刷株式会社分工場。大正四年十一月十五日発行。標記の演習における模擬戦の経過を記したもの。演習の実態の一端がわかる好史料といえる。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（損壊甚大・要修復）

『雪夜自省録』（Ｕ／Ｕ３９０／４５／）
軍事一般に関する心覚えが書かれた小冊子。「之ヲ複写シテ戦友ニ頒ツ」との巻頭言があることから、軍隊内部でのみ配布されものと考えられる。特に軍事教育に関して重点が置かれ編纂されている。もともと、「某中将」の談話をまとめ『三輪余響』として編纂されていたものの改訂版。両書ともに国会図書館や全国の大学図書館には所蔵されていない。奥付がないため編者、発行年は不明。「序」の日付は大正八年二月。不明な点は多いが、当時の軍人教育の一端を知る好史料と考えられる。

『下志津野営日誌』（Ｕ／Ｕ３９／４６／）
明治四五年に千葉県下志津で野営を行った際の記録。本文は手書き。日誌の執筆主任は牛久保大尉。射撃訓練の成績や想定戦況、さらには教官の談話など、訓練時の様子が詳細かつ克明に記述されている。当時の軍事訓練の状況を知る上での好史料と言える。また、この時の野営記録は国会図書館や大学図書館には所蔵されておらず、その意味でも貴重なも

のだと言える。

『近代的歩騎兵の装備』（ＵＨ／ＵＨ３９／３７６／）
陸軍技術本部が編纂した『参考資料』の第六十五号として発行された謄写版の小冊子。発行は昭和七年。『参考資料』は、列強諸国の陸軍兵制や装備、編成に関する報告書や講演録がまとめられたものであり、まさに日本陸軍の参考資料として編纂されたものと考えられる。謄写版であることからも、陸軍の内部資料として作成されたことが良く分かる史料である。その中で本書は、ドイツ歩兵の編成とアメリカ・イギリスの騎兵の編成・装備についてまとめたものである。陸軍内部における海外軍備の情報収集を知る上での重要資料と考えられる。国会図書館には所蔵されておらず、各大学図書館に『参考資料』の三十三号、三十九号、四十二号、四十七号、五十六号が残っているのみで、本号はどこにも所蔵されていない。（要修復）

『兵役義務者問題講演録』（ＵＨ／ＵＨ３９／３９０／）
兵役義務者の待遇改善（物質的ではなく精神的！）を趣旨として結成された兵役義務者後援会が開催した講演会の記録をまとめた小冊子。昭和四年に発行。講演者は荒木貞夫、泉二新熊、佐藤鉄太郎、松波仁一郎。兵役義務者の共産主義思想傾注への対策や、兵営内の風紀紊乱への対応策など、軍隊内の精神的な紐帯強化について述べられている。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。（要修復）

『明治三十九年度陸軍大学校参謀演習旅行経過並総評』（ＵＨ／ＵＨ３９／２６９／）
陸軍大学校の卒業直前に行われる参謀演習旅行の記録。参謀演習旅行は、陸軍大学校の戦術演習の総仕上げとして位置づけられるものである。本書は明治三十九年の参謀演習旅行時のもの。表紙裏に「木下中佐寄贈　大正五年三月廿八日」とある。木下中佐は、明治三十九年度の陸軍大学校卒業者の木下文次（後の中将）だと推定され、民衆教化のために設置された当文庫に、当事者から直接寄贈されたものだと考えられる。本書の中身は、東軍、西軍に分かれた部隊の行動記録が日誌形式で並列して掲載されている。国会図書館、大学図書館には所蔵されていないが、本書に関連するものとして『陸軍大学校参謀演習旅行記事　明治三十九年度』が国会図書館に所蔵されている。同書と併せて分析することで、参謀演習旅行の実態を克明に知ることができる。（要修復）

『軍事』（ＵＨ／ＵＨ３９／１６３／）～（ＵＨ／ＵＨ３９／１６８／）
軍事討究会の機関誌。発行所は教育研究会。同会の綱領には、「一、軍事に関する一切の事項に付広く意見を発表し現役及在郷軍人の参考に資し又社会一般に軍事知識を普及するを目的とす　二、右目的を達する為軍事討究会に於て研究せる事項を主とし且一般軍人並に識者の公正なる意見を掲載す」と掲げられている。論説執筆者の多くは現役の陸軍軍人で

ある。軍人よる一般社会への軍事知識普及が目的とされており、軍の民衆教化運動の実態が窺える好資料であるが、拓殖大学に多くが所蔵されおり、本文庫により、同大学の欠号を若干補完する程度にとどまるため、重要度を下げた。
合本製本されたものと収録号数の対照は以下の通り、
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６３／）第一巻一号～七号
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６４／）第三巻一号～六号
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６５／）第三巻七号～十二号
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６６／）第四巻一号～六号
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６７／）第四巻七号～十一号
（ＵＨ／ＵＨ３９／１６８／）第五巻一号～五号
うち、三巻八号、四巻二号、四巻十一号、五巻一号～五号が拓殖大学の欠号分。
（＊すべて製本がはがれており、要修復）

『陸軍特別大演習名古屋市記録』（Ｕ／Ｕ３９６／２／）
昭和天皇踐祚後はじめて行われた陸軍特別大演習の記録。名古屋市役所編で、昭和三年に発行。大演習実行時の記録のみならず、実行に先だって、名古屋市が行った準備、例えば「損害賠償規定」や「市民ニ対スル注意配布」なども詳細に記録され、大演習の状況を知る上では不可欠の資料である。国会図書館、大学図書館にも所蔵されていない。（要修復）

『旭川軍用水道誌』（ＵＨ／ＵＨ６８／１０４／）
第七師団の旭川駐屯地の軍用水道敷設工事に関する報告書。明治四十二年に同地でチフスが流行したことが水道敷設のきっかけとなる。工事の模様が詳細に記録されており、兵営が具体的にどのようにして整備されていったのかを知ることができる面白い史料。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。

『亡父を偲ぶ』（Ｕ／Ｕ２８９．１／Ｎ／３／）
陸軍大将中村覚の事績について、大正十四年二月二日に東京市青山斎場にて朗読されたものの原稿をまとめ、写真などを附して伝記調にしたもの。ごく簡単な内容ではあるが、このクラスの軍人の伝記的史料は珍しい。昭和二年発行。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『平和の礎』（ＵＨ／ＵＨ３９／１１４／）一巻二号～一巻六号（ＵＨ／ＵＨ３９／１１５／）一巻七号～一巻十号（ＵＨ／ＵＨ３９／１１６／）二巻一号～二巻四号（ＵＨ／ＵＨ３９／１１７／）二巻五号～二巻七号
編集兼発行人は倉沢理一、発行所は平和社。発行の趣旨に「吾人は一国の軍備は即ち世界平和の基礎たるを信ずると同時に、一国の軍備は常に国民の公明熱誠なる衷情に基礎すべ

きことを確信す。然るに我国従来国民の間に適当なる軍事上の研究機関を欠き国民と軍事とは動もすれば疎隔の憾を有す」とあることからも、本誌は民間団体による軍事雑誌と位置付けることができる。明治新聞雑誌文庫に一巻四号～十号、二巻六号～七号まで所蔵されており、本文庫により、若干の号を補うことができる。（製本済）（要修復）

『戦後産業計画』（UM／UM６０／１／）
鹿児島県の戦後産業計画諮問会編纂の県内各種産業に関する統計書。大正八年発行。本書からは、「今次戦乱ノ影響トシテ産業上多大ノ変態ヲ来シタル」と、第一次世界大戦後の情勢変化を敏感に察知し、県内産業の再編を試みようとする鹿児島県の姿を知ることができる。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『軍隊内務の内容』（UH／UH３９／５２８／）
軍隊内の内務一般について書かれた解説書。奥付はなく、発行年月日は不明。緒言中に「諸官宜シク本職ノ企画ノ存スル所ヲ諒シ熱烈ナル研鑽ニ依リ」とあることからも、軍隊内部でのみ発行されたものと考えられる。平時の兵営内の様子を窺う上での好史料だと思われる。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。（要修復）

『国光』（U／U０５／３／１／）（U／U０５／３／３／）（U／U０５／３／４／）（U／U０５／３／５／）（U／U０５／３／７／）（U／U０５／３／８／）（UH／UH０５／１８７／）
大日本国光宣揚会本部発行、創刊時点の編輯兼印刷人は北林政次郎、印刷所は浪速印刷株式会社。大阪に本部をおく国粋主義団体による教化雑誌で、日蓮主義に基づいて反西洋・反社会主義、反個人主義を鮮明に、「神国」思想を喧伝する編集方針をとっていた。巻頭に挙げられる「吾人の信条」によれば、「忠孝主義」「国本主義」「積善主義」「共存主義」「向上主義」を標榜している。会長や顧問には陸海軍軍人が名を連ね、寄稿も多い。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。当該期の典型的な国粋主義団体の活動実態がわかる史料であるといえる。（製本済）（要修復）
合本されたものと収録冊子の概要の対照は以下のとおり。
（U／U０５／３／１／）第二十号（大正十二年十一月一日発行）、第二十二号～第二十七号（大正十三年六月一日発行）　※第二十五号の表紙は間違って二十四号と印刷。
（U／U０５／３／３／）第三十六号（大正十四年三月一日発行）～第四十二号（大正十四年九月一日発行）
（U／U０５／３／４／）第十三号（大正十二年四月一日発行）～第十六号（大正十十二年七月一日発行）
（U／U０５／３／５／）第一巻第一号（大正十一年四月一日発行）～第一巻第五号（大正十一年八月一日発行）

（Ｕ／Ｕ０５／３／７／）第二十八号（大正十三年七月一日発行）～三十四号（大正十四年一月一日発行）

（Ｕ／Ｕ０５／３／８／）第一巻第六号（大正十一年九月一日発行）、第一巻第八号～第一巻第十二号（大正十二年三月一日発行）　※第一巻第九号の後に特別号（大正十二年一月一日発行）あり。

（ＵＨ／ＵＨ０５／１８７／）第五十八号（大正十六年一月一日発行）～第六十一号、第六十三号～第六十五号、第六十八号（昭和二年十一月一日）

Ｃ．それなりに重要なもの

『如是我観』上下（Ｕ／Ｕ１０４／６／）（Ｕ／Ｕ１０４／７／）
陸軍少将荒城卓爾の考えを綴った自家本。大正十五年一月執筆。未公刊。北大図書館に所蔵あり。
（荒城は砲兵出身、戦術論数冊を執筆している）

『最新科学哲学号』（Ｕ／Ｕ１０４／１３／）
雑誌『日本及日本人』（政教社発行）の秋季臨時増刊。大正十一年九月二十日発行。第八百四十五号。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『国民思想と天理教』（Ｕ／Ｕ１６／７／）
天理教教会本部発行のパンフレット。発行兼編集者は道友社編集部（代表板倉槌三郎）。大正八年十月二十五日発行。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『城林』（ＵＨ／ＵＨ０５／２９９／）
曹洞宗関西尼僧学林（日清戦後、臥薪嘗胆の気風の中で、尼僧界を覚醒させるべく高等女学校程度の教育を授けるべく設置された学校組織）の同窓会として組織された城林会の機関誌。第一号（創刊号）（大正十一年七月二十四日発行）、第二号、第三号、第七号の四冊を合本製本している。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（要修復）（製本済）

『桃太郎の教訓と大和民族の使命』（ＵＨ／ＵＨ１５／９０／）
野一色義寿の著した小パンフレット。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『楠正成ノ訓話』（ＵＨ／ＵＨ１５／７／）
水交社記事第七巻第四号付録として発行された道徳書。もともとは伊藤博文所蔵のものが死後末松謙澄にわたり、それを乃木希典が筆写したのが種本となっている。明治四十三年十二月発行。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（要修復）（虫食いあり）

『紫電』（ＵＨ／ＵＨ０５／７９／）（ＵＨ／ＵＨ０５／４５／）
東京市電気局共済組合の発行する機関誌。（ＵＨ０５－７９）には、創刊号（大正十年一月二十日発行）～五月号までが、（ＵＨ０５－４５）には、六月号から十一月号までが、収録合本製本されている。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（要修復）（製本済）

『財団法人　啓明会々誌』（ＵＨ／ＵＨ０５／３９／）（ＵＨ／ＵＨ０５／４０／）（Ｕ／Ｕ２１９／１０／）
財団法人啓明会（研究、調査、著作を助成し、発明、発見を奨励するために設立された民間団体）が開いた講演会の速記録。（ＵＨ０５－３９）には、第十二回講演集（大正十三年九月二十日）、第十三回、第十七回、第二十一回、第三十四回（昭和四年十二月八日）が合本製本されている。（ＵＨ０５－４０）には、紀要第八号（昭和五年七月二十日）、紀要第九号（昭和五年十月二十七日）、第三十八回講演集（昭和五年十二月二十日）第四十四回講演集（昭和六年七月二十七日）が合本製本され、（Ｕ２１９－１０）には単独で第十五回講演集が収められている。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）（要修復）

『櫻友會會報』（ＵＨ／ＵＨ０５／１８６／）
学習院卒業生による同窓会「櫻友会」の機関誌。第四号（大正十一年十一月十二日発行）、第五号、第十八号（大正十四年十一月五日発行）を収録。大正十五年十一月時点での櫻友會会員名簿（十二月十五日発行）が付属している。発行は櫻友會、印刷は一匡印刷所、学園印刷所。非売品。黒田清輝帝国美術院長による講演「東西両洋における美術について」など各種講演記録や、学習院卒業生のクラブ活動などが主な内容。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）（要修復）。

『我国体之本旨』（ＵＨ／ＵＨ１２／１２７／）（ＵＨ／ＵＨ１２／１２８／）
編集兼発行者は佐藤範雄、発行所は国体神勅普及会、印刷所は山陽新報社印刷部。古史伝、井上毅『言霊』、加藤房蔵『憲政本論』などから天皇に関する記述を転載した冊子。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『天壌無窮』（ＵＨ／ＵＨ１２／１３０／）
著者兼発行者は田中巴之助、施本主は国柱会本部。印刷所は秀英舎第一工場。大正四年十一月発行。「初版十万部印刷」。国柱会の臨時大会の決議により、明治天皇の大典奉祝記念として頒布された冊子。立正大学図書館などに所蔵。

『日本人の大使命と新機運』（ＵＨ／ＵＨ１２／１２４／）
上杉愼吉著。敬文館発行。印刷所は秀英舎。大正十年八月発行。日本が世界の一等国になったとの自負から、アジア代表として未来の世界戦略をえがいた著。滋賀大図書館などに所蔵。

『至誠』（ＵＨ／ＵＨ０５／６２／）
名古屋を拠点とした仏教系団体の機関誌。第八巻七十八号（昭和六年）～八十一号、八十

三号、八十五号～八十八号、第九巻九十号（昭和七年）を収録。発行兼編集印刷人は鈴木光円、発行は至誠会、印刷は誠文社。山川健次郎や井上哲次郎の寄稿あり。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（要修復）

『復興亞細亞の精神』（ＵＨ／ＵＨ１２／１２５／）
柳澤省三著。文録社、昭和七年一月刊行。当該期の日本の極東政策における所見を、精神的哲学的見地から述べた論文集。京大図書館などで多数所蔵。

『外交』（ＵＨ／ＵＨ０５／２０４／）（ＵＨ／ＵＨ０５／２０５／）（ＵＨ／ＵＨ０５／２０８／）
外交社が発行している、外交に関する論説雑誌。早稲田大学人脈がかつて発刊していた『外交時報』の後継誌とでもいうべき存在であり、執筆者には大隈重信、加藤高明、高田早苗ら大隈系の人物が名を連ねている。第一次大戦期のものがすべてであり、大隈内閣を支える人々の外交論を知ることが出来るという点で極めて貴重な文献であるが、山口大学図書館に第一巻から第三巻までの全号が所蔵されており、重要度としては少し下がる。
（ＵＨ－２０４）には、第一巻第五号（大正四年三月一日発行）、第二巻第四号～第七号（大正五年四月一日）を、（ＵＨ０５－２０５）には、第二巻第八号（大正五年五月一日）～第十二号（大正五年九月一日）を、（ＵＨ０５－２０８）には、第三巻第一号（大正五年十一月一日）～第四号（大正六年二月一日）を収録合本製本している。（製本済）

『旭光』（ＵＨ／ＵＨ０５／３３４／）
昭和八年に旭光社より刊行された月刊雑誌。編輯兼発行人は東京の私立精華高等女学校校長の勝田孫弥。明治維新に関する論説が掲載されている。第一号～第六号を所蔵。同志社大学図書館にごく一部所蔵されているが、上原文庫の方が多い。（製本済）

『敬神教育資料』（ＵＨ／ＵＨ０５／３１４／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３１７／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３１８／）
大正十年に伊勢宇治山田市の敬神教育会より刊行された月刊雑誌。雑誌の刊行趣意には「健全なる国民精神の養成と時代思想の善導に貢献せんとする」ことが掲げられ、内務省神社局長や、皇學館教授などの論説が多数掲載されている。所蔵巻号（第三十四号～五十三号、五十五号～六十五号）。一橋大学図書館などに所蔵あり。（製本済）

『ジャパン、マガジーン』（ＵＨ／ＵＨ０５／３０８／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３０９／）
大正期にジャパン、マガジーン社より刊行された雑誌。発行兼編集人は山下彌七郎。雑誌の表題は『THE JAPAN MAGAZINE』となっており、製本背表紙の『ジャパン、マガシーン』とは異なる。本文は英語。外国人による日本に関する論説や旅行記、詩などが掲載さ

れている。所蔵巻号、第三巻（第一号～第七号)。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。(製本済)

『心光』(ＵＨ／ＵＨ０５／３１１／)
大正末期に宮崎県都城市摂護寺内に組織された心光社（宮崎県下の浄土真宗の寺院結社）より刊行された月刊雑誌。教誨士や布教師の執筆した仏教に関する論考や檀家の宗教生活に関するエッセイが掲載されている。所蔵巻号、第一巻第二号～第三巻第六号。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。(製本済)

『聖心会会誌』(ＵＨ／ＵＨ０５／３２０／)
大正期に台湾で刊行された聖心会の機関誌。聖心会は、「我邦神儒仏の融合を計り其の教義を統一」することを目的として結成された宗教結社。毎月一度開催した心学道話に関する講演会の講演記録が掲載されている。所蔵巻号、(第二十二号～二十六号、第三十八号)。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。(製本済)（要修復)

『一徳』(ＵＨ／ＵＨ０５／６４／)
一徳会の機関誌。一徳会は明治期に結成され、民衆の道徳教育の活性化を活動目的とする全国団体（本部は京都に置かれる)。会長は高橋正風。機関誌には、会員名簿が掲載されている。会員が投稿した家庭善行録が多数掲載されていることが本誌の特徴である。所蔵巻号、(第十一号（明治四十三年)、第十四号、第二十二号～二十三号（大正二年)) 東大明治文庫などに所蔵あり。(製本済)

『櫻稲』(ＵＨ／ＵＨ０５／４３／)
大正末期に青島商業学校々友会・青島学院校友会・櫻稲会が刊行した校友会機関誌。発行所は青島学院学芸部。非売品。在校生による学校行事の記録や卒業生の追想文が掲載されている。所蔵巻号、(第四号、第六号櫻稲受格記念号)。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。(製本済)（要修復)

『回天時報』(ＵＨ／ＵＨ０５／５９／)
昭和戦前期に刊行された回天時報社の機関誌。回天時報社社長は池田弘。内田良平など右翼運動家による満州事変後の時局に関する論説が多数掲載されている。所蔵巻号、第六巻第十号～十一号、第七巻第一号～第二号。東大明治文庫に所蔵されている。(製本済)（要修復)

『正道』(ＵＨ／ＵＨ０５／８３／)
昭和戦前期に刊行された正道会の機関誌。正道会は「日蓮大聖人の指導原理を研鑽信奉」

する会。具体的活動方針としては、「神仏一致の究明」、「神仏儒道を融和せしめた真の信仰を枢軸として、現代社会のあらゆる悪を精算すべく奮闘」することがうたわれている。顧問には一条実孝、床次竹二郎・頭山満・小笠原長生・樺山資英が名を連ねている。所蔵巻号、第一号、第三号～第十号。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）（要修復）

『世界の批判』（ＵＨ／ＵＨ０５／５２／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５３／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５４／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５５／）（ＵＨ／ＵＨ０５／５６／）
＊詳しい内容については、『岩永事務所通信』の項目を参照のこと。第二十六号（大正十年七月一日）～第五十二号（大正十二年八月十五日）まで所蔵されているが、京大図書館に全号が所蔵されているため、重要度としてはこのランクに下がる。

『朝鮮の人の篤行美談集』第一集（ＵＨ／ＵＨ１５／１３４／）
「内鮮一体」「内鮮融和」を図るために朝鮮憲兵隊司令部が発行した小パンフレット。昭和八年一月八日発行。日本の植民地支配に協力した「良き」人々のエピソードが次々と登場してくる。朝鮮憲兵隊が民政政策にどのようにコミットしようとしたかが分かる珍しい史料だが、滋賀県立大学図書館に所蔵あり。

『平壌商工案内　附商工人名録』（ＵＨ／ＵＨ５０／４／）
大正五年五月に設立された平壌商業会議所が刊行した、平壌の商工業概況案内書。大正六年七月二十三日発行のもの。附録の商工人名録は、平壌府営業税十円以上を納める朝鮮人会員も含む。小樽商科大学図書館などに所蔵されている。

『調和』（ＵＨ／ＵＨ０５／６０／）
明治四十二年九月に創設された養真会（宇宙純真の理法に従い、真人の境地に至ろうとする「調和道」を推進する団体）の機関誌。編集発行者池田良助。発行所は養真会出版部。第百三十五号（大正十一年九月号）～百三十八号（大正十一年十二月一日発行）を収録合本製本している（製本済）。

『天真』（ＵＨ／ＵＨ０５／７８／）
東京川端画学校の発行する学校雑誌。発行人兼編集人は中尾勝徳。随筆、俳句などを掲載している。第一巻第二号（明治四十五年二月十五日発行）～第七号（明治四十五年七月二十日発行）を収録合本製本している。（製本済）（要修復）

『唯一仏教』（ＵＨ／ＵＨ０５／３００／）
日蓮宗系唯一仏教団が組織する唯一仏教研究会の機関誌。故清水梁山師の命日（二月十日）

にちなんで名付けられた十日会（法義研究会）の会報「十日会月報」を改題し、第三十一号（昭和六年四月号）より『唯一仏教』となった。第三十一号（創刊号、昭和六年四月一日発行）～第三十三号、第三十五号～四十一号、四十四号～四十六号（昭和七年七月一日発行）を収録合本製本している。（製本済）

『日本思想』（Ｕ／Ｕ１２１／１／）～（Ｕ／Ｕ１２１／３／）、（Ｕ／Ｕ１２１／６／）
無水庵発行の右翼系政論雑誌。編集印刷人遠藤友四郎。（Ｕ１２１－１）には、第四巻第一号（昭和三年一月一日）、第六巻第七号、第六巻第九号～第十号、第七巻第一号～第二号、第七号第四号（昭和六年四月一日発行）を、（Ｕ１２１－２）には、第八巻第八号（昭和七年十月一日発行）、第八巻第二号（号外）、第八巻第九号、第九巻第一号～第九巻第二号、第九巻第七号（昭和八年十月一日発行）を、（Ｕ１２１－３）には、第八巻第一号（昭和七年一月一日発行）～第七号（昭和七年八月一日発行）を、（Ｕ１２１－６）には、第七巻第五号（昭和六年五月一日）～第十号、第十二号（昭和六年十二月一日）を、収録合本製本している。（製本済）

『大久保公神道碑訳文』（ＵＨ／ＵＨ１７／２６／）
明治四十三年に明治天皇の命により建てられた、大久保利通を祀る石碑の碑文（文：重野安澤勅撰）。昭和三年五月に大久保没後五十年祭を催すにあたり、編纂されたもの。大久保甲東先生五十年祭典会編。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていないという点では貴重なものだが、内容的には碑文をおこしたものに過ぎないため、重要度という点では落ちる。

『昭和四年の朝鮮神宮』（ＵＨ／ＵＨ１７／２７／）
昭和四年の朝鮮神宮に関する総括的報告書。一年間に行われた恒例行事、特別の式典、社務日誌抜粋、祭典参列者名簿、神前結婚社氏名など。昭和五年四月三日発行。

『日本』（UH05/269）
　行地運動を行っている行地社の機関誌。第三十四号の編集後記によれば「行地社同人は、維新日本の建設に一身を献げる」「世界の道義的統一を実現する」ことを目的としている。第六十二号の編集後記によれば発行部数は約三千部。第三十七号は「三周年増大号」である。大川周明、ラス・ビハリ・ボース、平泉澄などが寄稿している。具体的な政論というよりは、精神的側面にかかわる論説が多い。『士華』（UH/UH05/62/）との関連でいえば、陸軍士官学校で行われた中華民国留学生を対象とした大川周明の連続講演「国史概論」が連載で収録されている。編集兼発行人は行地社本部（代表、狩野敏）、発行所は行地社出版部、印刷所は福神製本印刷所。該当号は東大明治文庫にすべて収録されており、書誌的な重要度は下がる（製本済）

収録号数は以下の通り。
第三十四号（昭和三年一月一日発行）～第三十七号、第六十二号（昭和五年五月一日発行)。

『日本新論』（UH05/41）（UH05/42）（UH05/61）
『大東文化』（1924～1931）という政論雑誌が新装したもの。社会主義の台頭を意識しながら、現今の日本社会を物質主義と指摘した上で「こころ」の充実を解いた編集方針となっている。時局柄、満州事変に関する国際社会の批判に反発する論調の論説が目立つ。ラス・ビハリ・ボース、鳩山一郎、井上哲次郎、蜷川新などの寄稿あり。発行兼編集人は川口壽、発行元は日本新論協会、発売元は潮書房。明治大学に該当箇所全てが所蔵されているため、重要度としては少し落ちる。（製本済み）（要修復）
合本製本されたものと収録号数の照合は以下の通り。
（UH05/41）は第八巻十号（昭和六年十月一日発行)、十一号、十二号、第九巻第一号（昭和七年一月一日発行）
（UH05/61）は第九巻二号（昭和七年二月一日発行）
※（UH05/61）は『東洋文化』の合本。誤って『日本新論』が一冊だけ合綴されたものか。
（UH05/42）は第九巻第三号（昭和七年三月一日発行)、第九巻第四号、第九巻第十号、第九巻第十一号(昭和七年十一月一日発行)

『石川県治一班』（U／Ｕ２９１／７８／）
大正十三年秋に石川地方で行われた陸軍大演習に際して、石川県が作成した県治概要。データの多くが大正十二年のもの。大正十三年十一月一日発行。陸軍大演習と府県との関係の一端が分かるという点で面白い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていないもの。

『佐賀縣治一班』（U／Ｕ２９１／６０／）
大正十五年に佐賀県で陸軍大演習が行われた際、佐賀県によって作成された、県治概要をまとめた小雑誌。大演習と府県との関係の一端を知ることが出来るという点で興味深い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。大正十五年十一月十五日発行。

『岡山縣治一班』（U／Ｕ２９１／６１／）
昭和五年に天皇を迎えての陸軍大演習に際し、岡山県によって作成された、県治概要をまとめた小雑誌。大演習と府県との関係の一端を知ることが出来るという点で興味深い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。昭和五年十一月十日発行。

『岡山と産業』（U／Ｕ２９１／５５／）
昭和五年に天皇を迎えての陸軍大演習に際し、岡山市産業課によって作成された、岡山の

産業をまとめた小雑誌。大演習と府県との関係の一端を知ることが出来るという点で興味深い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。昭和五年十一月十日発行。

『横浜市要覧』（ＵＨ／ＵＨ２９／１０／）（Ｕ／Ｕ２９１．３／４／）
大正十年の陸軍大演習に際し、横浜市役所によって作成された、横浜の行政、商工業、古社寺などについてまとめた本。大演習と府県との関係の一端を知ることが出来るという点で興味深い。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。大正十年十一月十六日発行。（同一本二冊あり）

『犬山誌』（ＵＨ／ＵＨ２９／６４／）
岐阜県犬山町の町勢要覧・統計書。明治三十五年十一月十日印刷。加藤富蔵ほか著。犬山町民が名古屋第三師団の工兵隊営舎誘致運動を展開していく過程で、当局の求めに応じ作成されたもの。犬山城内を始め十カ所の候補地が調査されていること、名古屋第三師団工兵第三大隊より第三中隊長斉藤大尉、野田軍医が派遣されて、明治三十四年十一月七日より四日間にわたる現地調査を行っていることなどが分かる。営舎設置にあたりどのようなことが当局者に意識されていたのかを知ることが出来る面白い史料だが、全国で唯一愛知教育大学図書館に所蔵されているため、重要度を一つ下げた。

『旭川町勢一班』（ＵＨ／ＵＨ２９／３８／）
大正初期に刊行された旭川町の町勢要覧。町長から上原陸軍大臣への送り状（はがき）が添えられており、当時陸軍大臣であった上原のところにどのようにして情報が集まっていたのかを知ることが出来る点が興味深い。旭川町役場編、大正元年八月十日発行。非売品。

『全亜大観』（ＵＨ／ＵＨ２９／３０／）（ＵＨ／ＵＨ２９／３１／）
中国内部において陸軍機動演習を強行することを訴えた政論パンフレット。非売品。田中勇右衛門著。大正四年十二月十九日発行。国会図書館にも全国の題が訓図書館にも所蔵なし。二冊とも同一本。

『拓殖局報第二十七号　松花江及黒龍江』（ＵＨ／ＵＨ２９／５５／）
ロシア人グレベンチークの著書を拓殖局が翻訳したもの。ロシア・清国国境における清国の殖民状況について述べられている。明治四十五年五月発行。北海道大学図書館にだけ所蔵されている。

『九鬼隆一述　乃木大将の感化』（ＵＨ／ＵＨ２８／８４／）
大正元年、明治天皇に殉死した乃木希典大将について、九鬼隆一が語ったものの口述筆記。大正元年十二月二十四日発行。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

非売品。（要修復）

『講談　皇国乃花』（ＵＨ／ＵＨ２８／５９／）
乃木希典大将の一生を、早川貞水が講談に仕立てたもの。大正三年五月刊行。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

『近江蒲生郡行幸啓誌』（Ｕ／Ｕ２１６／９／）
大正六年の陸軍特別大演習開催に際し、大正天皇を迎えた滋賀県蒲生郡役所がその記念として編纂した歴代の行幸啓記録書。大正六年十一月三日発行。全国で同志社大学図書館のみが所蔵している。

『釈尊伝綱要　無量義経綱要　法華経の註訳　法華経綱要　観普賢経綱要』（Ｕ／Ｕ１８／４／）
　大正二年に設立された名古屋市に本部をおく仏教感化救済会による小冊子。法華経の教義に基づき、様々な社会事業を通じて国民思想の感化を目的とした団体である。上原も賛助員に名を連ねている。著作者は村上齊（顧問）と杉山辰子（会長）、仏教感化救済会、大正十三年三月二十日発行。非売品。（要修復）

『薩藩歴史講演』（ＵＭ２０－１０）
重野安繹による講演録の冊子。「薩藩」とあるが、時期は古代が主な対象となっている。明治四十二年十一月二十日印刷。郷土における歴史認識のあり方が多少うかがえ、また国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていないという点で少し重要なもの。非売品。

『都城島津家略史』（ＵＭ／ＵＭ２１／１５／）
標題通りの内容の小冊子。家計譜略が付されている。大正十二年五月改訂、他の書誌情報なし。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『元寇と軍縮』（ＵＨ／ＵＨ２１／１５／）
　公民講座における講演録の小冊子。「元寇襲来は過去の国難　軍縮会議は現代の国難」との論理から、主に元寇について語っている。陸軍中将西川虎次郎著、大道学館出版部、昭和五年九月二十日発行。当時の陸軍中将の軍縮観をかいま見ることの出来る面白い史料であり、国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

『精神史話　祖国の旧山河』（ＵＨ／ＵＨ２１／５０／）
奈良連隊の軍人が公務の傍らに当該地区を踏査した上で、歴史上の人物について行った英雄顕彰の講話を小冊子にまとめたもの。講話は部隊の兵士や在郷軍人会、学校青年会など

でなされている。大将、少将、連隊長などの題字が付せられているので、部隊の容認、もしくは積極的な奨励のもと行われたプロジェクトであったと考えられる。軍隊と地域の関係の一端が窺える史料といえる。奈良女子大などに所蔵あり。藪内敬治郎（歩兵中将）著、梅田印刷工房印刷、大正二年四月二十五日発行。非売品。（要修復）

『桃山御陵　誓詞之碑建設記念』（ＵＨ／ＵＨ２１／４７／）
大正十四年十月二十九、三十日に大阪と京都で開かれた帝国在郷軍人会全国大会を記念して、桃山御陵に建設された記念碑に関する事業の概況報告書。各団体の拠出額一覧表や収支決算報告書が付されている。発行者は帝国在郷軍人会本部。全国の在郷軍人会の活動がある程度まとまりをもって窺える史料である。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。書誌情報なし。

『北郷久信報効事歴　並歴代系譜』（UM／UM２８／１７／）
都城島津氏より分かれた旧平佐領主北郷氏の十三代久信の略伝、および歴代の系譜を冊子にまとめたもの。大正五年二月一日付で、著者の鹿児島県立第一鹿児島中学校教諭伊地知茂七が序言を付している。印刷は奥田印刷所。本人の写真付き。大正五年八月二十五日に龍岡篤敬から送られたものである。（要修復）

『山内多美夫遺集』（UM／UM２８／３／）
画家の山内多門の息子で二十三歳で夭逝した多美夫の遺稿・追想集。遺稿は「詩と俳句」「散文集」「日記書簡集」からなる。絵画として「鳥獣合戦絵物語」も納められている。発行兼編集人は菊池侃、敬文社、昭和四年二月九日発行。非売品。昭和四年二月に山内多門から送られている。地元都城にとっては大事な史料。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『島津貴久公　全』（U／Ｕ２０／２／）
大正九年十一月二十三日に行われた島津貴久公三百五十年祭典にあたって、祭典委員会の依嘱により編述された伝記。伊地知茂七著、松原神社三百五十年祭典事務所、大正九年十二月二十日発行。印刷所は佐々木龍勢堂。非売品。重要なものではあるが鹿児島大学など複数の大学図書館に所蔵されているため、重要度としては下がる（要修復）

『生蕃国之今昔』（U／Ｕ２９２／６１／）
台湾蕃界研究会の主幹たる警察官吏入沢氏による著書。明治四十三年から大正二年にかけて行われた台湾少数民族に対する討蕃の記録、実地視察記などで構成されている。大正十一年十二月二十八日発行。台湾蕃界研究会発行。現地で警察官を務めていた著者の目線から討蕃作戦について語られており、珍しい記録と考えられる。国会図書館、全国の大学図

書館に所蔵なし。

『支那赤化の真相』（U／Ｕ２９２／４６／）
中国国民党の赤化問題について述べた政論パンフレット。週刊支那事情社発行。昭和二年五月十四日。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『後楽園小誌』（U／Ｕ２９１．３／２／）
岡山市にある名園後楽園の案内書。扉の見返しに、上原の自筆で「大正六年五月二十五日大山元帥銅像建設委員涵徳亭会合ノ際接本」と記入されており、本書入手の経緯が分かる。

『県外送電反対運動史』（U／Ｕ２９１．１／５／）
大正九年から十二年にかけて宮崎県で発生した電力送電反対運動について記録したもの。県内外の政治情勢について知ることが出来る。若山甲蔵著。大正十二年十月二十日発行。九州大学図書館などに所蔵されている。

『西南ノ役電信事業ノ編纂ニ就テ』（U／Ｕ６９２／２／）
明治二十五年一月二十一日に開催された電気学会通常会において、名越龍五郎による報告資料として作成された小雑誌。西南戦争に際しての電信史を編纂するための史料提出を呼びかけたもの。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『国家君が代』（U／Ｕ７６７／１／）
鹿児島県教育会が発行した君が代に関する小冊子。国歌制定五十周年を記念し、渡辺盛衛により編纂し、教育会の史料として利用しようとしたもの。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵されていない。

『仏蘭西語学教程　巻二』（U／Ｕ８５／５／）『同　巻三』（U／Ｕ８５／６／）
大正二年に編纂されたフランス語のテキスト。同年三月に陸軍士官学校長橋本勝太郎から、「本書に拠り、仏蘭西語学を修得すべし」という一文があり、陸軍士官学校のテキストとして使用されたものであることが分かる。

『仏語学教科書』（U／Ｕ３５／１１／）
明治三十五年に発行されたフランス語学のテキスト。陸軍士官学校長高木作蔵から「本書に拠り、仏語学を修得すべし」との一文が付され、これが陸軍士官学校のテキストとして使用されたことが分かる。

『実用仏語教科書第二』（U／Ｕ８５／１２／）

大正六年七月に陸軍幼年学校のお雇い教師によって作られたフランス語学のテキスト。

『忍のつゆ』（Ｕ９１１／２４／）
帝国大学理科大学大学院学生弘田貞守（専門・動物学）の死去を悼んで編纂された追悼文集。明治二十九年八月九日発行。追悼文、挽歌などで構成されている。国会図書館にも全国の大学図書館にも所蔵なし。

『軍事と技術』（ＵＨ／ＵＨ３９／３０／）
陸軍技術本部が発行していた軍事技術の専門雑誌。爆薬、真空管といった専門知識に関する記事が並ぶ構成となっている。陸軍技術本部内『軍事と技術』編集部編纂・発行。第六巻第二号（昭和七年二月一日発行)、昭和八年三月号、四月号、七月号（第七十九号）～九月号（八十一号、昭和八年九月一日発行）が収録合本製本されている。（製本済）（要修復）京大図書館ほかに所蔵あり。

『地方改良実例』（ＵＨ／ＵＨ３１／５１／）
地方改良運動の事例を整理し、内務省地方局が一冊の本にまとめたもの。明治四十五年三月発行。同志社大学図書館などに所蔵あり。

『自治の訓練』（ＵＨ／ＵＨ３１／５３／）
法学博士井上友一の講演記録。出版年不明も、明治末期から大正初期にかけてのものと推定。内務省による地方改良運動を受けて、人々の心構えを説いている。全国の大学図書館に所蔵なし。

『独逸　興国か滅亡か』（ＵＨ／ＵＨ３１／３５／）
ドイツ騎兵大将フリードリッヒ・フォン・ベルンハルディの著書を、西村二郎が翻訳したもの。大正四年十二月十五日発行。全国の大学図書館に所蔵なし。（要修復）

『勤王の志士に檄して　日本帝国の危機を憩ふ』（ＵＨ／ＵＨ３１／７９／）
青年保守党員兼新聞の新聞記者、児玉篁南が執筆した政論パンフレット。大正五年十月の青年保守党決議が載っていることから、おそらく大正五年のものと推定される。全国の大学図書館に所蔵がなく、大正期の国粋主義的団体の動向を考える上で一定の役割を果たす史料。

『英国の自由国民連盟協会趣意書』（ＵＨ／ＵＨ３１／７４／）
イギリスの自由国民連盟協会が、その目的や運動に関する基本方針を掲げた趣意書を翻訳したもの。伯爵吉井幸蔵からの依頼で川上勇が翻訳を担当。宮岡恒治郎が校訂した。大正

八年二月二十五日発行。

『建国詮真』（ＵＨ／ＵＨ３１／２４／）
徐樹錚の著書を村山正隆が翻訳したもの。「中華民国の偉才」と評され、私を捨て公に徹した徐は、日本に留学して振武学校に通い、帰国後は欧米を歴訪したが、中華民国にもどるやいなや暗殺されて死去した。本書はその死を悼んだ村山正隆が中心となって遺稿を整理したものである。（要製本）京大図書館他で所蔵されている。

『清国ニ於ケル郵政意見』（ＵＨ／ＵＨ６９／１／）
北京に六ヶ月間滞在勤務した逓信省書記官下村宏による意見書。清国における郵政および野戦郵便のあり方について述べたもの。明治三十五年六月、逓信大臣芳川顕正に提出された。（要修復）全国で東大経済学部図書館にのみ所蔵あり。

『業務一覧』（ＵＨ／ＵＨ６９／５／）
仙台逓信局の昭和二年度の業務について概括したもの。昭和三年九月発行。

『内務省用　大正十四年六月　電信約字表』（ＵＨ／ＵＨ６９／７／）
電信の約字対照表。内務省内務大臣官房課編纂。他には北海道大学でのみ所蔵されている。

『日本仏蘭西　違警罪類纂　全』（ＵＨ／ＵＨ３２／５６／）
東京本所元町警察署蔵版。詳細な書誌情報はなし。標記通りの法令署。凡例の末尾に明治十六年二月とあり。発兌は博聞本社。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『大正四年　出水郡統計書』（ＵＨ／ＵＨ３５／７／）
鹿児島県出水郡の統計書。出水郡役所編、大正五年五月発行。印刷所は橋本活版所。非売品。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『九州沖縄八県県勢要覧』（ＵＨ／ＵＨ３５／４５／）
標記の内容に関して人物・産業・自然などの概要を記した大部の書。発行は大分県に本社をおく世界之九州社。別表紙の記述によれば、『世界の九州』という雑誌の大正十一年二月号が特別号になったものとも思われるが、詳しいことは不明。編集兼発行人は松本貞雄、印刷所は王子活版社、大正十一年二月一日。非売品。九州大学と日本大学に所蔵あり。(要修復)

『元山便覧』（ＵＨ／ＵＨ３５／３／）

元山税関がだした大正五年に発行したハンディタイプの統計データ集。朱線あり。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『大正五年平壌府統計』（ＵＨ／ＵＨ３５／１９／）
平壌府発行の統計集。凡例の日付は大正五年四月三十日で、実質的には大正四年度のデータと考えられる。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『鹿児島高等農林学校創立十周年記念　校友会報　特別号』（ＵＨ／ＵＨ３７／２８／）
鹿児島高等農林学校の創立十周年を記念した特別版の校友会報。写真や論説からなる。鹿児島高等農林学校校友会、大正九年三月十日発行。編集兼発行者は横山三穂。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。印刷所は九州日日新聞社印刷部。非売品。

『鹿児島県立志布志中学校諸規程』（Ｕ／Ｕ３７／４／）
志布志中学の様々な規定について書かれたもの。書誌情報は不明。

『精神教育の参考』（ＵＨ／ＵＨ３７／５８／）
教育総監部が偕行社よりだした国家主義にもとづく教化のための概説書。東京大学などに所蔵あり。（要修復）

『勇猛精進』（ＵＨ／ＵＨ３７／４５／）
名古屋駅の飯田義一駅長が組織した有志組織勇猛精進講の第十三回大会に関する書。勇猛精進とは大乗仏教に起因する言葉で、有識者による仏教関連の講演記録や芳名録などが収められている。講演内容より、当時影響力を増しつつあった社会主義への対抗の意図を込めた組織であったと考えられる。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。発行所は名古屋駅勇猛精進講。大正十一年六月十八日発行。非売品。（要修復）

『基本戦術摘要解義　上巻第一編』（ＵＨ／ＵＨ３９／２８３／）
「雲外居士」による戦術に関する包括的な概説書。小林又七支店発行。陸軍省内部で作成されたものであろう。増補第五版と第七版は神戸大学などにあるが、本書は明治三十二年十二月二十五日に出された再版である（初版は同年九月十六日発行）。

『新旧対照　陣中要務令改正要領』（ＵＨ／ＵＨ３９／２４６／）
日露戦争後の陣中要務令改正に関して、旧版との比較を行うことでその理由や必要性を記した書。背景として「内外共に改正に資すべき著明なる事件と、著大なる戦争とのあらざる」状況下での改訂に巷間の疑念が発生していたようである。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。東京 宮本武林堂発行。序論の日時は大正三年六月。（要修復）

『戦闘射撃之意義材料』（ＵＨ／ＵＨ３９／５２５／）
戦闘射撃に関する包括的な入門書。著作兼発行者は上田頼三、軍需商会、明治四十四年十月二十三日発行。印刷所は山田活版所。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『改正第三版　続軍人文集　全』（ＵＨ／ＵＨ３９／４２１／）
緒言によれば「本書は軍人諸君が軍務の余暇其筆に成れる文章を輯集し之に改竄を加へたるものにして其内容は悉く実際上の活歴史也」。また序によれば「軍人諸君の為めに、活ける作文修辞上の規範たるのみならず、軍事思想普及の一端として、軍隊生活の状態を世間に紹介する」意図も含まれている。帝国軍事協会（代表者石川順）編・発行、明治四十五年四月六日第三版発行。印刷所は元真社。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。(要修復)

『歩兵中隊及ヒ大隊ノ戦闘教練　全』（ＵＨ／ＵＨ３９／２６７／）
ドイツ陸軍中佐のア・オットによる原著を日本陸軍戸山学校が翻訳したもの。奥付なし。偕行社蔵版、明治二十九年十一月発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『露国屋外要務令草案　全』（ＵＨ／ＵＨ３９／３７２／）
ロシア軍の野外要務令草案を翻訳したものか。序や奥付なし。複数の付図が綴じ込まれている。発行者は斉藤戒三、発行書は偕行社、印刷所は元真社。明治三十五年十月十六日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『歩兵通信ノ研究（第一部)』（ＵＨ／ＵＨ３９／４９４／）
標記通りの書。著者は陸軍歩兵学校長河村正彦。序の日付は大正八年十一月。図や表が豊富に用いられている。奥付なし。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『冬営漫録』（ＵＨ／ＵＨ３９／３９６／）
序言によれば「冬営中下士以下に課した問題の答案を神田上等兵（農学士）に命じて更に輯録せしめたもの」。寒冷地での作戦行動に関する参考書である。奥付なし。著者は歩兵第二十五連隊長吉田大佐。序言の日付は大正八年五月。付表や写真あり。北海道大学に所蔵あり。(要修復)

『独帝粉砕論』（ＵＨ／ＵＨ３９／３０８／）
表紙に「朕が作戦姉妹編」とある。第一次世界大戦に際して、フランスの知己より得た「陛下の秘密書類」をもとに、ドイツ皇帝を論駁した書。筆致は非常に叙情的で、評論的色彩の強いものである。感情を前面に出した特異な文章であるが、それなりに興味深い書では

ある。樋口麗陽著、日本書院、大正五年二月十日四版印刷発行（初版は大正四年十二月十二日印刷発行)。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『日清戦役に於ける牡丹台の戦況』（ＵＨ／ＵＨ３９／４０８／）
日清戦争における平壌の攻防戦と占拠について記した小冊子。平壌名勝旧蹟保存会編、大正四年六月二十六日発行、国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『仏国歩兵操典草案』（ＵＨ／ＵＨ３９／５４８／）
一九〇〇年に発布されたフランス軍の歩兵操典草案を陸軍大学校が翻訳したもの。フランス語の書き込みあり。発行兼編集者は高橋静虎、発行所は軍事教育会。印刷所は成功堂。明治三十五年十一月十七日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『兵制詩檄』（ＵＨ／ＵＨ３９／４０７／）
兵事に関する漢文調の短文をおさめた小冊子。「植民編」「尊王編」もあり。内容はわかりやすい皇国史観。著作兼発行者は国民新聞社参事中島気峥。印刷所は民友社。徳富蘇峰が序文を寄せている。大正八年四月十三日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『朝鮮　衛生法規類集』（ＵＨ／ＵＨ４９／１２／）
植民地朝鮮における衛生関係の法令をまとめたもの。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。朝鮮総督府警部北村晴澄著、京城　谷岡商店、大正四年六月七日発行。（要修復）

『朝鮮　衛生法規類集　全』（ＵＨ／ＵＨ４９／１４／）
内容的に『朝鮮　衛生法規類集』（ＵＨ／ＵＨ４９／１２／）を改訂して机上版にしたものと思われる。警務総監部衛生課編、印刷所は日韓印刷株式会社、大正六年五月五日発行。非売品。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『千九百十四年欧州戦役ニ於ケル　安土府要塞ノ攻防』（ＵＨ／ＵＨ３９／３０３／）
第一次世界大戦の欧州における要塞攻防戦の経緯を記録した冊子。写真や図面が付されている。編集兼発行者は石井良次郎、偕行社発行、印刷所は凸版印刷株式会社分工場。大正四年十二月二十六日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『戦禍を語る』（ＵＨ／ＵＨ３９／３０７／）
日本の軍隊とその位置づけについて、世界情勢や歴史を踏まえながら包括的に論じた書。徴兵制の構造的問題にも言及するなど、論点の幅は広い。石井三郎著、皇道義会、昭和五年十月廿八日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。(要修復)

『戦線に立ちて』（ＵＨ／ＵＨ３９／２９６／）
ドイツ陸軍大尉ヘッケルの従軍記を翻訳したもの。上原勇作が序を書いている。大正五年発行。神戸市立図書館、明治大学などに所蔵あり。（製本済み）（要修復）

『戦闘命令』（ＵＨ／ＵＨ３９／２６８／）
独逸陸軍中尉ハンス・フォンキースリングの著作を教育総監部が翻訳したもの。偕行社蔵版、印刷所は元真社。明治四十二年六月三十日発行。実際の演習を通して論じられる戦術に関する教本である。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『日本武道会拡張趣旨及概則』（ＵＨ／ＵＨ３９／２４３／）
標記通りの小冊子。日本武道会編。表紙に「大正四年二月一日改正」とあり。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『帝国飛行協会会報』（ＵＨ／ＵＨ１６８／５６／）（ＵＨ／ＵＨ１６８／５７／）（ＵＨ／ＵＨ１６８／５８／）（ＵＨ／ＵＨ１６８／５９／）（ＵＨ／ＵＨ１６８／６０／）（ＵＨ／ＵＨ１６８／６１／）
財団法人帝国飛行協会による、日本の航空に関する機関誌。第一号～第二十号、第二十六号～第三十四号、および昭和八年四月十日発行の『飛行』臨時増刊『航空日本の建設』が所収。『航空日本の建設』以外は、該当部分が東京大学に所蔵あり。『航空日本の建設』には巻頭に全国在郷軍人青年団諸氏に対する檄文がおさめられている。（製本済み）

『撫順炭の栞』（ＵＨ／ＵＨ５６７／１）
中国の撫順における炭田に関する栞。奥付なし。南満州鉄道株式会社鑛業課編。内容より大正二年以降の発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『咸鏡南道林業一斑』（ＵＨ／ＵＨ６５／２）
中国の林業に関する概要書。謄写版。奥付なし。咸鏡南道編。大正五年末調査分。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『台覧馬匹解説書　付釧路国牧畜概況』（ＵＨ／ＵＨ６４／１／）
釧路の馬匹に関するデータ集。馬一頭ごとに情報が記されている。奥付なし。明治四十四年以降の発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『太平洋会議と満蒙　商租問題の根本的解決を促す（商租権の内容に関する私見)』（ＵＨ／ＵＨ６７／２２／）

満州地域における商租権について日本の国益の観点から論じた書。奥付なし。川村宗嗣著、表紙に「大正十年十月稿、於満州奉天」とあり。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『満州大豆及其加工品』（ＵＨ／ＵＨ６１／５／）
標記に関する統計データつきの概要書。関東都督府民政部庶務課編。印刷所は小林又七支店。大正四年十二月五日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『南洋記』（Ｕ／Ｕ２９２／４／）
島津久賢の旅行記。目的地は、第一次世界大戦期に日本が占領した南洋諸島。大正四年に発行。京大図書館などに所蔵あり。

『半島を一巡して』（Ｕ／Ｕ２９２／６０／）
後の大蔵大臣井上準之助が大正十四年に朝鮮半島を巡察した際の記録。朝鮮総督府から大正十四年に発行。当時から新聞紙上で連載されていたものや、各地での講演記録が収録されたものだが、財政の専門家である井上準之助の植民地政策に関する意見をまとめて窺うことができる好史料。国会図書館には所蔵されていないが、富山大学の梶井文庫など、大学図書館のコレクションの中に所蔵あり。

『伝記類パンフレット綴』（Ｕ／Ｕ２８９．１／６１／）
「故明石台湾総督」「松方公米寿祝賀会会報」「近代日本の創設者織田信長」「佐賀楠公会会報」「眞鍋先生祝賀記念」「眞鍋先生祝賀会会員芳名録」「天童藩勤王家吉田大八伝」「乃木将軍旧邸之記」「楽亭壁書解説」「西山徳川光圀公記念大会趣意書」など、伝記の一部や顕彰会などの解放が綴られているもの。

『東京凱旋軍歓迎会誌』（Ｕ／Ｕ３９／１０／）
日露戦争の凱旋軍を迎えるにあたり、東京日比谷公園や上野公園など東京中で大々的に歓迎会が催された際の記録書。東京凱旋軍歓迎会の首唱者は尾崎行雄と渋沢栄一。来賓者名簿や式次第、歓迎会の記録や様子を写した写真などが掲載されている。日露戦争に勝利した日本社会がいかに浮かれていたかがわかる資料。明大図書館などに所蔵あり。

『微煙火薬之戦術、教育及教練ニ及ホス影響』（Ｕ／Ｕ３９／９／）
オーストリア歩兵大佐ヴェンツエル・ボルト著の、新開発された微煙火薬に関して分析をおこなったもの。日本野戦砲兵射撃学校訳。明治三十年に発行。国会図書館および全国の大学図書館に所蔵なし。

『私と遡上の四将軍問題』（U／U３９／３５／）
相馬由也が、大正十年に起きた四将軍告発事件の顛末についてまとめたもの。上原蔵印が捺されてある。当事件は当当時の陸軍を揺るがす歴史的事件であり、その意味で当資料は重要なものであるが、各地の大学図書館に所蔵されており、研究も進んでいるため、重要度を下げた。

『建国後策』（UH／UH３１／１１３／）
法学博士今井嘉幸による、中華民国建国後の政策に対する建言書。今井嘉幸は吉野作造らが結成した黎明会のメンバー。同書中には中華民国の国家体制に対する建言である「建国策」や「中華民国憲法私案」が収録されている。本文は中国語。奥付が無いため、発行年など詳細は不明であるが、その内容は日本の知識人が辛亥革命に対していかなる行動を示したのかについて知ることが出来る好史料だと考えられる。国内では同志社大学に所蔵されている。

『自治ト民育・閑時の利導』（UH／UH３１／６１／）
アメリカのウィスコンシン大学教授のウェルコックによる『米国都市』中の、市民教育の重要性とその方法を説いた一節を翻訳したもの。秋田県が発行元で明治四十年に刊行されたもの。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『地方自治ト青年団体』（UH／UH３１／６０／）
各地方の青年団体を、社会教化の機関へと組み入れることの必要性が説かれた小冊子。奥付がないため、著者、発行年、発行元は不明だが、内容から推察するに、日露戦後の地方改良運動期に出されたものだと思われる。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『地方資料』（UH／UH３１／１２３／）
地方改良運動期に内務省地方局が編纂した地方諸般の経営実態についてまとめた資料集。地方改良運動に際して取り組まれたあらゆる事例が取り上げられ、模範例として位置づけられている。特に、貧民教育の改良や職工の待遇改善など、いわゆる社会の底辺にあった人々の救済が、美事として集中的に掲載されている。地方改良運動を研究する際の一級資料だが、各地の大学図書館に所蔵されているため、重要度を下げた。発行は明治四十年。

『露国コオペラチーブの現状　第一号』（UH／UH３３／８７／）
朝鮮銀行東京調査部が発行した、ロシアのコオペラチーブ（国家施設経済施設）に関する調査報告書。上原がロシアの国家体制を知るうえでの材料にしたものだと考えられる。発行は大正十年。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『近世植民政策の趨勢』（ＵＨ／ＵＨ３３／６２／）
『拓殖局報』の第三十一号として編纂された小冊子。イギリス植民地政策上の、特に土地所有権にかかわる法整備が紹介されている。『拓殖局報』は、内閣拓殖局により編纂された、植民地政策に関わる調査研究報告書であり、その多くは国立国会図書館に所蔵されているが、本号については、国会図書館にも大学図書館にも所蔵されていない。（要修復）

『釧路国殖民原野概況』（ＵＨ／ＵＨ３３／５９／）
北海道庁釧路支庁が明治四十三年に発行した釧路の各殖民原野の地誌。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『支那経済上の革命』（ＵＨ／ＵＨ３３／１２／）
大阪で行われた内藤湖南の講演記録。非売品。山東事件後の日中関係について、経済交流の必要性という観点から述べられたもの。国会図書館、大学図書館に所蔵なし。

『合理的物価調節策』（ＵＨ／ＵＨ３６／３９／）
日本近代の政治家・実業家西原亀三による経済政策論。大正八年発行。西原の他の著作物と合わせて分析することで、西原亀三の政策思想の一端が窺える資料と考えられる。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『欧米の青少年訓練』（ＵＨ／ＵＨ３７／１／）
陸軍歩兵大佐河村董による欧米各国の青少年に対する軍事訓練や、それにかかわる民間団体の実態がまとめられた著作物。昭和六年に帝国在郷軍人会より発行されたもの。大学図書館には所蔵されていない。国会図書館に社会教育会編『社会教育パンフレット』（昭和三年）の第六十一輯として本書と同内容のものが所蔵されており、本書は、これを帝国在郷軍人会が再編集をおこなったものと推察される。

『帝国在郷軍人』（ＵＨ／ＵＨ３９／８５／）十八年十号、十九年三号～四号、六号、九号、十一号～十二号、二十年一号、三号、五号（ＵＨ／ＵＨ３９／８４／）二十年七号、九号～十号、二十一年一号～三号、五号～十号
帝国在郷軍人社発行の機関誌。雑誌の副題に「家庭の良友」とあり、「妻の内助とその実例」や「小学校へ子供を入学させる保護者に与ふ」という題目の論説が掲載されるなど、本誌は、軍人向けというよりは一般家庭向けの構成をとっている。本文庫所蔵分は、北海道大学図書館にすべて所蔵されているため、重要度を下げた。（製本済）（要修復）

『改正歩兵操典之研究』（ＵＨ／ＵＨ３９／３３０／）
表題通り、改正歩兵操典に関する研究書。奥付がないため詳細は不明だが、緒言は河村大

佐の述。日露戦後に、それまでのドイツ式歩兵操典からの脱却を目的として歩兵操典改正が行われるが、本書はその時期に発行されたものだと考えられる。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『輝く皇軍の勲』（ＵＨ／ＵＨ３９／３８４／）
馬場直美によって、満州事変美談、上海事変美談、平時陸海軍美談がまとめられた本。六百七十頁にわたり多くの「美談」が掲載されている。昭和七年に国民教育会出版部より発行。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『輝く勅諭の五十年』（ＵＨ／ＵＨ３９／３７８／）
陸軍歩兵中佐嘉悦基猪による軍人勅諭の解説書。昭和六年発行。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『鋳砲所審査委員報告』（ＵＨ／ＵＨ３９／２６３／）
アメリカが鋳砲所新設にあたってイギリス、フランス、ドイツ、ロシア各国の同施設の調査を行った際の報告書を翻訳したもの。明治二十年発行。奥付がないためその他の詳細は不明だが、軍隊内でのみ配布されたものだと考えられる。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『明治十五年一月四日陸海軍人に賜はりたる勅諭拝受五十周年を迎へて』（ＵＨ／ＵＨ３９／３６９／）
軍人勅諭五十周年に際して偕行社から発行された本。上原勇作の題字が掲載されている。陸軍大臣荒木貞夫以下、陸軍高級軍人らによる軍事勅諭にまつわる談話が掲載されている。東京大学や筑波大学に所蔵されている。（要修復）

『我が国軍隊』（ＵＨ／ＵＨ３９／１８４／）
陸軍小将多賀宗之による著作物。序に「天皇に総べらるゝ軍隊には何等かの神の使命あることを思はざるべからず。予は多年の研究に依つて、果して我が国軍隊が他国軍隊と全然相異る使命あることを覚りたる結果が本編を成せり」とある。本書にこれ以上の説明が必要であろうか。表紙裏に上原の直筆で「多賀少将恵贈」とある。同志社大学にのみ所蔵あり。

『軍制一斑』（ＵＨ／ＵＨ３９／３９２／）
陸軍省軍局課員兼憲兵練習所教官の内田歩兵大尉よる憲兵練習所軍制学講座の講義案。陸軍内部のみの配布物。憲兵教育の一端を知る資料として活用できる。大阪市立大学にのみ所蔵されているもの。（要修復）

『皇軍の面目』（ＵＨ／ＵＨ３９／２５０／）
陸軍省新聞班内の、つはもの編集部編の美談集。発行所は帝国在郷軍人会本部内のつはもの発行所。愛知大学と天津図書館に所蔵されている。（要修復）

『スピード』（ＵＨ／ＵＨ６８／１４３／）
日本自動車学校編の月刊雑誌。昭和元年の一号から三号（通号では九十四号～九十六号）のみ所蔵されている。自動車や航空機の設計に関する技術的論説を中心に構成されている。国会図書館、大学図書館には所蔵されていないが、本文庫にも三号しか所蔵されていないため重要度を下げた。

『自衛』（ＵＨ／ＵＨ３９／１１８）～（ＵＨ／ＵＨ３９／１２０）（ＵＨ／ＵＨ３９／１６１）～（ＵＨ／ＵＨ３９／１６２）
自衛社発行の機関誌。本誌の性格は、「国としての第一自衛即ち国防方法全般を、独り軍人に聴くの旧想は、何れの着眼よりしても之を放棄すべき時は来た。即ち国としての第二自衛即ち国民の知力徳力体力の養成と、産業発達の方法とを独り為政者に聴くことの危険を確認すべき時がきた（中略）本誌発行の目的は、能く此方法全般を了知せんが為、国民自身の論壇を設くるに在る」という創刊号掲載の「『自衛』発刊の趣意書」に明らかである。本誌は国会図書館には所蔵されてないが、当文庫所蔵分は北海道大学と東京大学、東京工業大学ですべてカバーされるため、重要度を下げた。
（＊すべて製本がはがれており、要修復）

『吾か国』（Ｕ／Ｕ３９５／１／）
ルーマニアのメリー皇后によるルーマニアの地誌。翻訳書。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『支隊運用術』（Ｕ／Ｕ３９２／１５／）
軍事雑誌社による、戦術研究のための雑誌。さまざまな戦場を想定し、そこでの支隊の展開方法を問答形式で論述している。第一号から第十号まで所蔵されている。戦術研究書として非常に興味深いものであるが、本文庫所蔵分は、明治新聞雑誌文庫にすべて所蔵されているため、重要度をさげた。（要修復）

『毛奇将軍遺稿独仏戦史』（Ｕ／Ｕ３９３／２７／）
編集兼発行者は齋藤戒三、発行所は偕行社。明治三十五年に発行。モルトケ将軍による普仏戦争従軍記を翻訳したもの。日誌形式で書かれたものであるため、普仏戦争の戦場の様子やドイツ側の作戦展開を詳細に追うことのできる資料である。国内では九州大学にのみ

所蔵されている。表紙裏には朱書きで、「木下中佐寄贈」とある。（要修復）

『戦術ト兵器ノ関係』（Ｕ／Ｕ３９３／３１／）
ドイツＯ・Ｖ・Ｎ著、野戦砲兵射撃学校訳、偕行社発行の小冊子。新式銃火器の開発に伴って、従来の部隊の運用方法がその効力に適合しているかを検討している戦術書。国内では東京大学にのみ所蔵されている。（要修復）

『御養蚕所を拝観して』（Ｕ／Ｕ６３／１／）
都城市の財部政彦が宮城内の養蚕所を見学した際の記録をまとめた小冊子。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。

『簡易上水道並ニ下水道』（Ｕ／Ｕ５１９／１／）
明治四十二年に内務省地方局が発行した、神奈川・山形・長崎・山梨・徳島・宮城の簡易上下水道の設置状況を記した冊子。地方改良運動に関連して出されたものと考えられる。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『回顧録』（Ｕ／Ｕ６０４／１／）
大谷嘉兵衛による「太平洋海底電線施設急務の提唱」と「茶税撤廃陳情運動」に関する回顧録。大正十一年発行。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。

『興国』（ＵＨ／ＵＨ０５／６９／）第六十七号～第六十八号、第七十一号（ＵＨ／ＵＨ０５／７０／）第七十三号、第七十六号、第七十九号
国粋主義団体興国社の機関誌。編輯兼発行人は加藤巖。表紙には「日本主義宣伝」「危険思想防止」とあり、年代表記は皇紀。興国社は、その綱領によれば「我が国の使命を指示し興国の大精神を鼓吹す　天皇政治の復旧に粉骨砕身す　国家権力の強大を期図す　軍備の充実及び拡張を要望す　教育勅語を我が国の根本思想根本道徳とす　教育勅語を服膺する者を賞揚し之に背反する者を痛撃す　此主義を日本主義と名け拠て以て澎湃時代たる思潮に対抗す」る団体と謳われている。荒木貞夫や四王天延孝ら陸軍軍人や、平沼騏一郎や金子堅太郎など大物政治家の政論が掲載されており、当時の国粋主義的思想を読み解く上での格好の資料だと考えられる。国会図書館には所蔵されておらず、東京大学に第六十七号、第七十二号～第七十四号が所蔵されている。

D．あまり重要でないもの

『日の本』（U／Ｕ１２１／１０／）
上杉慎吉の著書。昭和五年四月七日発行。非売品。国会図書館には所蔵されていないが、たとえば金光図書館などには収蔵されている。（製本済）

『我国民道徳と宗教の関係』（U／Ｕ１２１／２１／）
文学士吉田熊次の著書。明治四十五年四月二十八日発行。敬文館書房。東大など多数の大学図書館に所蔵あり。

『儒教と現代思潮』（U／Ｕ１２２／５／）
服部宇之の著書。大正七年十一月五日発行。明治出版社。服部が大正七年八月一日から六日にかけて東京帝大文科で行った公開講義の稿本をまとめたもの。東大など多数の大学図書館に所蔵あり（製本済）

『宗教講習録』（U／Ｕ１６／１／）
大阪府学務部督学課発行の単行本。非売品。昭和五年二月十日発行。昭和四年十一月に国民思想の善導を目的として、大阪府主催で行われた宗教講習会の要領を記録したもの。国立教育研究所図書館に所蔵あり。

『悠久雅集』（U／Ｕ９１１１／９／）
倉川鉄州の著書。明治四十二年九月十日発行。非売品。画題、俳句などをまとめたもの。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『老誉集』（U／Ｕ９１１１／１８／）
石尾正亨編の句集。明治四十二年十二月十八日発行。非売品。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『宗教と生活』（UH／ＵＨ１６／１４／）
ルドルフ・ヲイッケン博士の文を八代六郎が翻訳したもの。宗教論の小パンフレット。大正二年十月十五日発行。非売品。岩手大学図書館に所蔵あり。

『教育勅語と信仰　愛国に燃ゆる彼の女の信仰　附肥野とら代の血涙の体験』（ＵＨ／ＵＨ１５／２１／）
肥野とら代の著した修身・道徳書。昭和五年十一月十三日発行。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『霊と健康』（ＵＨ／ＵＨ１４／１／）
山内篤馬の著書。霊について述べたもの。昭和四年十二月十五日発行。北大図書館に所蔵あり。（要修復）

『成功錦嚢』（ＵＨ／ＵＨ１５／１０／）
実業之日本社が発行した人生論。こうすれば成功できる、といった話が並ぶ。明治三十六年九月十三日発行。第三版。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（仮製本済）（要修復）

『修養時訓　心乃衛生』（ＵＨ／ＵＨ１５／３２／）
文学博士加藤玄智の著書。社会主義の迷妄を叩いたもの。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『公徳説話』（ＵＨ／ＵＨ１５／４７／）
楽鷹真人の著した修身・道徳論。明治三十五年六月六日発行。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。（製本済）

『国乃光』（ＵＨ／ＵＨ１５／３７／）
坪井忍の著書。修身・道徳本。歴史上の人物を題材。明治四十二年八月一日発行。東大明治文庫など多数の大学図書館で所蔵あり。（要修復）

『無政府主義者絶滅案』（ＵＨ／ＵＨ１５／８３／）
根津一の執筆した小パンフレット。発行年不明。（要修復）国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『勅諭例談』（ＵＨ／ＵＨ１５／９２／）
軍人勅諭とその精神にふさわしい歴史上の人物談。明治三十二年発行。陸軍中尉松坂主税編。国会図書館、全国大学図書館のいずれにも所蔵なし。

『国教』（ＵＨ／ＵＨ０５／３１３／）
明道会から発行された国学雑誌。第一号（昭和三年六月）～第六号（昭和三年十一月）を収録合本製本している。編集兼発行人は岸一太。印刷所は保田興文舎。北大図書館を始め多数の大学で所蔵。（製本済）

『無量義経訓読』（ＵＨ／ＵＨ１６／６／）

お経の本。

『皇国之根性　万邦之精華　古神道大義　完』（Ｕ／Ｕ１７／１１／）
明治天皇の崩御をきっかけに編纂された古神道の本。筧克彦著。大正元年十月二十日発行。清水書店。（Ｕ／Ｕ１７／６／）も同一の本。

『大本神諭』（ＵＨ／ＵＨ１７／２９／）
大日本修斉会が発行する宗教書。大正七年十二月二十日発行。

『春日神社若宮御祭』（ＵＨ／ＵＨ１７／２３／）
奈良春日神社の祭りについての解説書。大正十一年十二月十五日発行。春日神社森口奈良吉著。

『官祭概弁』（ＵＨ／ＵＨ１７／８／）
政府の執り行う諸祭祀一覧、関谷柳二「宗教政治密着説」。日本神道大学会長関谷柳二による口述筆記。明治三十四年九月発行。

『戦後当会務之大要』（ＵＨ／ＵＨ１７／５／）
日本神道大学会長関谷柳二の著書。日露戦後の生き方などについて説いたもの。明治四十年四月二十日発行。

『故有栖川大将宮　御銅像建設　募告』（ＵＨ／ＵＨ１７／１６／）
明治二十九年三月に表記の銅像を造ろうとした際の募金呼びかけ文。呼びかけ人、大山巌、山県有朋、西郷従道、川上操六、伊東祐亨。

『国民必修　神社概説』（ＵＨ／ＵＨ１７／１９／）
神社に関する基礎知識。大正八年二月二十日発行。本書は第五版。

『自己の観自在尊』（ＵＨ／ＵＨ１７／４／）
大正四年に鶴見の総持寺で行われた宗教講演の記録。大正五年十月三日発行。

『初祖達磨大師』（ＵＨ／ＵＨ１７／３２／）
達磨の絵を描き続けたある人物の談話をのせた小パンフレット。

『神道碑文写』（ＵＨ／ＵＨ１７／２５／）
大正十五年十一月に建てられた島津久光を祀る祈念碑の碑文をおこしたもの。

『大道』（ＵＨ／ＵＨ１７／１７／）
宮崎福二の執筆した神道書。大正五年二月十二日発行。

『元山発展史』（ＵＨ／ＵＨ２２／１７／）
朝鮮元山の発展を編年体で記述したもの。京大など各地の図書館にあるため、重要度は下がる。

『根室案内』（Ｕ／Ｕ２９１／７６／）
根室の諸産業を紹介したガイドブック。近藤亀二郎著。明治四十年十一月十九日発行。発行所は根室新報社。国会図書館、全国の大学図書館には所蔵されていない。

『茨城県治概要』（Ｕ／Ｕ２９１／６１／）
昭和四年に茨城県によって作成された県治概要のパンフレット。

『福岡県治要覧』（ＵＨ／ＵＨ２９／２３／）（ＵＨ／ＵＨ２９／２４／）
明治四十四年福岡県によって作られた県治概要の小雑誌。二冊とも同一本。

『函館区勢一班』（ＵＨ／ＵＨ２９／３４／）
明治四十年函館区役所によって作られた区の概要。

『新編日本歴史地図』（Ｕ／Ｕ２９１／２３／）
ごく普通の歴史地図。国会図書館にも他の大学図書館にもないという点で貴重だが。

『見学旅行案内』（ＵＨ／ＵＨ２９／７／）
小中学校生のために全国の名所旧跡などを紹介したもの。明治四十五年刊行。著者武田桜桃。

『京都市三大事業概要』（ＵＨ／ＵＨ２９／２９／）
第二琵琶湖疎水を初めとする京都市の三大事業についての説明書。明治四十五年刊行。同志社大学などに所蔵されている。

『宮崎県史蹟調査　第八集』（Ｕ／Ｕ２９０．２／５／）
都城地域の史跡調査記録。昭和六年三月。宮崎学園図書館などに所蔵あり。

『入間郡町村勢要覧』（ＵＨ／ＵＨ２９／５１／）

埼玉県入間郡の町勢要覧。大正元年十月発行。埼玉県入間郡役所編。

『岡山県管内功労者事蹟』（ＵＨ／ＵＨ２９／３５／）
岡山県庁が明治四十三年十一月に編纂した、県の功労者の事蹟をまとめたもの。地方自治改良運動の一環。

『九州めぐり　門司から門司へ』（Ｕ／Ｕ２９１／９２／）
門司鉄道局運輸課が作成した旅行ガイド。大正十四年十月発行。

『山河跋渉案内』（Ｕ／Ｕ２９１／１０／）
山歩きのエピソードをまとめたもの。雑誌『武侠世界』の増刊。大正十年発行。

『武侠世界』（Ｕ／Ｕ２９１／２／）
山歩きの本。大正八年刊行。（要修復）

『山水巡礼』（Ｕ／Ｕ２９１／８／）
山や川を訪ねての旅行本。『新家庭』の臨時増刊。大正九年刊行。（要修復）

『静岡』（Ｕ／Ｕ２９１／６２／）
静岡市役所の編纂した市勢要覧。大正十二年発行。

『清水市　付近の名勝』（Ｕ／Ｕ２９１／４８／）
清水市の発行した市勢要覧。大正十四年発行。

『水彩写生旅行』（Ｕ／Ｕ２９１／１０１／）
大下藤次郎による写生画と紀行文。明治四十四年発行。

『会津白虎隊』（Ｕ／Ｕ２８１／１８／）
辰野次郎著の白虎隊士列伝。明治四十年十月発行。

『平田篤胤　佐藤信淵　両先生小伝』（ＵＨ／ＵＨ２８／４８／）
明治四十二年に編纂された高等小学校用副読本。

『二宮尊徳翁研究』（ＵＨ／ＵＨ２８／９２／）
札幌農学校のカメラ会（同校農業経済学、農政学専攻学生による団体）が、尊徳の没後五十周年記念祭を施行するにあたり編纂した二宮尊徳についての研究書。明治三十九年五月、

警醒社書店発行。二宮尊徳翁略伝ほか諸論考が掲載されている。一橋大学など各大学図書館に所蔵あり。

『日露戦役　殉国諸烈士追悼会記事』（ＵＨ／ＵＨ２８／２９／）
大正七年四月二十一日に開催された、日露戦役殉国諸烈士追悼会において聞き取りを得た、日露戦役中で活躍した勇士の事蹟をとりまとめたもの。大正八年六月三日発行。日露戦役殉国烈士追悼会残務所編。非売品。（要修復）九州大、北海道大などに所蔵あり。

『現代仏蘭西』（Ｕ／Ｕ２３５／１／）
『現代五大強国』シリーズの一つとして刊行された図書。イギリス人イー・ハリソン・バーカーの著書を翻訳したもの。大正四年十月十日、日本史料調査会発行。発売元軍事通信社。大阪市立大学他に所蔵あり。

『現代独逸』（Ｕ／Ｕ２３４／２／）
『現代五大強国』シリーズの一つとして刊行された図書。イギリス人ウィリアム・ハルバット・ダウソンの著書を翻訳したもの。大正四年十月十日、日本史料調査会発行。発売元軍事通信社。大阪市立大学他に所蔵あり。

『米国民』（Ｕ／Ｕ２３３／２／）
『現代五大強国』シリーズの一つとして刊行された図書。ドイツ人フーゴー・ミュンステルベルヒの著書を翻訳したもの。大正四年十月十日、日本史料調査会発行。発売元軍事通信社。大阪市立大学他に所蔵あり。

『現代英国及英国民』（Ｕ／Ｕ２３３／３／）
『現代五大強国』シリーズの一つとして刊行された図書。フランス人エミール・ブーミーの著書を翻訳したもの。大正四年十月十日、日本史料調査会発行。発売元軍事通信社。大阪市立大学他に所蔵あり。

『大戦と世界経済状態』中巻（Ｕ／Ｕ２３０／５／）
南波善之助編集により、大正九年八月、東洋経済出版部より発行。三冊組の真ん中の巻にあたる。九州大他全国の大学図書館に所蔵されている。

『新定十八史略鈔本』（Ｕ／Ｕ２２２／３／）
教科書として使用されたもの。岡田正之編纂。大正元年十一月発行。

『鹿児島名所案内』（Ｕ／Ｕ２１９／１１／）

鹿児島市役所が発行した鹿児島の名所地図、ガイドブック。寄贈により上原文庫に加えられたものであり、当初からの蔵書ではない。

『京都府与謝郡誌』（U／U２１６／１２／）
大正十二年十二月三十日に発行された与謝郡の歴史書。与謝郡役所発行。京大などに所蔵あり。

『デンマークにおける貝塚構成時代』（U／U２０２／１０／）
『史学』第七巻第二号に掲載された論文の抜き刷り。大山柏著。昭和三年七月。

『津雲貝塚及国府石器時代遺跡に対する二三の私見』（U／U２０２／１５／）
『民族と歴史』第三巻第四号に掲載された論文の抜き刷り。医学博士大串菊太郎著。

『仙台市写真帖』（U／U２１２／１／）
大正期の仙台市を写した写真帳。大正十四年に刊行。

『大阪府の郷土史』（U／U２１３／１０／）
大阪府立住吉中学校の歴史地趣味の会が発行した大阪府の沿革を記した小冊子。非売品。

『義烈荘』（U／U２１３／３／）
鎌倉史蹟研究会が発行した鎌倉の義烈荘に関する小冊子。義烈荘には上原勇作題の碑、「新田公遺蹟陣鐘山之碑」があり、その関係で上原文庫に寄贈されたものと考えられる。昭和八年に発行。

『埼玉県柏崎村眞福寺貝塚調査報告』（U／U２０２／１４／）
『史前学会小報告』第二号として史前学会より昭和三年に発行された発掘報告書。表紙には上原の直筆で「昭和三年八月大山公爵ヨリ受領」「読了」とのメモがある。大山公爵は大山柏のこと。

『史前学研究史』（U／U２０２／４／）
大山柏による欧州の考古学研究史。昭和三年に発行。

『通俗神道略解』（UH／UH１７／３０／）
豊後日田の財津香雪が「米国人エー、ピータールス」の天皇に関する新聞広告に反発して記した神道の基礎知識に関する冊子。非売品。奥付なし。筑紫史談会の武谷水城による大正十二年三月付の小引がついている。

『達磨心論』（ＵＨ／ＵＨ１８／１４／）（ＵＨ／ＵＨ１８／１３／）
教化運動の観点から「達磨ノ直心」を論じた冊子。成海著、昭和四年六月発行。（ＵＨ１８－１３）の表紙には、「四年八月十日、在鎌倉成海先生より郵致」とあり。

『仏様のお話』（ＵＨ／ＵＨ１８／７／）
青少年向けの仏教説話集。甲斐静也著、興風書院、大正七年五月十五日発行（四版、初版は大正七年三月十八日発行）

『和訳法華経』（Ｕ／Ｕ１８３／１／）
法華経の和訳。表紙裏に「上村ケイ寄贈　大正五年三月十三日」と朱筆あり。索引つき。山川智応著、新潮社、明治四十五年一月六日発行

『大梅夜話解説』（Ｕ／Ｕ１８８／１２／）
沢庵とならぶ江戸初期の禅僧一絲の行状などを記した和綴本。徳富蘇峰などの解説あり。発行部数は五百部。鹿山宗海著、成簣堂、大正三年一月刊行。

『イエス・キリスト』（Ｕ／Ｕ１９／１／）
神道家の立場から（神武祭の二日後に脱稿したとある）相対的にキリストについて記された伝記。角田喜三郎著、金尾文淵堂、明治四十三年発行。

『家庭講談　女義士伝』（ＵＨ／ＵＨ２１／３５／）（ＵＨ／ＵＨ２１／３３／）
標題に関する桃川如燕の講演を集めたもの。奥付け等書誌情報なし。「～の母」「～の妻」といったパターンが多い。二冊とも同じ。

『古典講義録』（ＵＨ／ＵＨ２１／１／）
古事記を中心とした神道系の宗教哲学雑誌。編集者は多田義堂（第一号時点）、発行所は古典攷究会。京大に所蔵されている。
収録号数は以下の通り。
第一号（大正四年一月二十日発行）～第六号、第九号、第十号（大正四年十一月十日発行）（製本済み）（要修復）

『朝鮮半島の天然と人』（ＵＨ／ＵＨ２２／２４／）
朝鮮半島に関する地誌。『兵事雑誌』の臨時発行（第五年第二号）である。発行兼編集人は伊藤芳松、東京兵事雑誌社発行、明治三十三年一月廿日発行。（要修復）

『鹿児島之史蹟』（UM／UM２８／１４／）
鹿児島の史蹟を名所、河海、学府、殖産工業地などの分野別に紹介したもの。林吉彦による昭和四年十月十五日付の緒言あり。巻末に「鹿児島之史蹟附図」がついている。著者は林吉彦、印刷所は鹿児島刑務所、昭和五年八月一日発行。

『新鹿児島遊覧案内』（UM／UM２９／４／）
西郷南洲翁五十年祭を記念して作られた、鹿児島周辺の史蹟、特産品、統計、年中行事、遊郭などの案内。中村宗蔵著、文昌堂書店、昭和二年十月二十四日発行。（要修復）

『聖徳太子のおもかげ』（UH／UH２０／２／）
大正十年十月二十二日に蓮中山願蔵寺と都城工業団が行った聖徳太子千三百年御遠忌での講演内容を、団員の要望により小冊子にまとめたもの。川越実著、都城工業団連合会、大正十一年六月十日発行。印刷所は平和印刷所。

『歴史の精神的解釈』(U／U２０１／１／)
アメリカ人宗教学者でシカゴ大学の史的比較神学教授たる「シェーラー・マッシウズ博士」の著作を和訳したもの。物質至上主義への会議から、歴史を精神的に読み解こうとしたもの。法学博士浮田和民の序文がある。編集兼発行者は大日本文明協会、大日本文明協会事務所、大正八年二月十五日発行。印刷所は日清印刷株式会社。

『朝鮮旅行案内記』（U／U２９２／３８／）
朝鮮総督府が編纂した旅行ガイド。昭和四年刊行。京大文学部図書室などに所蔵あり。

『朝鮮満州旅行案内　附支那旅行案内』（U／U２９２／３４／）
大正十五年、満鉄鮮満案内所が発行した旅行ガイド。全国の大学図書館に所蔵なし。

『朝鮮鉄道旅行案内　附金剛山遊覧の栞』（U／U２９２／１０／）
朝鮮総督府鉄道局によって編纂された旅行ガイド。大正四年十月に開かれた朝鮮総督府鉄道局一千哩記念祝賀会において、参列者に配布するべく編纂された。一般に向けては、同年十一月二十五日に、京城斯道館の手で再刊発売されている。立命館大学図書館などに所蔵あり。

『大連港』（U／U２９２／２４／）
南満州鉄道株式会社埠頭事務所が編纂した大連港概況。大正五年に第四版が発行。山口大などで所蔵されている。

『大正九年　現在の台湾』（U／Ｕ２９２／１７／）
大正九年東洋協会が編纂した台湾事情の本。九州大学などで所蔵されている。

『新羅旧都　慶州古蹟案内』（U／Ｕ２９２／５４／）
古代新羅王朝の首都慶州の文化遺産についての紹介本。「古蹟観覧に就ての注意」などが書き添えられている。慶州普通公立学校長大坂金太郎による執筆。慶州古蹟保存会が発行。大正十一年二月十三日発行。一橋大学図書館などに所蔵あり。

『支那から南洋へ』（U／Ｕ２９２／３２／）
東幸治による旅行記。大正十二年朝鮮、満州から中国を経て、南洋フィリピン、ジャワ、マレーと旅行した筆者の記録が綴られている。九州大学などに所蔵あり。

『咸鏡南道産業要覧』（U／Ｕ２９２／７２／）
朝鮮咸鏡南道の産業について紹介したもの。大正三年発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵されていない。

『平原　第六号』（U／Ｕ２９２／４１／）
満鉄鉄道部旅客課が編纂する朝鮮・満州の諸事情を紹介する雑誌。編集人平野博三。大正十三年四月一日発行。

『宮城県案内記』（U／Ｕ２９１／４９／）
大正十四年十月宮城県発行の観光案内。

『秩父案内』（U／Ｕ２９１．３／１７／）
大正三年十一月七日に発行された秩父郡の概況案内本。秩父絹織物同業組合発行。非売品。

『帝都郊外の史蹟』（U／Ｕ２９１．３／１０／）
安藤祐専が著した史蹟ガイド。東京郊外に半日ほど史蹟散策に出かける人のために編纂されたもの。大正五年五月十一日発行。（要修復）

『復興の神奈川県』（U／Ｕ２９１．３／１５／）
関東大震災の打撃から復興していく神奈川県の概況を述べた本。昭和二年十月三十日発行。非売品。

『富山鉄道沿線名勝案内』（U／Ｕ２９１．４／３／）
富山軽便鉄道株式会社が編纂した沿線ガイド。大正三年十一月発行。（要修復）

『名古屋』（U／Ｕ２９１．５／６／）
名古屋市役所編纂の観光ガイド、名古屋市概況。昭和二年十一月十日発行。

『滋賀県勢概要』（U／Ｕ２９１．６／２／）
滋賀県内務部編纂の県勢概要。大正六年十月三十日発行。

『奈良と鹿』（U／Ｕ２９１．６／７／）
理学博士八田三郎の執筆した鹿の本。日本の鹿、奈良の鹿の検討から始まり、鹿によって奈良がいかに産業的に恵まれたか、など一貫して鹿の視点から語っている点が興味深い。大正九年十一月十五日発行。（要修復）

『大和名所案内』（U／Ｕ２９１．６／６／）
奈良県発行のごく普通の観光案内書。大正三年十月発行。

『北海道鉄道概況』（U／Ｕ６８６／１／）
北海道鉄道管理局が編纂した鉄道に関する総合案内。明治四十四年刊行。非売品。

『水彩新天地』（U／Ｕ７２４／１／）
画家丸山晩霞の著した水彩画論。大正三年三月二十五日、日本美術学院発行。

『刀剣と歴史』（U／Ｕ７５６／６／）
羽澤文庫が発行する月刊雑誌。第二十二号（明治四十五年七月二十五日発行）～第二十六号（大正元年十一月二十五日発行）を合本製本してある。名刀案内、刀剣鍛錬法などを掲載。天理大学図書館などに所蔵されている。

『中級仏語学』（U／Ｕ８５／１／）
フランス語の教科書。

『中級仏語学』（U／Ｕ８５／８／）（U／Ｕ８５／７）
フランス語の教科書。（Ｕ８５－８）は第一部、（Ｕ８５－７）は第二部。

『中級仏語学』（U／Ｕ８５／２／）
フランス語の教科書

『仏文読本』（U／Ｕ８５／４／）

フランス語の教科書

『エルレーヌ詩集』（U／U９５１／１／）
詩集。

『陶淵明詩集評論』（U／U９２１／３／）
漢詩集の評論。

『金剛小詩』（U／U９２１／１／）
漢詩集。

『校訂　絵入　竹取物語　完』（U／U９１３／６／）
注釈付き竹取物語。

『紅葉狩』（U／U９１２／１／）
観世流の能「紅葉狩」の謡曲本。「木曽」も収録。

『たむけのつゆ』（U９１１．１／１１／）
明治三十一年に編纂された歌集。

『最新　代表歌選』（U／U９１１／４６／）
若山牧水他の選による歌集。大正八年編纂。

『手むけ草』（U／U９１１．１／５／）
歌集。明治二十七年編纂。

『こころごころ』（U／U９１１／３６／）
有馬太郎の歌集。大正十四年刊行。

『秋の寄処』（U／U９１１／３３／）
明治三十七年に編纂された歌集。

『明治天皇御百首』（U／U９１１／２５／）
大正元年十二月に大坂毎日新聞の手で編纂された明治天皇の歌集。それぞれに解釈がついている。大阪大学図書館などに所蔵されている。

『春月』（U／Ｕ９１１／４１／）
明治四十三年出雲路通次郎が編纂した歌集。

『柿本神社奉納歌』（U／Ｕ９１１．１／２１／）
明治二十六年に編纂された奉納歌集。

『世紀のまぼろし』（U／Ｕ９１１／１０／）
明治三十五年に編纂された歌集。

『国際難局に直面して』（ＵＨ／ＵＨ３１／１０１／）
田村秀吉による政論パンフレット。満州国建国後の難局における日本外交のあり方について述べたもの。政策研究会編。昭和七年九月二十八日発行。拓殖大学図書館で所蔵。（要修復）

『薙刀体操教範』（UM／UM７８９．３／２／）
薙刀体操の図入り解説書。大正五年九月発行。江夏金太郎著。

『地方叢書　泰西資料』（ＵＨ／ＵＨ３１／５７／）（ＵＨ／ＵＨ３１／５８／）
日露戦後の地方改良運動に際して、内務省地方局が編纂したシリーズものの叢書。外国の地方経営が上手くいっているケースを拾い出して叙述したもの。明治四十三年四月三十日発行。拓殖大学他で所蔵あり。（ＵＨ３１－５８）は、同一本の明治四十五年版。こちらは北海道大学他で所蔵あり。

『書学』（ＵＨ／ＵＨ７２／１／）
書道雑誌。東大明治文庫に所蔵あり。

『白文漢文鈔本　完』（ＵＨ／ＵＨ８２／２／）
漢文テキスト。大正八年光風館発行。

『改訂　服部漢文新読本』巻三（ＵＨ／ＵＨ８２／５／）巻四（ＵＨ／ＵＨ８２／１／）巻五（ＵＨ／ＵＨ８２／４／）
漢文テキスト。大正二年富山房発行。

『論弁学奥義』（ＵＨ／ＵＨ８０／２／）
今福忍執筆の論弁学のテキスト。大正六年五月発行。

『軍隊習字帖』（ＵＨ／ＵＨ７２／７／）
軍隊用の習字テキスト。明治四十三年八月厚生堂発行。

『正文章軌範講義』（ＵＨ／ＵＨ８２／３／）
漢文学のテキスト。明治二十五年博文館発行。

『新定　十八史略鈔本』（ＵＨ／ＵＨ８２／６／）
中学校テキスト。岡田正之編纂。大正元年発行。

『支那語自在』（ＵＨ／ＵＨ８２／２１／）
中国語テキスト。明治三十五年発行。

『Choice English Sentences』（ＵＨ／ＵＨ８３／７／）
中学校上級用の英語学テキスト。明治四十五年。（要修復）

『鹿児島歌会　第四集』（ＵＭ／ＵＭ９１／４／）
歌集。明治二十五年三月二十日発行。

『南朝忠臣』（ＵＨ／ＵＨ８１／６／）
南朝忠臣の歌を集めたもの。

『感想集』（ＵＨ／ＵＨ９１／８／）
遠藤馬次郎による自選歌集。昭和四年発行。（要修復）

『Modern English Readers』第三巻（ＵＨ／ＵＨ８３／２６／）第四巻（ＵＨ／ＵＨ８３／３０／）
英文読解テキスト。大正三年発行。

『英語綴字発音法』（ＵＨ／ＵＨ８３／２２／）
英語テキスト。

『再訂　類聚法規第四編目録』（ＵＨ／ＵＨ３２／４５／）
標記通りの法令書。司法省蔵版。詳細な書誌情報はなし。明治十六年六月印行。発売所は博聞本社。九州大学ほかに所蔵されている。

『近藤芳樹　寄居文集抜萃』（ＵＭ／ＵＭ９０／１／）

印刷物ではなく、筆書きの綴り物。直筆かどうかは不明。近藤芳樹は、幕末から明治初年にかけて活躍した大道出身の国学者。宮中の歌会始で選の決裁にあたるなどした。本史料は、明治二十三年に刊行された和装本で国会図書館に所蔵されている『寄居文集　初編　巻之上・下』の、内容を一部抜萃したものである。よって上原文庫としての価値はなし。

『治罪法釈義』（ＵＨ／ＵＨ３２／１０８／）（ＵＨ／ＵＨ３２／１０９／）（ＵＨ／ＵＨ３２／１１０／）
法令書。該当部分は九州大学などにすべて所蔵されている。（製本済み）
合本されたものと収録冊子の概要の対照は以下のとおり。
（ＵＨ／ＵＨ３２／１０８／）第二十号～第二十九号
（ＵＨ／ＵＨ３２／１０９／）第四号・第五号、第十号～第十八号
（ＵＨ／ＵＨ３２／１１０／）第三十号・第三十一号、第三十三号～第三十八号、第四十号、第四十一号

『世界経済情勢』（ＵＨ／ＵＨ３３／４０／）
昭和七年に参謀本部が出した、世界恐慌後の経済情勢に関する分析書。京都大学などに所蔵あり。

『独逸経済調査』（ＵＨ／ＵＨ３３／７８／）
日本銀行調査局編の『調活』という雑誌のうち、主にドイツに関する特集号を集めて綴ったもの。該当部分はすべて東京大学や神戸大学などに所蔵あり。（製本済）

『東洋拓殖株式会社事業一斑』（ＵＨ／ＵＨ３３／６１／）
植民地経営の中枢を担った東洋拓殖株式会社の活動を綴ったもの。一橋大学と北海道大学に所蔵あり。

『独米国民保険事業論』（ＵＨ／ＵＨ３３／８２／）（ＵＨ／ＵＨ３３／８３／）
海外の保険事情について執筆されたもの。東京大学や神戸大学などに所蔵あり。

『我国の富と貯蓄』（ＵＨ／ＵＨ３３／１６／）
明治四十二年に行われた法学士下村宏氏の講演録。日本の貯金事業について論じたもの。京都大学に所蔵あり。非売品。

『自動車税制改革私案』（Ｕ／Ｕ３４５／３／）
東京瓦斯電気工業株式会社理事森四郎の執筆した税制改革案。大正十年六月発行。
大阪市立大学や九州大学に所蔵あり。

『ＥＣＯＮＯＭＩＣ ＨＩＳＴＯＲＹ ＯＦ ＭＡＮＣＨＵＲＩＡ』（満州経済史）（Ｕ／Ｕ３３２／２／）
朝鮮銀行が大正九年に刊行した、満州地方の経済に関する書。英文。非売品。同志社大学や独協大学などに所蔵あり。

『日本財政経済策』（ＵＨ／ＵＨ３４／７／）
同文館の創業十五年を記念して、『実業界』臨時増刊二巻七号として刊行されたもの。大阪市立大学ほか多数の大学図書館に所蔵あり。（要修復）

『大正四年　元山商業会議所統計年報』（ＵＨ／ＵＨ３５／４／）
元山の各種産業や戸数などに関する統計データ集。年単位で前後数年にわたって作られたもののようである。京都大学や一橋大学などに所蔵あり。村主隆左右編・発行、大正五年十月十五日、発行所は元山商業会議所、印刷所は吉田商会印刷部（要修復）

『大正九年度　統計年表』（ＵＨ／ＵＨ３５／１１／）（ＵＨ／ＵＨ３５／１３／）（ＵＨ／ＵＨ３５／２２／）（ＵＨ／ＵＨ３５／２３／）
南満州鉄道株式会社京城管理局が発行した事業関係の統計データ集。大正六年度分から九年度分まで四冊あり。該当部分は全て京都大学や九州大学に所蔵あり。（要修復）

『大正四年警察統計』（ＵＨ／ＵＨ３５／２１／）
朝鮮駐箚憲兵隊司令部・朝鮮總督府警務總監部発行の統計。一橋大学に所蔵されており、一九九七年には高麗書林より復刻版が出されている。（要修復）

『大正四年度鉄道院統計図表』（Ｕ／Ｕ３５／７／）
「各驛間旅客發著及通過一覽表」「各驛間貨物發著及通過一覽表」からなる鉄道統計データ集。北海道大学ほかに所蔵あり。

『経済統計』（Ｕ／Ｕ３５／５／）
帝国鉄道協会による機関誌『会報』の第三十三巻第六号附録。昭和七年五月作成。帝国鉄道協会の事業に関連した統計データ集。東京大学ほかに所蔵あり。

『末松氏　小学修身訓　生徒用』（ＵＨ／ＵＨ３７／３５／）
教科書。和綴本。

『思想問題から観た中等教育改革論』（ＵＨ／ＵＨ３７／３３／）

大正デモクラシーの風潮に反駁した教育論の書。付録に「教員笑話」がついている。鳴教大学に所蔵あり。

『修正　女子作法書　心得之部』（ＵＨ／ＵＨ３７／６６／）
教科書。和綴本。

『青少年及び指導者の為に』（ＵＨ／ＵＨ３７／８／）
陸軍士官学校卒業の中柴末純の手による、精神教育に関する教化の書。奈良県立図書館などに所蔵あり。

『早稲田大学創業録』（ＵＨ／ＵＨ３７／１６／）
創立三十周年の記録。立命館大学ほか多くの大学で所蔵。

『理論実地　手工書　全』（ＵＨ／ＵＨ３７／２／）
紙細工・粘土細工など様々な手工に関する入門書。神戸大学ほかに所蔵あり。

『教育施設要覧』（ＵＨ／ＵＨ３７／２５／）
南満州鉄道株式会社地方部地方課による、満州における教育の概要書。滋賀大学などに所蔵あり。

『朝鮮教育要覧』（ＵＨ／ＵＨ３７／６１／）
朝鮮における教育の沿革や統計をおさめた書。朝鮮総督府内務部学務局。大正十五年出版。筑波大学ほかに所蔵あり。

『福島県教育事蹟』（Ｕ／Ｕ３７２／２／）
福島県の教育事蹟について書かれたもの。

『明治四十三年改訂　兵器学校程　巻二附図』（ＵＨ／ＵＨ３９／３６７／）
陸軍士官学校の兵器学の教科書の付図。各種兵器の図面を集めたもの。カラーで非常に詳細なものである。

『平壌包囲攻撃』（ＵＨ／ＵＨ３９／４０９／）
標記の内容につき、軍事学的観点より経過を記した冊子。小樽商科大学に所蔵あり。

『現行衛生法典』（ＵＨ／ＵＨ４９／１３／）
衛生に関する法規を蒐集採録したもの。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。中

島楽編、印刷所は大阪国文社。明治四十二年十一月二十日発行。非売品（要修復）

『医学博士菅沼定男述　神経衰弱症と眼及眼鏡装用上の注意』（ＵＨ／ＵＨ４９／５２／）
標記通りの小冊子。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『家庭必備　自診自療法』（ＵＨ／ＵＨ４９／２１／）
標記通りの小冊子。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『戦術問題』（ＵＨ／ＵＨ３９／５３０／）
フランス軍人ドースの著作を偕行社が翻訳したもの。東京大学に所蔵あり。

『四十三年改訂　戦術学教程巻二付録』（ＵＨ／ＵＨ３９／３７４／）
陸軍士官学校の戦術学の教科書の付録。

『四十三年改訂　戦術学教程巻一付録』（ＵＨ／ＵＨ）
陸軍士官学校の戦術学の教科書の付録。

『戦闘射撃施行之指針』（ＵＨ／ＵＨ３９／３２７／）
標記に関する教科書。天津図書館に所蔵あり。

『大隊教練』（ＵＨ／ＵＨ３９／５２７／）
ドイツ「某氏」の著作を陸軍歩兵大尉山本正熊が翻訳したもの。軍事に関する参考書。東京偕行社蔵版、編集兼発行者は斉藤戒三、印刷所は元真社。明治三十五年十二月廿六日発行。国会図書館や全国の大学図書館には所蔵なし。

『大日本武徳会記要』（ＵＨ／ＵＨ３９／２３７／）
『武徳会誌』（ＵＨ／ＵＨ３９／２３９／）（ＵＨ／ＵＨ３９／２４０／）を刊行した財団法人大日本武徳会の沿革を記した冊子。奥付なし。滋賀県立大学に所蔵あり。

『畜犬標準書』（Ｕ／Ｕ６４５／１／）
犬好きの人のための本。

『関東州の漁業及製塩業』（Ｕ／Ｕ６６／１／）
標記に関する沿革誌。前欠。山口大学などに所蔵あり。

『大正五年　貿易要覧』（ＵＨ／ＵＨ６７／７／）

標記通りの書。仁川税関編。拓殖大学などに所蔵あり。

『交通教範草案』（ＵＨ／ＵＨ６４／１／）
標記通りの書。同内容の別版が近代デジタルライブラリーにあり。

『改訂　農業教科書　上巻』（ＵＨ／ＵＨ６１／１２／）
教科書。

『帝国飛行協会監輯　万国航空年鑑　１９２１』（ＵＨ／ＵＨ６８／８１／）
標記通りの書。滋賀県立大学などに所蔵あり。

『日月潭』（Ｕ／Ｕ２９２／５９／）
台湾の湖、日月潭に関する小冊子。大正５年の発行。

『平壌の古跡』（Ｕ／Ｕ２９２／１４／）
平壌名勝旧跡保存会より大正四年に発行された、平壌の史跡に関する解説書。

『趣味の地理欧羅巴』（Ｕ／Ｕ２９３／３／）
三省堂より明治四十二年に出版された、欧羅巴に関する地理書。個人の「世界的思想」の涵養を刊行目的としている。坪内逍遥や新渡戸稲造、鳥居龍蔵の推薦文が掲載されている。

『莫斯科見聞記』（Ｕ／Ｕ２９３／１０／）
内務省より発行された『外事警察報』の第八十九、八十九号に掲載された同名の連載記事をまとめて冊子にしたもの。

『朝鮮人の漂流記に現れた尚眞王即位当時の南島』（Ｕ／Ｕ２９９／１／）
文学士伊波普猷の著述した論文の抜刷と思われる。昭和二年に発行。掲載雑誌等は不明。

『日本反面史』（Ｕ／Ｕ２１０．１／１／）
日本を「世界に於ける女人国」と位置付ける著者、樋口麗陽が記した古代から近代までを対象とした女性史。

『日本全史』（Ｕ／Ｕ２１０．１／４／）第二巻（Ｕ／Ｕ２１０．１／５／）第三巻（Ｕ／Ｕ２１０．１／６／）第四巻（Ｕ／Ｕ２１０．１／７／）第五巻（Ｕ／Ｕ２１０．１／８／）第一巻
岡谷繁実著の日本通史。天皇を軸とした編年体で書かれたもの。本文は漢文。いくつかの

大学図書館に所蔵あり。

『母上の三年祭を迎へて』（Ｕ／Ｕ２８９．１／Ｓ／１９／）
西郷従徳の母、小照の事績をつづったものだが、本文中では西郷従道についても触れられている。非売品。昭和六年発行。九州大学図書館などに所蔵あり（要修復）

『北海道要覧』（Ｕ／Ｕ／２９１．１／１／）（Ｕ／Ｕ／２９１．１／２／）
大正七年に発行された北海道の地誌。同一の本が二冊ある。

『盛岡市要覧』（Ｕ／Ｕ２９１．２／１／）
昭和三年に盛岡市役所から発行された盛岡市の地誌。付近の名勝紹介などもある。非売品。市役所などで配られたものか。

『福島県案内』（Ｕ／Ｕ２９１．２／２／）
昭和二年発行の福島県の地誌。福島市や各郡の特産品や簡単な歴史が記載されており、一斑の旅行者向けに発行されたものと考えられる。

『福島県林政紀要』（Ｕ／Ｕ２９１．２／４／）
大正三年に福島県より発行された福島藩政時代の林政についてまとめたもの。明治初期の乱伐を反省する立場から書かれたもので、林野の機能を見直し植林の重要性を訴えている。鹿児島大学図書館他に所蔵あり。

『日仏協会会報』（Ｕ／Ｕ３０２／３／）
「日本人及仏蘭西人ノ交際ヲ親密ナラシムルコト」を目的として組織された日仏協会の機関誌。理事長は工学博士の古市公威。本文はフランス語と日本語。所蔵は七号、八号、日仏会館第六回報告号、日仏会館第八回報告号、十号、日仏協会第十二回報告号、日仏協会第二十三回報告号、日仏協会第二十四回報告号。内容は、会員動勢に関するものがほとんど。慶応大学図書館、北海道大学図書館などに所蔵されている。

『民主主義と自由』（Ｕ／Ｕ３１１／１／）
ドイツを「理想的故郷」とするイギリス人思想家チェンバレンの著書。国民の参政権は、国民精神の発達に伴って付与されるものとする。訳者は長瀬鳳輔訳。普選運動の盛り上がりの中で出された著作物と位置づけることができるが、各地の大学図書館に所蔵されている。発行は大正七年。

『日露の将来』（Ｕ／Ｕ３１９／１０／）

ルードルフ・マルチン著、東亜同文会訳。明治三十九年に発行。「露国カ東方太平洋岸ニ進出スレハ必ス日本人ノ為メ撃退セラルヘキコト明白ナラサルヘカラサリキ」と日露戦後ならではの記述もあり興味深い著作だが、各地の大学図書館に所蔵されており、重要度は下がる。

『普通選挙法示解』（U／Ｕ３１４／１／）
法令研究会編纂の普通選挙に関する解説書。書中に『福岡日日新聞』掲載の「選挙法と大審院判例」という連載記事の切り抜きが挟み込まれている。

『犬の研究』（U／Ｕ６４５／４／）
陸軍三等獣医石原辰太郎、農商務技手田中正一、東京帝国大学農科大学撰科修業生臼井正一郎らの共著。「愛犬家の参考となす」ために書かれた犬の総合研究書。

『行』（UH／ＵＨ３１／８７／）
『魂』の続刊。大野照孝著。昭和七年刊行。祭政一致によって日本を建て直さねばならないという論調で執筆されている。

『外人ニ土地所有権許与スル利害ニ就テノ鄙見書』（UH／ＵＨ３１／１１２／）
国体護持の立場から外国人への土地所有権の付与に反対する人々によって書かれた小冊子。明治四十五年発行。

『日米親善論』（UH／ＵＨ３１／１３２）
ハーバード大学名誉総長のエリオットの講演記録。大正九（一九二〇）年八月二十二日付けのニューヨークタイムスに掲載されたものが翻訳、転載されたもの。表紙と１～２頁のみ。後欠のため書誌情報確認できず。

『教育者と華族』（UH／ＵＨ３１／１４０）
仏文雑誌の『Correspondant』に掲載されたイジドル・シャロン著の「教育者と華族」という論説を翻訳して冊子としたもの。華族こそが国利民福を体現する教育を行うことができるという論調で書かれている。発行は明治四十三年。

『法律志叢』（UH／ＵＨ３２／６／）
知新社発行の法学系雑誌。外国判例の紹介や法解釈が掲載されている。発行は明治十年代。所蔵巻号は二号、十八号、二十号、二十九号、三十三号、三十五号。（製本済）（要修復）

『大戦と世界経済状態』（UH／ＵＨ３３／４４／）上巻（U／Ｕ２３０／５／）中巻（U

Ｈ／ＵＨ３３／４３／）下巻
第一次世界大戦の世界経済への影響について分析したもの。特に欧米諸国の経済状態の分析が詳しい。本書は、上・中・下の三巻構成をとっている。各地の大学図書館に所蔵されている。

『衣食住の変遷』（ＵＨ／ＵＨ３３／６８／）
広島県の高田郡吉田町（現在の広島県安芸高田市）で大正七年に行われた新渡戸稲造の講演記録をまとめた小冊子（要修復）

『支那幣制改革論』（ＵＨ／ＵＨ３３／２４／）
オランダ人、ジー・ヴィッサリング著、山本唯三郎訳の著作物。中国に対して貨幣制度改革を提言することを目的に書かれたもの。国会図書館には所蔵されていないが、各地の大学図書館に所蔵されている。大正二年発行。（要修復）

『西比利亜の金融及通貨に就て』（ＵＨ／ＵＨ３３／４９／）
大正八年に朝鮮銀行から発行された、ロシアの金融状況についての調査報告書。東京大学、京都大学などに所蔵あり。（要修復）

『生活と一家経済』（ＵＨ／ＵＨ３３／２７／）
前大阪高等商業学校長の平沼淑郎著の家庭経済を論じた著作物。奈良女子大学に所蔵されている。大正四年発行。（要修復）

『細民部落改善の概要』（ＵＨ／ＵＨ３６／２５／）
日本近代における社会事業の先駆者として知られる留岡幸助の講演録。奥付がないため、発行年等は不明だが、留岡の内務省嘱託時代のものであることは間違いないと思われる。東京大学と同志社大学に所蔵されている。

『労働問題管見』（ＵＨ／ＵＨ３６／３６／）
大正八年に発行された、実業家安川敬一郎による労使関係に関する論説が掲載されている小冊子。大正期より顕著になってきた労働者の権利意識の覚醒に対する使用者の対応策が論じられている。東京大学に所蔵されている。

『国民修身書』（ＵＨ／ＵＨ３７／３８／）巻四（ＵＨ／ＵＨ３７／３９／）巻三
尋常小学校用の教科書。巻四。

『国民修身書』（ＵＨ／ＵＨ３７／３７／）

高等小学校教師用の教科書。巻五。

『改訂高等補習読本』（ＵＨ／ＵＨ３７／７４／）上巻（ＵＨ／ＵＨ３７／７７／）下巻
実業補習学校用の教科書。

『築城学教程　附録』（ＵＨ／ＵＨ３９／５４０／）巻之一附録（ＵＨ／ＵＨ３９／５４１／）巻之三附録
陸軍士官学校の築城学科の教科書の附録。

『築城学教程　三十四年改訂』（ＵＨ／ＵＨ３９／３２８／）巻三（ＵＨ／ＵＨ３９／３２９／）巻一
陸軍士官学校の築城学科の教科書。

『戦術学教程　四十三年改訂』（ＵＨ／ＵＨ３９／３１９／）巻一
陸軍士官学校の戦術学の教科書。騎砲兵之部。

『戦術学教程　四十三年改訂』（ＵＨ／ＵＨ３９／３１８／）巻一
陸軍士官学校の戦術学の教科書。歩兵之部。

『戦術学教程　大正四年改訂』（ＵＨ／ＵＨ３９／５４２／）巻一（ＵＨ／ＵＨ３９／５４３／）巻四
陸軍士官学校の戦術学の教科書。

『携帯火兵　小銃、拳銃、弾薬ノ部』（ＵＨ／ＵＨ３９／５４５／）
陸軍歩兵学校用の教科書。

『帝国国難論　世界を敵とする覚悟と準備』（ＵＨ／ＵＨ３９／４７３／）
衣斐釰吉著。大正五年に発行。白村江の戦い、蒙古襲来、三国干渉などの歴史的「国難」について解説し、第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国の東アジア進出が新たな「国難」となることを想定し、「挙国皆兵主義」の徹底による国防の必要性について力説しているもの。国会図書館にはないが、神戸市立図書館や京都大学に所蔵されている。

『忠勇列伝　日露戦役』（ＵＨ／ＵＨ３９／２７３／）
忠勇顕彰会編纂による、日露戦争時に活躍した一般兵士を顕彰した本。本書は長野県版。他にも滋賀、大阪、京都などの各版がある。各地の大学図書館に所蔵。（要修復）

『帥兵術必携』（ＵＨ／ＵＨ３９／２８８／）巻一（ＵＨ／ＵＨ３９／２８７／）巻二（ＵＨ／ＵＨ３９／２８６／）巻三
ドイツの参謀少佐ヂックフート著の戦術学に関する解説書。偕行社版。東京大学に所蔵。（要修復）

『巴爾克氏戦術』（ＵＨ／ＵＨ３９／５４７／）巻一（ＵＨ／ＵＨ３９／５４４／）巻二
ドイツの参謀少佐バルク著の戦術に関する解説書。陸軍大学校版。東京大学に所蔵。（要修復）

『四十三年兵器学教程附録』（ＵＨ／ＵＨ３９／３６８／）
陸軍士官学校の兵器学の教科書の附録。

『野戦築城ノ問題ニ関スル答解及評論』（ＵＨ／ＵＨ３９／５２６／）
ドイツの歩兵中尉アルベルト・ヒールテス著の築城学に関する解説書。陸軍工兵大尉の松村法吉訳。東京偕行社蔵版。（要修復）

『受験準備　幾何学問題集』（ＵＨ／ＵＨ４１／１２／）（ＵＨ／ＵＨ４１／７６／）
幾何学の問題集。（要修復）

『図学教程』（ＵＨ／ＵＨ４１／３５／）
陸軍士官学校の図学の教科書。（要修復）

『実用速算方』（ＵＨ／ＵＨ４１／４１／）
速算の方法についての解説書。（要修復）

『算術教程』（ＵＨ／ＵＨ４１／４２／）
陸軍中央幼年学校予科、陸軍地方幼年学校用の教科書。（要修復）

『昭和十三年暦』（ＵＨ／ＵＨ４４／１／）
暦。（要修復）

『最近日本地理』（ＵＨ／ＵＨ４５／３５）全（ＵＨ／ＵＨ４５／３６）下巻（ＵＨ／ＵＨ４５／３７）中巻（ＵＨ／ＵＨ４５／３８）上巻
三省堂による中等学校用の教科書。

『新日本地理』（ＵＨ／ＵＨ４５／３３／）

三省堂による中等学校用の教科書。

『越中新地誌』（ＵＨ／ＵＨ４５／２５／）
越中地方の地誌。明治二十六年発行。筑波大学に所蔵あり。

『樺太農産品評会報告書』（ＵＨ／ＵＨ４５／２８／）
明治四十三年十月十五日に樺太豊原で開催された品評会の報告書。小樽商科大学に所蔵あり。（要修復）

『金沢図幅地質説明書』（ＵＨ／ＵＨ４５／６／）
農商務省の地質調査所による、金沢の地質調査報告書。明治四十五年発行。各地の大学図書館に所蔵あり。（要修復）

『鉱物新教科書』（ＵＨ／ＵＨ４５／１４／）
六盟館による中等学校用の教科書。（要修復）

『博物通論』（ＵＨ／ＵＨ４６／２／）
成美堂による中等学校用の教科書。（要修復）

『植物教科書』（ＵＨ／ＵＨ４７／１／）
光風館による高等女学校用の教科書。（要修復）

『物理教科書』（ＵＨ／ＵＨ４２／４／）
光風館による高等女学校用の教科書。（要修復）

『動物教科書』（ＵＨ／ＵＨ４８／７／）
開成館による中等学校用の教科書。（要修復）

『航空機』（ＵＨ／ＵＨ３９／２３４／）
伊達源一郎著の航空機発達史。大正四年発行。全国の大学図書館に所蔵あり。（要修復）

『朝鮮総督府鉄道局年報　明治四十四年度』（ＵＨ／ＵＨ６８／１０２）
朝鮮総督府発行の植民地朝鮮内の鉄道状況を掲載した報告書。前年に日韓併合が行われたばかりであり、初期の植民地朝鮮政策が窺える資料である。明治四十四年度分は一橋大学が所蔵している。（要修復）

『大正博覧会出品図説』（ＵＨ／ＵＨ６０／１／）
中国実業雑誌社発行の図録。大正二年の博覧会の出品物の写真が掲載されている。滋賀大学、天津図書館などに所蔵あり。（要修復）

『東蒙古ニ於ケル牧草及雑草東蒙古植物目録』（Ｕ／Ｕ４７／２／）
大正六年に南満州鉄道株式会社地方課より発行された植物目録。北海道大学や京都大学など、各大学に所蔵あり。（要修復）

『エムデンの奮戦』（Ｕ／Ｕ３９７／１２／）
ドイツ海軍大尉ミュッケによる、巡洋艦エムデンの事績が記された書。巡洋艦エムデンは、第一次世界大戦時にインド洋沖で日本やイギリスに対して通商破壊を行っていた艦。宮家壽男訳。大正五年発行。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。

『民刑事件旅費調表』（Ｕ／Ｕ３２７／１／）
長崎控訴院管内における訴訟当事者、証人、鑑定人、通事等の控訴院までの旅費や宿泊料を、各裁判所館内ごとに調査したもの。国会図書館、大学図書館には所蔵なし。（要修復）

『世界鉄道統計』（ＵＨ／ＵＨ３５／６／）
アメリカ鉄道経済局刊行の『Comparative Railway Statistics:United States and Foreign Countries』の訳書。大正十年四月に鉄道大臣官房文書課より発行。（要修復）

『史跡名勝天然記念物調査報告』（Ｕ／Ｕ４６／１／）第一（Ｕ／Ｕ４６／２／）附録
香川県史跡名勝天然記念物調査会による表題通りの報告書とその附録。九州大学など、各大学図書館に所蔵あり。

『トラコーマ予防法』（Ｕ／Ｕ４９／３／）
昭和十一年発行のトラホームの予防法が書かれた本。東北地方での大流行をきっかけに執筆されたもの。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『肺病に直面して』（Ｕ／Ｕ４９３／４／）
肺結核を患った著者、茂野吉之助の闘病生活がつづられたもの。大正十一年発行。結核研究所に所蔵あり。

『もみぢ　つつじ　ざくろ栽培法』（Ｕ／Ｕ６２／５／）
園芸書。

『小物盆栽仕上法』（Ｕ／Ｕ６２７／６／）
園芸書。

『軍制学教程』（ＵＨ／ＵＨ３９／４９１／）
大正元年発行の陸軍士官学校の軍制学の教科書。

『入学受験算術準備書　中学校、師範学校、実業学校、高等女学校』（ＵＨ／ＵＨ４１／４８／）
中等教育進学者に対する参考書。

『汽船汽車内国旅行の杖』（ＵＨ／ＵＨ６８／１２６／）
明治三十二年発行の汽船汽車の運賃及び時刻表。

『最近飛行術』（ＵＨ／ＵＨ６８／１２８／）
飛行技術全般に関わる解説書。

『征空　航空機に関する懸賞文集』（ＵＨ／ＵＨ６８／１０９／）
表題通りの論文集。曽我一郎編。大正七年発行。東京大学、大阪市立大学に所蔵あり。

『南薩鉄道案内』（ＵＨ／ＵＨ６８／１２７／）
南薩鉄道沿線の観光案内書。

『草苺之栽培』（Ｕ／Ｕ６２６／１／）
苺の栽培指南書。

『管内業務細密監査の概要』（ＵＨ／ＵＨ６８／１１１／）
千葉運輸事務所の昭和二年六月一日所報の附録として発行されたもの。運輸事務局の運営方法が記述の中心を占める。国会図書館、大学図書館には所蔵されていない。

『管内駅勢要覧』（ＵＨ／ＵＨ６８／１１０／）
大正十五年に千葉運輸事務所より発行された運輸事務所管内にある各駅の沿革。

『オキシヘーラー』（ＵＨ／ＵＨ４９／７３／）
酸素療法器具オキシヘーラーの使用方法や効果が記されたもの。発行所は、オキシヘーラー奨励会。全国に会員がいたらしい。巻末にはオキシヘーラーの愛用家一覧がある。井上準之助や斉藤実などの著名人が名を連ね、陸海軍人の使用者も多いが、上原勇作の名前は

ない。北海道大学に所蔵あり。

『新亜細亜』（ＵＨ／ＵＨ０５／３０５／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３０６／）（ＵＨ／ＵＨ０５／３０７／）
満州地域を主な対象に、政治・経済・産業などについて論じた総合誌。発行は亜細亜時報社。満州事変前後の当地の実態やそれに関する諸認識がわかる史料といえる。該当部分は岐阜大学などにすべて所蔵されている。（製本済）

「上原文庫」Ｂ文書、重要度ランク付き目録

【凡例】
著者・人名を除き旧字体は新字体とし、巻号は算用数字に直した。
発行年は初版でとらず、「上原文庫」に所蔵されている現物の発行年を記載した。

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
10	U157/1/2	報徳		倉橋四郎	報徳会総務所	1926		A
13	U911	梅之香	第3集	水谷正命(編)	水谷正命	1896		A
16	UH	日本建築協会主催　住宅改造博覧会		江村恒一（編）	日本建築協会	1922		A
17	UH02/1	東京書籍商共立会第廿壱回図書糶市会出品目録		東京書籍商共立会		1918		A
18	UH02/2	行啓記念北駕文庫蔵書略目録		三浦治（編）	北駕文庫	1914		A
26	UH03/7	国語教程	巻4	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913		A
27	UH03/8	国語教程	巻5	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913		A
29	UH04/100	下位春吉熱血熱涙の大演説		下位春吉	大日本雄弁会講談社	1933		A
33	UH04/15	第二回第三回地方改良講演集	下巻	内務省地方局（編）	博文館	1911		A
37	UH04/3	講話集		講話会（編）				A
39	UH04/5	日本赤十字社副社長小澤男爵講話百選		町田熊男（編）	博愛発行所	1916		A
40	UH04/6	通俗大国民文庫		鈴木暢幸・日高政太・和田歌吉	大国民義会	1911		A
41	UH04/7	講話集		講話会（編）		1917		A
44	UH05/10	済美の友		済美学校(編)	広島偕行社	1931		A
46	UH05/274	オリエンタル・レヴュー 邦字版	第2号、第3号、第2巻4月号、第2巻第5号、第		ゼオリエンタルレビュー社	1921		A
47	UH05/275	東方時論	第3年3月号、第4年5月号、第4年8月号		東方時論社	1918～1919		A
51	UH05/324	第二回支那年鑑		東亜同文会調査編集部（編）	東亜同文会調査編集部	1917		A
52	UH05/326	第二回支那年鑑		東亜同文会調査編集部（編）	東亜同文会調査編集部	1920		A
53	UH05/339	第一回支那年鑑		東亜同文会調査編集部（編）	東亜同文会調査編集部	1912		A
54	UH05/343	国際パンフレット通信	第218集～第226集・第13輯・第17輯・附	平井正之	電信堂	1928		A
67	UH15/110	孝道の科学的研究の自序		広池千九郎	東京築地活版製造所	1929		A
70	UH15/116	改修中学修身書	巻4	坂本直夫				A
80	UH15/30	怒らずに働ける修養						A
81	UH15/38	管家遺誡						A
83	UH15/56	日本武士道		三神家満（編）	三神家満	1891		A
84	UH15/59	悟道弁附						A
87	UH15/65	処世の活躍		大谷嘉兵衛	丸山舎書籍部	1911		A
91	UH15/76	方針		野口史繁治	対場会事務所	1920		A
95	UH15/97	楠公桜井駅遺訓		西野善吉	大正書院	1916		A
96	UH16/10	宗教政策に関する卑見		長澤林太郎	一色活版所	1916		A
97	UH16/12	御神号		祖先教本部				A

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
99	UH16/8	神州の法制に現はれたる信條の力	水交社記事第10巻第1号附	吉田力作（編）	水交社	1912		A
101	UH17/17	大道			天地太本教出版部		表紙のみ	A
111	UH21/27	恒紀事略		平矢埜		1864		A
112	UH21/27	訂正日本史綱		嵯峨正作		1895		A
113	UH21/38	日露交渉北海道史稿	上篇・下篇	岡本柳之助	東洋社	1898		A
114	UH21/42	家庭講和 日本歴史	巻之1	山路愛山	東京民友社	1913		A
117	UH21/53	朝鮮移住案内		東洋拓殖株式会社	大盛堂印刷所	1917		A
120	UH21/55	大正四年大阪港勢一斑		大阪市役所港湾部				A
129	UH28/12	皇室略蝶				1914	表紙のみ	A
131	UH29/42	東眼西眼録		竹内友二郎	金港堂書籍			A
132	UH29/44	田村土（カ）団体		福島県田村郡教育部会（編）	福島県田村郡教育部会	1947		A
137	UH29/54	秋田縣々勢一斑		秋田縣廳		1908		A
140	UH29/68	最新弘前■■〔地図カ〕						A
142	UH29/74	福島県名勝旧跡誌						A
143	UH29/75	太陽				1923		A
144	UH29/78	〔小樽の景観〕		小樽区役所	小樽区役所	1911		A
147	UH29/87	欧米巡回誌	上編	野津道貫	広島鎮台	1886		A
150	UH292/15	放浪漫紀		大谷光瑞	民友社	1916		A
153	UH292/7	赴清実業団誌		白石重太（編）	博文館	1914		A
155	UH30/1	無遠慮に申上げる悪思想防止に就て		酒井栄蔵	正義時報社出版部	1928		A
157	UH30/5	奥地利匈牙利		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1916		A
162	UH31/11	満蒙を観して		阪東宣雄	東亜連盟義会	1928		A
165	UH31/12	満蒙を観して		阪東宣雄	東亜連盟義会	1928		A
169	UH31/137	戦時記念事業と自治経済		内務省（編）	内務省			A
174	UH31/40	第卅七議会速記録抜粋　論戦実		佐久間秀雄	秀英舎	1916		A
179	UH31/77	大正と列強	第2号				表紙のみ	A
180	UH31/78	清国枢要大官表	東亜同文会報告第116回		東亜同文会	1909		A
185	UH32	法学志林	第12巻1.2.3.5.6号		法政大学	1910		A
186	UH32	法学新報	20巻4.5.6.7.8.11		法学新報社	1910		A
188	UH32/127	〔訴訟の目的と行為〕						A
190	UH32/157	勤倹勧奨行政乃法制		井上友一（編） 泉谷三郎（編輯）	正文舎	1904		A
192	UH32/51	〔商法〕					商事上の契約？表紙無し	A
198	UH32/60	判事又は裁判所へ訴ふる事						A
199	UH32/7	大審院刑事判決録					明治17年9月分	A
200	UH32/70	国際法講義録		要塞砲兵幹部練習所		1890		A
204	UH33/17	地方改良ト勤労貯蓄ノ事例						A
205	UH33/19	米国の対支那経済的発展		速水篤次郎		1917		A
211	UH33/64	経学上より見たる革命の意義		谷口豊五郎		1911		A
213	UH33/72	日本銀行第六十回半季報告				1912		A
215	UH34/3	財政整理略論				1912		A
216	UH34/4	東京市財政現状調査報告		阪谷芳郎		1912		A
217	UH35/2	国勢調査速報在外本邦人		大谷仁兵衛	帝国地方行政学会	1921		A
218	UH35/39	第十三回万国統計協会会議報告		内閣統計局		1912		A
219	UH35/41	大阪市政図解		大阪市役所	大阪市	1914		A
222	UH35/44	関東都督府第十統計書		関東都督府都督官房文書課		1917		A
226	UH36/27	明治四拾五年五月第九蔓国赤十字総会参列日記		小澤武雄	日本赤十字社			A
230	UH36/3	婦人問題解決		神木猶之助		1924		A
232	UH36/31	財団法人義経会沿革史		義経会（編）	義経会	1929		A

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
233	UH36/32	〔各種社会団体・および銃後団体に関する写真集〕						A
234	UH36/32	〔各種社会団体・および銃後団体に関する写真集〕						A
237	UH36/44	華族館報告	第32号					A
238	UH37/30	東亜同文会第二十八回報告		東亜同文会（編）	東亜同文会	1902		A
241	UH38/10	北海道旧土人		北海道庁	三秀舎	1911		A
242	UH38/11	幸運之鍵						A
244	UH38/4	薩摩嘉永殉難志士　祭典録		鹿児島史談会		1919		A
251	UH39/200	帝国軍人の精神		荒木貞夫	朝風社	1933		A
252	UH39/232	憲法秘伝抄		千葉勝太郎	三木啓次郎	1915		A
254	UH39/235	一　騎武功抄						A
255	UH39/236	御大礼記念武道大会一覧		宮内省皇宮警察部	宮内省皇宮警察部	1929		A
256	UH39/242	欧州西方戦場に於ける騎兵の行		石井良次郎（編）	偕行社	1915		A
267	UH39/284	敵国降伏		葦津耕次郎	葦津耕次郎	1912		A
274	UH39/309	欧州戦争概要1916年羅国方面ノ		石井良次郎（編）	偕行社本部	1917		A
275	UH39/317	43年改訂戦術学教程巻3附録				1910		A
276	UH39/320	戦術学教程	巻2			1910		A
278	UH39/325	応用戦術講義録	前編	監田武夫・司馬享太	佐藤栄政	1899		A
279	UH39/335	歩兵第14連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
280	UH39/338	歩兵第56連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
281	UH39/339	歩兵第41連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1922		A
282	UH39/344	歩兵第13連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
283	UH39/344	歩兵第66連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1922		A
284	UH39/345	近衛歩兵第1連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
285	UH39/346	歩兵第1連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
286	UH39/347	近衛歩兵第3連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
287	UH39/348	歩兵第9連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
288	UH39/349	歩兵第9連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
289	UH39/350	歩兵第56連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
290	UH39/351	歩兵第55連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1925		A
291	UH39/352	近衛歩兵第3連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1925		A
292	UH39/353	歩兵第19連隊史		帝国連隊史刊行（編）	帝国連隊史刊行会	1925	大正14年版	A
293	UH39/354	歩兵第52連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1925	記念版	A
294	UH39/355	歩兵第35連隊史		帝国連隊史刊行（編）	帝国連隊史刊行会	1925	大正14年版	A
295	UH39/356	歩兵第51連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1925	記念版	A
296	UH39/358	歩兵第64連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
297	UH39/360	歩兵第57連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1923		A
301	UH39/400	軍人ト政治知識		蜷川新				A
302	UH39/402	歩兵第37連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1921		A
315	UH39/474	陸軍特別大演習福岡県		福岡県（編）	福岡県	1912		A
316	UH39/475	上海事変		濱田　峰太郎				A
318	UH39/477	軍事学問答　下士上等兵候補者用		A.B	厚生堂（陸軍省御用図書発行所）	1906		A
319	UH39/478	仏国野外要務令		椎川亀五郎（編）	偕行社	1910		A
320	UH39/478	仏国野外要務令					表紙のみ	A
321	UH39/479	大正四年改訂戦術学教程	巻2			1915		A
322	UH39/480	大正四年改訂戦術学教程	巻3			1915		A
323	UH39/482	38年改訂築城学教程	巻2附	南部辰丙	陸軍士官学校	1905		A
324	UH39/483	38年改訂築城学教程	巻1	南部辰丙	陸軍士官学校	1905		A
325	UH39/484	38年改訂築城学教程	巻2	南部辰丙	陸軍士官学校	1905		A
326	UH39/485	38年改訂築城学教程	巻3	南部辰丙	陸軍士官学校	1905		A
327	UH39/486	32年改訂服務提要		高木作蔵	陸軍士官学校	1899		A
328	UH39/487	大正4年改訂　服務提要		陸軍士官学校（校長与倉喜平）	陸軍士官学校	1915		A
329	UH39/488	35年改訂　軍制学教程		陸軍士官学校（校長高木作蔵）	陸軍士官学校	1902		A
330	UH39/489	38年改訂　軍制学教程			陸軍士官学校	1905		A
331	UH39/490	43年改訂　軍制学教程		陸軍士官学校（校長南部辰丙）	陸軍士官学校	1910		A
333	UH39/549	欧州列強配兵図　独仏　墺塞墺露　国境図			東京偕行社	1914	地図	A
335	UH39/551	数線陣地ノ攻防		陸軍大学校将校集会	陸軍大学校将校集会	1921		A
338	UH39/554	近衛歩兵第2連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1919		A

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
339	UH39/555	歩兵第9連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1918		A
340	UH39/556	歩兵第17連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1919		A
341	UH39/557	歩兵第20連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1921		A
342	UH39/558	歩兵第92連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1919		A
343	UH39/559	歩兵第36連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1918		A
344	UH39/560	歩兵第38連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1918		A
345	UH39/561	歩兵第60連隊史		帝国連隊史刊行	帝国連隊史刊行会	1919		A
346	UH39/562	露人ノ一都府的侵略筆法						A
347	UH41/1	初等平面三角法		布貌遜	開新堂書店	1894		A
348	UH41/10	数学問題分類集代数之部		松原毎吉（編）	光風館書店	1911		A
350	UH41/13	幾何学考へと解き方	続編	藤森良蔵	青野文魁堂	1917		A
353	UH41/43	軍人用書算術問題解放手引		三輪鈔（編） 小出貫一郎(閲)		1900		A
355	UH41/49	高等小学算術書第一学年児童用		文部省		1910		A
356	UH41/5	数学教程下巻解式		富樫参	厚生堂	1901		A
358	UH41/6	講本幾何学答案　平面之部		石川長橘	天野覚太郎	1895		A
359	UH41/62	数学教程　立体幾何学之部		陸軍士官学校	昌栄社	1894		A
361	UH41/65	チャールス・スミス氏小代数幾何学講義録	上	上野清	開新堂書店	1891		A
366	UH41/71	算術教科書	下	飯田與三	攻玉社出版	1886		A
369	UH45/10	新選地文学		山上萬次郎（編）	冨山房	1896		A
370	UH45/11	化石学校教科書	下巻	横山又次郎	冨山房	1897		A
372	UH45/21	新地理学　外国之部		松島剛	春陽堂	1897		A
375	UH45/29	地理術語及地名対照表		陸軍中央幼年学校（編）		1913		A
378	UH45/9	新選地文学		山上萬次郎（編）	冨山房	1898		A
386	UH49//58	大学鉤食養乃調和					表紙のみ	A
388	UH49/17	北海道衛生史		小松梧楼	北海石版所活版部	1914		A
391	UH49/23	皮膚病梅毒論　皮膚病篇		村田謙太郎	丸善商社書店	1888		A
392	UH49/24	皮膚病梅毒論　皮膚病篇		村田謙太郎	丸善商社書店	1888		A
393	UH49/33	肺結核病撲滅論		牧野千代蔵	私立大日本牧野沃度研究所	1917		A
399	UH49/56	心身摂養　自然の薬石		別所彰善	盛文館	1912		A
402	UH49/68	鹿児島県壮丁の体格不良の原因に就て		西盛之進	嘉定社	1918		A
403	UH49/71	食養道		飯田彬（編）	正食庵	1929		A
406	UH5/20	大正四年朝鮮総督府平安南道統計年報						A
407	UH50/1	東京工業試験所報告・「ニトロベンゼン」電解的還元ニ就テ		井上春成	東京工業試験所	1920		A
408	UH50/2	東京工業試験所報告・毛布捺染試験成績		荒井谷吉	東京工業試験所	1920		A
409	UH51/1	登録実用新案第22053号　鉄網混凝土説明		川崎實美	川崎工場	1912		A
414	UH59/4			杉田雲南	大盛堂書店		奥付のみ	A
415	UH59/6	住宅改良会趣意書		橘口信助		1915		A
416	UH60/2	岡山県産業概観　附録岡山県名勝案内		岡山県内務部		1919		A
418	UH60/5	久留米餅と本村		本村合名会社（編）		1911		A
419	UH67/10	日本興行銀行十年史				1911		A
420	UH67/19	東洋製鉄株式会社創立意見書		雨宮敬次郎		1897		A
422	UH67/25	最新式商業の実際		浜田四郎		1907		A
424	UH67/4	大正四年釜山港貿易概覧		釜山税関				A
427	UH68/124	航空記事　行幸記念号	第131	森川康郎（編）	陸軍航空本部内航空	1933		A
431	UH72/1	新選書鑑	巻中	玉木愛石	光風館	1917		A
432	UH72/10	新選書鑑	巻上	玉木愛石			表紙のみ	A
433	UH72/8	〔処州万象山崇福寺記〕					経文の刷物集	A
435	UH78/13	婦人護身術教範					表紙のみ	A
436	UH78/41	剣術用具ノ手入れ方法					表紙のみ	A
443	UH913/2	初陣		原田政右衛門	実業之日本社	1912		A
445	UH913/23	台湾土産喜劇生蕃襲来		太郎冠者	趣味社	1913		A
448	UH913/26	更正の誕生日		池田龍一	早稲田大学出版部	1928		A
449	UH913/27	歴史物語山中幸盛						A
450	UH913/28	童話集　ノアの船		津田道將	厚生閣	1925		A
451	UH913/29	修身文庫お伽1学年		藤川義雄	敬文館	1916		A

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
453	UH913/30	修身文庫お伽2学年		藤川義雄	敬文館	1916		A
454	UH913/31	修身文庫お伽3学年		藤川義雄	敬文館	1916		A
455	UH913/32	修身文庫お伽4学年		藤川義雄	敬文館	1916		A
456	UH913/33	修身文庫お伽5学年		藤川義雄	敬文館	1916		A
457	UH913/34	修身文庫お伽6学年		藤川義雄	敬文館	1916		A
458	UH913/35	湖水の金　世界童話集						A
459	UH913/36	学校家庭世界お伽雛の兄弟		波山良平	石村天分社	1921		A
463	UH913/8	三大悲劇第二巻祖国		長田秋濤（訳）	隆文館	1906		A
465	UH914/1	銀杏の葉隠		茅原華山	実業之日本社	1915		A
480	UH92/2	北信小草		李斗璜	池田晋	1898		A
481	UH92/3	受難嵐に歌ふ		田尻隼人	聖日本学会	1930		A
483	UHJ2/1	偉人の幼年時代	第11編	碧瑠璃園	大鐙閣	1922		A
486		皇道之真義		北原宣明	皇道会出版部蔵版		表紙のみ	A
487		新選書鑑	巻下	玉木愛石			表紙のみ	A
488		体格栄誉判定法（抜粋）					表紙のみ	A
489		四十三年改訂戦術学教程巻三附					表紙のみ	A
494		陸軍改造論		佐藤貞次郎（編）	東亜経済調査局	1930	奥付のみ	A
497				玉木愛石	光風館書店	1918	奥付のみ	A
498				三省舎（編）	三省舎	1916	奥付のみ	A
502		〔オキシヘーラーについて〕		矢部泰造（編）	オキシヘーラー奨励	1917		A
503		戦術学教程	巻2			1915	表紙のみ	A
504		中学学校修身読本	巻2				表紙のみ	A
506		釜山港経済一斑		釜山商業会議所(編)		1916		A
507		空閑少佐を想ふ		陸軍士官学校第22期生会(編)		1932		A
510		本社営業概況		東洋拓殖株式会社	東洋拓殖株式会社	1917		A
512		和春連歌多寿						A
516		［各種権利について］						A
517		史伝叢書　石田三成		斎藤嘉吉(編)	統文館	1911		A
525		思想問題十五講		伊藤惠（編）	日進堂	1935		A
527		財界先見学（ビジネスバロメター）		日向利兵衛	東京堂	1921		A
534		めぐろ小国民読本	理科篇4年前	田中豊太郎（編者代表）	目黒書店	1947		A
536		訂正女子修身教科書	巻1	井上哲次郎				A
537		東京書籍商共立会第廿壱回図書糶市会出品目録					UH02/1と同一物か	A
540		源氏物語	1	与謝野晶子（訳）	三河書房	1951		A
541		西洋上古史						A
548		大村益次郎		佐山咲平	学習社	1942		A
549		SHIKANGAKKO　Cours　de Francais			陸軍士官学校	1913		A
550		蒐集資料目録	第17号	陸軍技術本部（編）		1932		A
551		石田三成		齋藤嘉吉	統文館	1911		A
552		民法草案講義目録						A
559		〔反古一括〕						A
564		大陸	182号		大陸社	1928		A
573		新判例体系　民事法編　商法（４）			新日本法規出版	1953		A
582		趣味の国史物語　日出づる国		沼田利三郎	日本出版社	1941		A
585		細胞の霊能と教育との関係　心身養成論		安富衆輔	実業之日本社	1921		A
586		森林生活　生の價値		トロー(著)水島耕一郎　(訳)	東京　中央出版社	1925		A
590		童話教室		日本童話協会(編)				A
592		銀座風来坊		萩原秀夫	雄文社	1959		A
593		青年の椅子		源氏鶏太	講談社	1962		A
595		初学年の英作文		高橋　盛雄	大盛堂書房	1952		A
596		家庭礼節　婦徳之修養		棚橋　絢子女史	泰山房	1917		A
601		明治大学史		田能邨梅士	明治大学出版部	1911		A
602		標註参孝　新古今和歌集			六合館	1907		A
603		明治三十七年戦役　忠勇　美譚	第4編	教育総監部		1907		A
605		昭和十四年　小学年鑑			東京　小学年鑑刊行	1939		A
606		鹿児島県産業案内						A
609		台湾蛻計画金			凸版印刷株式会社	1912		A

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
613		佛国検官必携	1帙上巻	抹撒比荷（著）黒川誠一郎（訳）	司法省（蔵版）	1887		A
615		佛国検官必携	3帙上巻	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1882		A
616		佛国検官必携	第2帙上巻	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1882		A
617		佛国検官必携	第1帙下巻	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1882		A
618		佛国検官必携	第3帙下巻	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1882		A
619		佛国検官必携	第2帙下巻	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1882		A
620		佛国検官必携	附録総目録	抹撒比荷（著）高木豊三（訳）	司法省（蔵版）	1883		A
622		大菩薩峠	第5巻	中里幸	株式会社日蘇通信社中里介山全集刊行会	1948		A
630		趣味の地理　名所と史蹟		菜多　默太郎	日本出版社	1924		A
631		南の国のお話		郡山千冬	株式会社　婦女界社	1942		A
632		これは面白い　日本地理の話		玉川紫水	自光社出版部	1924		A
633		陸軍少年飛行兵		榊原良平	研進社	1943		A
634		北条時宗と忽必烈		白井喬二	日本出版配給株式会	1942		A
635		史那の歴史物語		沼田利三郎	合資会社　東京三友	1938		A
643		教育童話叢書　モデルのお爺さ	9	大淵小華	駸々堂印刷部	1922		A
648		宇宙と星		宮本正太郎・上野季	西日本新聞社	1948		A
650		小学生全集第六十九巻　子供生理衛生物語		正木不如丘	文藝春秋社	1928		A
660		日本国民史　建国より平安朝へ	第1巻	小林鶯里	文藝社	1924		A
661		魔女のおどり		鈴木三重吉	アテネ出版社	1949		A
675		重訂　日本刑法　総論		牧野英一	有斐閣	1938		A
679		太陽	10月号,11月号,12			1915		A
687		生理学教科書		渡瀬庄三郎	開成館	1903		A
691		藤田式息心調和　児童修養法		藤田霊齋	養眞会	1917		A
697		受験予備　幾何　考へ方ト解キ		藤森良蔵	青野文魁堂	1916		A
700		現代経済学業書　日本インフレーションの分析	12	山口茂・樋口午郎	東洋経済新報社			A
711		贈正四位梅田雲濱先生小伝				1908		A
714		化学鉱物新教科書		池田菊苗・草野金松				A
3	319/38	国際月報		情報局（編）	内閣印刷局	1942		B
45	UH05/272	明倫	第1巻第1号3月号、第1巻第3号5月号、第1巻第4号6月号、第1巻		明倫会出版部	1933		B
103	UH17/20	護王神社誌					表紙のみ	B
104	UH17/20	護王神社誌		下田新左衛門（編）	別格官幣社護王神社々務所	1932		B
108	UH19/3	死の彼方（霊魂問題の聖書的批判）		カーライル・ビー・ヘインス（原著）山崎郇山・和地永生	末世之福音社	1920		B
119	UH21/54	満州建国大秘史		川島浪速・山中峯太郎・中野江漢	新潮社	1933		B
156	UH30/2	日本膨張論		後藤新平	通俗大学会	1916	UH29か	B
167	UH31/129	欧州諸国ノ拓殖行政		拓殖局	拓殖局			B
183	UH31/95	永遠の戦		鹿子木員信	同文館	1915		B
187	UH32/115	商法総論		志田鉀太郎君	明治大学出版部			B
203	UH33	法学新報	21巻2.3.4.5.8号		法学新報社	1911		B
207	UH33/28	経済読本					表紙のみ	B
212	UH33/71	日本銀行株主姓名表				1912		B

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
214	UH33/86	能率読本		上中甲堂	中外産業調査会	1926		B
249	UH39/197	戦陣叢話	第4輯	浅井壽平	軍事討究会	1929		B
383	UH48/2	中等教育　動物教科書		兵浅次郎	開成館	1912		B
384	UH48/3	中等教育　動物教科書		兵浅次郎	開成館	1912		B
397	UH49/54	岡田式静座の力		橋本五作	松邑三松堂	1917		B
426	UH68/123	朝鮮鉄道史			帝国鉄道協会	1915		B
429	UH68/130	日本海運論		矢野芳弘（編）	日本経済会	1894		B
438	UH83/17	NEW　LANGUAGE　READERS	BOOK5	塩谷栄（著） W.E.L.SWEET 校訂	開成館	1914		B
467	UH914/12	盤水漫草補遺		大槻茂雄	大槻茂雄	1914		B
475	UH915/3	白い着物と黒い衣装		川田明彦（編）	宮崎県立都城商工学校鮮満旅行記編輯部	1917		B
476	UH916/2	増訂桂月書翰		大町芳樹	修学堂書店	1910		B
477	UH916/3	書翰講義		大町桂月（著）金重輝一（編）	日本書翰学会出版部	1912		B
495		改修　中学修身書		澤柳政太郎	株式会社同文館蔵	1914	表紙のみ	B
513		現代文学読本(第2版)	上編	明治書院編集部(編)	明治書院	1925		B
533		安心生活		椎尾辨匡	良書刊行会	1917		B
554		偕行社記事	臨時増刊第1輯～第2輯・第14輯～20輯	椎川亀五郎（編）	偕行社	1914～1915		B
571		法学新報	第38巻7号～12号			1928		B
574		昭和婦人新文庫	婦人倶楽部第9巻第1号附録	福山秀賢（編）	大日本雄弁会講談社	1928		B
589		原始生命論		鈴木鷲山	東京　東書店	1921		B
591		日露観戦雑記／弾痕抄		マックス・ベールマン　（著）戦記名著刊行会　（編）	戦記名著刊行会	1930		B
598		満洲国成立の經緯と其国家機構に就て		陸軍省調査班		1932		B
599		僕らの戦時発明		金藤正治	山海堂	1944		B
600		銀行実践法		增井增次郎	博文館	1987		B
646		外交時報	第35巻第9号		外交時報社	1922		B
647		外交時報	第35巻第10号		外交時報社	1922		B
654		法学新報	第32巻			1922		B
655		法学新報	第39巻7,8,9,10,11,		有斐閣	1929		B
656		法学新報	第25巻7,8,9,10,11		有斐閣	1915		B
657		法学新報	第40巻1,2,3,4,5,6		有斐閣	1930		B
673		京都法学会雑誌	第5巻第2,3,4,		京都法学会	1906		B
674		京都法学会雑誌	第5巻第7,8,9,		京都法学会	1906		B
676		法学新報	第41巻第1,2,3,4,5,6		有斐閣	1931		B
677		法学新報	第39巻第1,2,3,4,5,6		有斐閣	1929		B

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
678		法学協会雑誌	第25巻第			1909		B
682		戦争と少女		生田葵	株式会社　改洋社出版部	1941		B
683		法学新報	第41巻第7,8,9,10,11,			1931		B
702		全国社会教育の趨勢		文部省普通学務局		1921		B
719		大審院刑事破毀判例	下巻					B
720		政教概論　如是我観		島田三郎	警醒社書房	1902		B
485		極東時報	1巻5号～12号	アルベール・メーボン	極東時報社	1916～1917	合冊	B
627		児童の數学		仲木三二	東洋図書株式合資会	1925		B
12	U47/5	中等教育植物教科書		藤井健次郎	開成館	1912		B 1
24	UH03/6	国語教程	巻3	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913		B 1
25	UH03/6	国語教程	巻3	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913	表紙のみ	B 1
48	UH05/319	華族会館報告	第28号第29号			1913 1914	合冊	B 1
75	UH15/124	改修　中学修身書	巻2					B 1
77	UH15/136	家庭百話		樋口蘭林(編)				B 1
89	UH15/74	忠孝美談保少年		島本民蔵・田中為吉	保少年後援会本部	1926		B 1
105	UH17/21	惟神の大意		辻村楠造	文政社	1931		B 1
166	UH31/128	鹿児島県治概要		鹿児島県		1917		B 1
181	UH31/8	支那飢饉救済宣伝の魂胆と米国の陰謀に就て		石山根倬三				B 1
300	UH39/399	交戦諸国の陸軍に就て		枝国卯三郎	偕行社	1919		B 1
349	UH41/11	自問自答立体幾何学問題通解		数理学会	日進堂書店	1912		B 1
351	UH41/17	代数学知識の整理		森田幸次郎･岩田久吉		1914		B 1
379	UH47/2	中等教育　植物教科書		藤井健次郎	開成館	1912		B 1
382	UH47/5A	中等教育　植物教科書		藤井健次郎	開成館	1912		B 1
447	UH913/25	妻ノロジー		重永義栄	吉田書店	1916		B 1
468	UH914/13	今橋将軍遺艸		笹村鉄熊	闡幽会	1931		B 1
482	UH92/4	女子教科漢文教科書	巻1	小山左文二	目黒書店	1912		B 1
508		甲斐の家都登						B 1
509		南満州鉄道株式会社事業概況				1916		B 1
572		民事訴訟法第六編以下		松岡義正	中央大学			B 1
628		鐵と石油		川崎喜一	文洋社	1924		B 1
717		童話集		吉屋信子	洛陽堂	1920		B 1
8	H913/26	我が家の風		堤千代				B 2
22	UH03/4	国語教程	巻1	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913		B 2
23	UH03/5	国語教程	巻2	陸軍中央幼年学	陸軍中央幼年学校	1913		B 2
68	UH15/111	成功論		塚越芳太郎	民友社	1902		B 2
74	UH15/123	改修中学修身書	巻1	澤柳政太郎	株式会社同文館蔵	1914	表紙別にあり	B 2
312	UH39/466	忠芬義芳録						B 2
444	UH913/20	青い鸚鵡		鈴木三重吉	春陽堂	1917		B 2
649		学童用模型飛行機とグライダーの作り方		鈴木正五	株式会社　科学教材社	1941		B 2
692		FREDERICK THE GREAT AND HIS COURT		LOUISA MUHLBACH				B 2
708		大東亞風雲録	上巻	岡本瓊二	大成社	1944		B 2
709		大東亞風雲録	下巻	岡本瓊二	大成社	1944		B 2
208	UH33/3	郵便為替貯金事業概要別冊		郵便為替貯金管理所	忠愛社	1909		B 3
1	”32/10	改正　道路交通取締関係法令集		西東社編集部	西東社	1950		C
2	159/41	少年訓		曽根松太郎	金港堂書籍	1909		C
4	901/152	文学史方法論		三木清	岩波書店	1946		C
5	91/54	サイパン最後の記録		篠塚吉太郎				C
6	H49/5	喫茶新養生記		諸岡存				C
7	H913	ほまれ		柳川春葉	正午出版社	1917		C
9	U156/5	武士道史十講		清原貞夫	目黒書店	1927		C
11	U40/11	日本の科学界		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1917		C
14	U9136/21	漱石全集　明暗	第7巻	夏目純一				C
15	U9136/22	樗牛全集　想華及消息	第5巻	高山林次郎	博文館	1906		C
19	UH02/3	陳列図書目録		宮内庁図書寮				C
20	UH02/4	児玉文庫一覧						C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
21	UH03/2	国民之教養		北原種忠	皇道会出版部	1912		C
28	UH04/1	辜鴻銘講演集		大東文化協会（編）	大東文化協会	1921		C
30	UH04/11	帝国の危機		大谷光瑞	民友社	1919		C
31	UH04/12	福島大将講演剛健主義		綿貫仁門（編）	小林川流堂	1917		C
32	UH04/13	米糧問題懸賞論文集		仁丹本舗（編）	文明社印刷所	1919		C
34	UH04/16	学術講演録	第2集	大日本文明協会	文明書院	1916		C
35	UH04/17	学術講演録	第3集	大日本文明協会	大日本文明協会事務	1916		C
36	UH04/2	文明の極致		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1919		C
38	UH04/4	明治聖徳記念学会紀要	第14巻	明治聖徳記念学会	明治聖徳記念学会	1920		C
42	UH04/8	皇紀震張　老のくりこと		甲斐順宜	川越活版所	1912	書状の挟み込あり	C
43	UH04/9	簡易生命保険創始十周年記念講演集	中	簡易保険局（編）	簡易保険局	1927		C
49	UH05/321	地方資料	第1編 第2編	内務省地方局（編）				C
50	UH05/322	国民之友	第1集	上田捨吉（翻刻・出版人）	国友館	1887		C
55	UH05/354	『時事』年鑑			時事新報社	1921		C
56	UH07/2	新聞総覧		光永真三	日本電報通信社	1911		C
57	UH114/121	思想悪化真因と唯一救済策		加藤確治	惟神教壇	1925		C
58	UH115/120	思想悪化真因と唯一救済策		加藤確治	惟神教壇	1924		C
59	UH115/64	青年道揆		岩垂憲徳	恒次史朗	1926		C
60	UH128/19	御即位式記念				1915		C
61	UH14/119	思想悪化真因と唯一救済策		加藤確治	惟神教壇	1923		C
62	UH15	労務一家言	上編	矢野政二	時事評論社	1922		C
63	UH15/101	教育勅語の精神		中央教科団令連合会（編）	中央教化団令連合会		表紙のみ	C
64	UH15/104	大聖典教育勅語		辻村楠造	又玄社	1927		C
65	UH15/105	今上詔勅集		福田滋次郎	晴光館書店	1910		C
66	UH15/108	朝見式勅語要義		佐藤光峰	如意輪堂	1912		C
69	UH15/113	家庭訓育百話		秦政治郎	金港堂書籍株式会社	1910		C
71	UH15/117	思想悪化真因と唯一救済策		加藤確治	惟神教壇	1921		C
72	UH15/118	思想悪化真因と唯一救済策		加藤確治	惟神教壇	1922		C
73	UH15/122	修身読本	巻3	荻原擴	日本出版社	1929		C
76	UH15/125	吾等の信念		大妻良馬	大妻同窓会出版部	1926		C
78	UH15/26	単純生活		中村嘉壽	警醒社	1913		C
79	UH15/27	人の運		大町桂月	至誠堂書店	1913		C
82	UH15/55	諸子神髄		長島万里				C
85	UH15/62	現在的活動主義		小川煙村	有楽社			C
86	UH15/63	頭山翁清話		柴田徳次郎	大民倶楽部	1923		C
88	UH15/73	静思健闘		田中穂積				C
90	UH15/75	働の心		篠塚千太郎	働の自然社	1919		C
92	UH15/77	心胆の修養		蘆川忠雄	下村書房	1918		C
93	UH15/78	修養		新渡戸稲造		1965		C
94	UH15/79	楽しい人生						C
98	UH16/3	宗教要覧		文部省宗教局		1916		C
100	UH17/10	皇道の真義		北原種忠	皇道会出版部	1921		C
102	UH17/2	神宮綜覧		神宮司廳編纂	国史研究会	1918		C
106	UH17/22	参宮の栞		神宮神部署	神宮神部署	1927		C
107	UH19/1	基督伝		ニコル（著）柏井園（訳）	警醒社書店	1909		C
109	UH20/12	陸奥評林		佐藤彌六		1915		C
110	UH20/17	明治天皇大阪行幸誌		市立大阪市民博物館	大阪市役所	1921		C
115	UH21/45	京都温故誌		上村長一	松田庄助	1895		C
116	UH21/46	幕末政治家		福地源一郎	民友社	1900		C
118	UH21/54	朝鮮移住案内		東洋拓殖株式会社（編）	東洋拓殖株式会社	1917		C
121	UH22/20	西洋文明の没落　東洋文明の勃		福澤桃介	ダイヤモンド社	1932		C
122	UH22/21	新編外国歴史教科書		中村久四郎	三省堂			C
123	UH22/22	建国詮真		徐樹錚	実業補習科実科	1926		C
124	UH23/1	西洋文明の統一		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1919		C
125	UH23/2	猶太民族の大陰謀		酒井勝軍	内外書房	1924		C
126	UH23/3	連盟脱退と非常時日本の覚悟		二見甚郷	外事知識普及会		松岡洋右による序文あり。	C
127	UH23/7	西洋歴史		白鳥庫吉	冨山房			C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
128	UH26/1	近世楽典教科書		田村虎蔵（編）	東京開成館	1903		C
130	UH28/17	華族名簿					表紙のみ	C
133	UH29/47	大阪府治要覧		大阪府(編)	大阪府	1914		C
134	UH29/49	イスラム巡礼白雲遊記		田中逸平	歴下書院	1925		C
135	UH29/50	人間群勢要覧						C
136	UH29/53	満州要覧		遼東兵站監部(編)	遼東新報社	1905		C
138	UH29/59	青森県に於ける明治天皇の御遺		青森県	青森県	1915		C
139	UH29/65	台湾の一年		川村竹治	時事研究会	1930		C
141	UH29/69	世界英傑巡礼		山本英輔・太田正孝	宝文館	1927		C
145	UH29/85	島根県産業案内		島根県内務部	島根県内務部	1912		C
146	UH29/86	島根県産業案内		島根県内務部	島根県内務部	1912		C
148	UH290/49	イスラム巡礼白雲遊記		田中逸平			表紙のみ	C
149	UH292/14	欧州小観わらはの旅		森律子	博文館	1913		C
151	UH292/4	台湾事情		台湾総督府	台湾総督府	1916		C
152	UH292/6	満蒙独立建国論		高木翔之助	国民外交協会	1931		C
154	UH3/389	ナトルプかデュウェイか		渡部政盛	都村有為堂出版部	1924		C
158	UH30/6	名古屋案内		名古屋開府三百年記念会編纂	扶桑新聞社	1910		C
159	UH30/6	田園都市		内務省地方局有志編纂	博文館	1907	名古屋案内と番号同じ	C
160	UH304/1	昭和一新論		徳富猪一郎	民友社	1927		C
161	UH304/4	日本の現在及将来		田尻稲次郎	同文館	1910		C
163	UH31/115	劉張変法奏議		東亜同文会	同文館	1902		C
164	UH31/119	支那の真相		大河平隆光	大阪屋号			C
168	UH31/13	昭和の新理想と世界美化		中柴末純	大阪宝文社	1927		C
170	UH31/14	満蒙の危機		大石隆基	国交通信社	1931		C
171	UH31/15	亜州之日本　附人類論		王朝佑	日文専修学校	1928		C
172	UH31/25	現行警察法規		修文館編輯所（編）	修文館	1902		C
173	UH31/33	日露戦局講和私議		西澤之助	国光社	1905		C
175	UH31/41	政党政治廃棄論		岸原鴻太郎	堀越幸	1911		C
176	UH31/5	支那の現状		大谷光瑞	国民新聞社	〔1919〕	講演記録の冊子	C
177	UH31/6	支那の現状		大谷光瑞	国民新聞社	〔1919〕	講演記録の冊子	C
178	UH31/7	満蒙管理論		細野繁勝	民友社	1928		C
182	UH31/93	世界を統一するもの		大森朴堂	中堅社	1931		C
184	UH32	大審院刑事						C
189	UH32/129	法学通論		織田萬	宝文館、有斐閣書房、吉岡書店	1902		C
191	UH32/4	法学通論		筧克彦	日本大学			C
193	UH32/52	〔法令集〕						C
194	UH32/53	商法草案						C
195	UH32/54	〔法令集〕						C
196	UH32/55	民法要論		鈴木喜三郎	早稲田大学出版部			C
197	UH32/57	民法（草案）						C
201	UH32/8	大審院刑事判決録					明治17年7月分	C
202	UH32/9	大審院刑事判決録					明治17年10月分	C
206	UH33/2	郵便為替貯金事業概要		郵便貯金局	東洋印刷株式会社	1910		C
209	UH33/33	進取乎将又退嬰乎		松方幸次郎		1925	表紙別にあり	C
210	UH33/60	殖民地便覧		内閣拓殖局		1926		C
220	UH35/42	台湾統計要覧		台湾総督府	台湾総督府	1912		C
221	UH35/43	台湾統計要覧		台湾総督府	台湾総督府	1912		C
223	UH36/1	生存と思想開展		常田力	青年公論社	1924		C
224	UH36/22	独逸の職業組織		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1918		C
225	UH36/23	婦人運動		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1918		C
227	UH36/28	東北九州災害救済会報告書		東北九州災害救済会	東北九州災害救済会	1914		C
228	UH36/29	模範自治奥戸村の経営と関根君		石田博吉	報徳書院	1922		C
229	UH36/29	猶太禍		北上梅石	内外書房	1923		C
231	UH36/30	国民消防		松井茂	松華堂	1926		C
235	UH36/33	社会保険		シーガー	郵便貯金局	1912		C
236	UH36/4	少年団と青年団		森下岩太郎	文会堂書店	1916		C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
239	UH37/46	青年の新理想		松本君平	大日本文華株式会社出版部　南北社	1920		C
240	UH37/51	東西名士発奮之動機		南条文雄	実業之日本社			C
243	UH38/3	日章旗考		真田鶴松	帝国教育会	1911		C
245	UH38/6	北海道旧土人					表紙のみ	C
246	UH39/186	兵役革新論		松島剛	大和商店	1927		C
247	UH39/187	血染の雪		山崎千代五郎	山崎千代五郎	1927		C
248	UH39/188	血染の雪		山崎千代五郎	山崎千代五郎	1927		C
250	UH39/198	自然の地形を熟視して		赤松寛美	軍友会出版部	1926		C
253	UH39/233	空中之経営		高塚彊	隆文館	1909		C
257	UH39/244	戦闘上ニ於ケル歩兵		仏国陸軍中佐ド・ユリニー（著）本社（訳）椎川亀五郎	偕行社	1909		C
258	UH39/245	万国勲章略誌	第1巻	平井希昌（纂訳）	受徳堂	1895		C
259	UH39/247	基本戦術摘要解義	第5編	雲外居士	小林又七支店	1899		C
260	UH39/248	基本戦術摘要解義	上巻第3・4編	雲外居士	小林又七支店	1899		C
261	UH39/249	基本戦術応用講義		河井源三	有則軒	1898		C
262	UH39/251	極東防衛論		鈴木一馬	太陽社	1933		C
263	UH39/252	白色人種を敵として（戦わねばならぬ理由）		渡部求（編）	文章院	1932		C
264	UH39/253	忠勇列伝　満州上海事変之部	第1巻	勝本永次（編）	忠勇顕彰会	1932		C
265	UH39/257	日米戦争の勝敗		井上一次	一元社	1932		C
266	UH39/265	応用戦術講義録	後編	監田武夫・司馬享太	佐藤栄政	1899		C
268	UH39/290	白耳義と欧羅巴戦乱		ジョールヂュ・ドラ・フアイユ	白耳義公使館	1915		C
269	UH39/291	自国を誤り世界に災せる独逸の主戦論		早稲田大学編集（訳）	早稲田大学出版部	1915		C
270	UH39/294	兇独		ピエール・ノーソン（著）藤田進一郎（訳）	魁真書楼	1917		C
271	UH39/297	独逸の肉弾		ヘッケル（著）芹沢登一（訳）	戦時文学会	1916		C
272	UH39/298	独逸の肉弾		ヘッケル（著）芹沢登一（訳）	戦時文学会	1916		C
273	UH39/299	独逸の肉弾		ヘッケル（著）芹沢登一（訳）	戦時文学会	1916		C
277	UH39/322	将校の戦術教育	巻1	リーツマン（著）河村正彦（訳）	偕行社	1899		C
298	UH39/393	日本を守る潜水艦		福田一郎	政教社	1930		C
299	UH39/397	大正六年陸軍特別大演習滋賀県記録		滋賀県		1919		C
303	UH39/414	兵家徳行演義　一名　軍人の徳		龍川賢流		1884		C
304	UH39/452	満蒙処分論		露国クロパトキン(著)大井包孝(訳)	民友社	1914		C
305	UH39/453	満蒙処分論		クロパトキン（著）大井包孝（訳）	民友社	1914		C
306	UH39/454	満蒙処分論		露国クロパトキン(著)大井包孝(訳)	民友社	1914		C
307	UH39/455	満蒙処分論		露国クロパトキン(著)大井包孝(訳)	民友社	1914		C
308	UH39/456	満蒙処分論		露国クロパトキン(著)大井包孝(訳)	民友社	1914		C
309	UH39/457	軍人精神訓		牧瀬五一郎・古川義夫（編）	陸軍中央幼年学校	1916		C
310	UH39/458	支那陸軍改造論		佐々木到一	東亜経済調査局	1930		C
311	UH39/461	日露交渉彙報		渡辺新太郎（編）	近藤活版所	1896		C
313	UH39/470	帝国国防の危機		佐藤清勝	豊誠社	1931		C
314	UH39/472	国防時論		半澤玉城	上田屋書店	1913		C
317	UH39/476	戦場に於ける歩兵の隊形及運動		BM（訳）伊藤芳	兵事雑誌社	1903		C
332	UH39/538	支隊戦術之研究	巻之2	雪峰氏	兵林館	1902		C
334	UH39/550	基本戦術講授録		松川敏胤	柴田源三郎	1897		C
336	UH39/552	数線陣地ノ攻防		高屋庸彦	陸軍大学校将校集会	1921		C
337	UH39/553	経済的軍備の改造		橋本勝太郎	隆文館株式会社	1921		C
352	UH41/2	平面三角法教科書		菊池大麓	大日本図書	1893		C
354	UH41/46	用器画法	巻１	平瀬作五郎（訳）	丸善商社書店	1891		C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
357	UH41/51	理論応用近世算術	下巻第１７編	上野清（編）		1896		C
360	UH41/64	平面三角法通解	中	原濱吉	二書房	1896		C
362	UH41/66	数学大全		林茂増	帝国教育研究会	1931		C
363	UH41/67	初等　解析幾何学	上冊	長澤亀之助（編）	数書閣	1895		C
364	UH41/69	数学教程	上	陸軍士官学校（編）	成城学校	1887		C
365	UH41/7	中学代数教科書		千本福隆	光風館書店	1914		C
367	UH41/9	新式　代数教科書	下巻	高木貞治	開成館	1912		C
368	UH43/2	最近化学界の驚異		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1918		C
371	UH45/12	鉱区一覧		朝鮮総督府（編）	朝鮮総督府	1917		C
373	UH45/24	鉱物調査報告第十一号付属図					北海道北部中央地域地質図	C
374	UH45/26	鉱物調査報告第十号付属図						C
376	UH45/39	鉱物調査報告第12号付図						C
377	UH45/7	地文学問答		冨山房（編）	冨山房	1898		C
380	UH47/3	植物学教程		白井光太郎・大津源三郎（編）	陸軍中央幼年学校	1913		C
381	UH47/4	中等植物教科書		松村任三・斎田功太郎（編）	大日本図書	1898		C
385	UH48/4	動物初歩		五島清太郎	金港堂書籍	1899		C
387	UH49/15	陸軍衛生制度史	第2巻	青木袈裟美	陸軍軍医団	1928		C
389	UH49/20	大和民族強健法		山田秀夫	強健社	1930		C
390	UH49/22	皮膚病梅毒論		村田謙太郎　伊勢錠五郎	丸善商社書店	1888		C
394	UH49/40	日本小児科叢書	第1篇	弘田長（監輯）唐沢光徳（著）	吐鳳堂書店	1916		C
395	UH49/41	神経健全法		グランヴイル（著）海嶽生（訳）	実業之日本社	1909		C
396	UH49/53	藤田式調和法前伝略解		藤田靈齋	養眞会出版部	1922		C
398	UH49/55	生殖自然史　一名婚姻之栞		エフ・ホリック（著）隠岐敬治郎・大西直三郎（訳）		1896（カ）		C
400	UH49/60	本邦癩病叢録		坂井義三郎	雨潤会	1919	表紙のみ	C
401	UH49/67	禅と長寿法		足立栗園（編）	光融館	1907		C
404	UH49/75	熱帯病学		隈川基	南江堂書店	1912		C
405	UH49/8	薬物学		石原弘（編）	博文館	1901		C
410	UH56/1	東部内蒙古鉱産調査復命書	3	関東都督府民政部庶務課　編	関東都督府民政部庶務課	1916		C
411	UH56/15	新式普通　鉱物学教科書		脇水鐵五郎	内田老鶴圃	1897		C
412	UH56/2	東部内蒙古鉱産調査復命書	2	関東都督府民政部庶務課　編	関東都督府民政部庶務課	1916		C
413	UH56/3	東部内蒙古鉱産調査復命書	4	関東都督府民政部庶務課　編	関東都督府民政部庶務課	1917		C
417	UH60/4	産業組合要覧		農商務省農務局	農商務省農務局			C
421	UH67/21	会社法論		青木徹二	金港堂書籍	1904		C
423	UH67/26	商略		桑谷定逸	同文館	1913		C
425	UH68/118	コルソン氏　交通政策	世界経済叢書第1冊第3班	關一（解説）	同文館	1905		C
428	UH68/129	鉄道沿線　遊覧地案内		鉄道院	博文館	1913		C
430	UH68/132	鉄道講義要領		關一	同文館	1905		C
434	UH76/2	小学唱歌教授の改善方案		内藤俊二	大阪開成館	1923		C
437	UH83/15	NEW　ENGLISH　COURSE	No3.	南日恒太郎	三省堂	1916		C
439	UH83/20	NEW　ENGLISH　COURSE	NO.5				表紙のみ	C
440	UH913/14	伯爵銀次		渡辺黙禅	民友社		七郎か。1913か	C
441	UH913/15	伯爵銀次		渡辺七郎	民友社	1913		C
442	UH913/16	伯爵銀次		渡辺七郎	民友社	1913		C
446	UH913/24	不如帰		徳富健次郎	民友社	1909		C
452	UH913/3	天眼通	前編	村上信	至誠堂書店	1917		C
460	UH913/4	声		長田秀雄	天佑社	1920		C
461	UH913/5	鳩の家	上編	佐藤洽六	菊屋出版部	1915		C
462	UH913/6	地上　地に叛くもの	第2部	嶋田清次郎	新潮社	1920		C
464	UH913/9	伯爵銀次		渡辺七郎	民友社	1913		C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
466	UH914/10	新春消息屠蘇危言		蒼梧軒主人（述）矢野恒太（著）	矢野恒太	1919		C
469	UH914/2	兎糞録		和田垣謙三	至誠堂書店	1913		C
470	UH914/5	浪人となりて		永田秀次郎	耕文堂	1919		C
471	UH914/7	兎糞録		和田垣謙三			目次のみ	C
472	UH914/9	新春消息屠蘇危言		蒼梧軒主人（述）矢野恒太（著）	矢野恒太	1919		C
473	UH915/1	昨夢録		平山成信	青山書店	1925		C
474	UH915/2	王仁蒙古入記		上野公園	蚕都新聞社	1939		C
478	UH916/5	新撰詠歌法		武島又次郎	明治書院	1899		C
479	UH92/1	老子道徳経詩評		渡部求	文章院	1928		C
484	UJ91/1	日本全国　国民童話		石井　民司（編）	同文社	1914		C
490		国防時論					表紙のみ	C
491		人種差別撤廃問題―内外諸流の意見―			日星会		表紙のみ	C
492		国語教程	巻1	陸軍中央幼年学校（編）	陸軍中央幼年学校	1913	表紙のみ	C
493		出世之礎		野間清治			表紙のみ	C
496		田園都市					表紙のみ	C
499		古き外人の観たる日本国民性		虻川新（訳）			表紙のみ	C
500		国語教程		陸軍中央幼年学校（編）	陸軍中央幼年学校	1913	表紙のみ	C
501		進取乎将又退嬰乎		松方幸次郎			表紙のみ	C
505		大東亜決戦画集		国史名画刊行会	省文社	1943		C
511		少年乃木無人		猪谷不美男	伏見桃山(京都)報徳会総務所	1924		C
514		一日一訓その日の修養		太田雅夫(編)	崇文堂出版部	1937		C
515		平和か鉄血か		丘淺次郎・夏目漱石・大隈重信・半澤		1915		C
518		秋の一夜		小杉榲邨	青山清吉	1898		C
519		大倉邦彦選集		大倉邦彦	潮文閣	1942		C
520		世界文明の新紀元		柿崎正治	博文館	1919		C
521		独立自営		森村市左衛門（述）井上泰岳（編）	実業之日本社	1912		C
522		禅学活談		原僧運	弘学館書店	1912		C
523		思想善導の基準		増田義一	実業之日本社	1921		C
524		人情亡国論		大田正孝	萬里閣書房	1930		C
526		社会問題十五講		神代峻通（編）	教育研究会	1923		C
528		リンコーン物語		櫻井彦一郎	丁未出版社	1912		C
529		新家庭訓	家庭百科全書第1編	三輪田真佐子	博文館	1907		C
530		成功の苦悩	今日の教養書選8	シーブリー（著）關浩輔（訳）	教材社	1940		C
531		新日本の衣食住		賀川豊彦	朝日新聞社	1945		C
532		叙景叙情　美文大観		小宮水心	岡本偉業館	1906		C
535		倫敦タイムス社寄書		東京支社（編）		1906		C
538		薬局の実務簿記		高橋勝一	中央経済社	1955		C
539		次郎物語	第2部	下村湖人	角川書店	1951		C
542		長塚節歌集		齋藤茂吉（選）	岩波書店	1933		C
543		歎涕和歌集		宮地維宜（編）廣田榮太郎（校注）	岩波書店	1953		C
544		佐藤佐太郎歌集		宮柊二（解説）	角川書店	1953		C
545		闇の力		トルストイ	岩波書店	1927		C
546		ホイットマン詩集　草の葉		有島武郎（選訳）	岩波書店	1934		C
547		アルト　ハイデルベルク		マイアー・フェルスター（作）　番匠谷英一（訳）	岩波書店	1935		C
553		平和か鉄血か		丘淺次郎・夏目漱石・　大隈重信・半		1915		C
555		銀行実務誌		土子金四郎				C
556		韋駄天菩薩		吉田武三	同光社磯部書房	1953		C
557		通俗講話　佛教要義		加藤咄堂	柳原書店	1922		C
558		仮面を剥がれたる汎独政策		シエラダム博士（著）外務省臨時調査部（訳）	外交時報社	1918		C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
560		名探偵ホームズ全集（18）　土人の毒矢		山中峯太郎	ポプラ社	1962		C
561		ベンサムとコールリッヂ		ジョン・スチュアート・ミル（著）塩尻公明（訳）	有斐閣	1946		C
562		ウランバートル吉村隊―外蒙の幽囚―		山浦重三・蒲原正二郎・石井　栄次	明日香書房	1949		C
563		烈婦伝		博文館編輯局(編)	博文館	1911		C
565		台湾史と樺山大将		藤崎濟之助	国史刊行会	1926		C
566		近世生理学教科書		丘淺次郎	東京・大阪開成館	1906		C
567		生理学粋		山田薫・谷口吉太郎（訳）	南江堂書店	1924		C
568		立志小説　孝		稲岡奴之助	東盛堂書店	1914		C
569		新道徳論		浮田和民	南北社	1913		C
570		新国民の修養		浮田和民	群書堂書店	1914		C
575		柳の四季		堤千代	新潮社	1942		C
576		困苦に打ちかつた人人		佐藤道雄	興亜書局	1941		C
577		こどもせかいれきし		奥野庄太郎	目黒書店	1926		C
578		ウインストン・チャーチル		宮田峯一	新月社	1946		C
579		伝説　面白い日本歴史のお話	南北朝時代の巻	中村徳五郎(編)				C
580		祖先の生活		後藤守一	大日本雄弁会講談社	1944		C
581		新日本の小学国史	巻1	大久保馨	明治図書	1929		C
583		国史美談	中巻	北垣恭次郎	実業之日本社	1924		C
584		科学夜話　自然から人生へ		渡邊萬次郎	文敎書院	1926		C
587		教科摘要　学生の植物界		龜井忠一	株式会社　三省堂	1921		C
588		子供の科学　謎の生物界		小鹽義郎	東京　イデア書院	1924		C
594		私の太陽		井上友一郎	北辰堂	1956		C
597		日本での四ヶ年		E･G　ヴァイニング	文藝春秋新社	1951		C
604		美談逸話集		大日本雄弁会講談社	大日本雄弁会講談社	1932		C
607		天界の神秘		原正二	洛陽堂	1918		C
608		海事統計類纂			逓信省管船局	1913		C
610		九州産業の展望		財団法人　商工協会九州支部（編）	財団法人　商工協会九州支部	1946		C
611		若鷲となるまで		佐田侃三	新正堂	1944		C
612		萬歳		岩崎榮	泉書房	1944		C
614		国法汎論		イ・カ・ブルンチュリ　（著）加藤　弘之（訳）		1876		C
621		昔がたり		アナトール・フランス　（著）杉捷夫	岩波書店	1953		C
623		君も僕も少年兵		甲田正夫	大新社	1944		C
624		東宮大佐伝		長沼依山	至玄社	1941		C
625		維新の子供		原本秀雄	二松堂	1943		C
626		次郎物語	第1部	下村湖人	新小山文庫	1950		C
629		新日本の小学国史	3巻	大久保馨	明治図書株式会社	1930		C
636		家庭の新風味		堺枯川	東京　内外出版協会	1904		C
637		軍国美談　軍旗と共に		池田宜政	偕成社	1941		C
638		我国経済の戦争被害			経済安定本部総裁官房調査課	1948		C
639		音楽の話と唱歌集		兼常清佐				C
640		少年歴史物語						C
641		蝶になる		齋田喬	玉川学園出版部	1931		C
642		加藤清正						C
644		懸賞実演お話	第1輯	大塚講話会	隆文館株式会社	1925		C
645		動物界の不思議		谷口専治	偕成社	1941		C
651		満洲建国　少年大日本史第五十三巻		山本義夫	東京　建設社			C
652		ゆうれい船（上）		大佛次郎	朝日新聞社	1957		C
653		科学より見たる　趣味の旅行		松川次郎	有精堂書店	1926		C
658		金より物へ		小汀利得	千倉書房	1933		C
659		野心論		澤柳政太郎	実業之日本社	1915		C
662		現代法学全集	第32巻	末弘嚴太郎（編）	日本評論社	1930		C
663		現代法学全集	第7巻	末弘嚴太郎（編）	日本評論社	1928		C
664		現代法学全集	第13巻	末弘嚴太郎（編）	日本評論社	1929		C

通番号	分類番号	書名	巻号	著・編者	出版社	発行年	備考	ランク
665		現代法学全集	第9巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1928		C
666		現代法学全集	第36巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1931		C
667		現代法学全集	第12巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1929		C
668		現代法学全集	第27巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
669		現代法学全集	第8巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1928		C
670		現代法学全集	第33巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
671		現代法学全集	第11巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1929		C
672		現代叢書　最新科学		吉野作造（編）	民友社	1916		C
680		烈婦の面影		岩佐白鷗	実業之日本社	1911		C
681		古今　世界大海戦史		春籐興市郎	大同館書店	1927		C
684		教育者				1942		C
685		明治大帝		長谷川卓郎（編）	大日本雄弁会講談社	1927		C
686		人格養成論		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1917		C
688		自然之妙趣		石川成章	東亜堂書房	1914		C
689		石門心学の研究		白石正邦	成美堂書房	1920		C
690		克巳実話		安田善次郎	二松堂書店	1912		C
693		為替貯金読本		貯金局		1926		C
694		その日その日の物語	上巻	加藤末吉	実業之日本社	1925		C
695		その日その日の物語	中巻	加藤末吉	実業之日本社	1925		C
696		その日その日の物語	下巻	加藤末吉	実業之日本社	1925		C
698		世界童謡選集		松原至大	春秋社	1924		C
699		時局打開の経済策案		小林順一郎	国華会本部	1939		C
701		戦争の話		野瀬寛	厚生閣	1940		C
703		現代法学全集	第30巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
704		現代法学全集	第31巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
705		現代法学全集	第34巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
706		現代法学全集	第35巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1930		C
707		現代法学全集	第2巻	末弘巖太郎（編）	日本評論社	1928		C
710		春なき二年間		鈴木雅雄	自由出版株式会社	1948		C
712		智環啓蒙			鹿児島藩	1870		C
713		強制執行競売法判例総覧　続編	上巻	金澤潔・渡邊葆（共編）	帝国判例法規出版社	1936		C
715		勅諭						C
716		戦時及戦後の経済		大日本文明協会	大日本文明協会事務	1916		C
718		市町村執務要覧		大成会編輯局	大成会	1909		C

2008年度都城市立図書館委託事業

都城市立図書館所蔵「上原文庫」調査報告書

2009年3月31日発行

編者：山崎有恒（立命館大学文学部准教授）
共編：奈良勝司、藤野真挙、朝田健太
発行：立命館大学文学部日本史学専攻山崎研究室